

分野別協力教員リスト

領域	分野	研究キーワード	氏名	大学名	研究室 HP	研究者 総覧
数学・物理学系	応用物理学	ナノフォトニクス, 光機能有機材料, 非線形分光	岡田 佳子	電気通信大学	HP	総覧
		有機電子デバイス(液晶, 有機EL素子, 有機トランジスタ, 有機センシングデバイス, 有機太陽電池, フレキシブルエレクトロニクス)	岡田 裕之	富山大学	HP	総覧
		有機EL, 有機電子デバイス	中 茂樹	富山大学	HP	総覧
		光工学, 液晶工学(ディスプレイ, 発光素子, レンズ, 回折格子, ミラー, 干渉計, 偏光計測)	本間 道則	秋田県立大学		総覧
		光ファイバ光学, 光信号処理, 光信号源, 光導波路	來住 直人	電気通信大学	HP	総覧
		光波制御, 3次元物体形状計測, 情報通信	宮本 洋子	電気通信大学	HP	総覧
		太陽電池, 半導体, 量子ナノ構造	山口 浩一	電気通信大学	HP	総覧
		酸化物半導体, ガスセンサー, 薄膜, ナノ粒子	山崎 登志成	富山大学	HP	総覧
	数学	最適化, 工学基礎, 数理計画問題	村松 正和	電気通信大学	HP	総覧
	地球惑星科学	地球宇宙電磁環境, 宇宙プラズマ理工学, 大気電気学, 地震電磁気学	芳原 容英	電気通信大学	HP	総覧
		雪氷学, 地球物理学, 南極氷床, 氷河, 極地	亀田 貴雄	北見工業大学	HP	総覧
	物理学	希土類磁性半導体, 極低温物性	戎 修二	室蘭工業大学	HP	総覧
		低温物理学, 超流動, 量子流体固体, ナノグラファイト, 多孔質物質, 熱電材料, 電子輸送現象	柴山 義行	室蘭工業大学		総覧
		ラマン分光, 近接場光学	酒井 彰	室蘭工業大学	HP	総覧
		光波制御, 3次元物体形状計測, 情報通信	宮本 洋子	電気通信大学	HP	総覧
		レーザー物理学・工学, ファイバーレーザー, 固体レーザー, セラミックレーザー, 超短パルスレーザー, 高出力レーザー, 半導体レーザー, ビーム接合	白川 晃	電気通信大学	HP	総覧
		電気電子材料, 温度差発電	関根 ちひろ	室蘭工業大学	HP	総覧
		グラフェンの熱特性, 過渡フォノンのシミュレーション, 状態密度と熱伝導率の評価	ゾロツキヒナ タチアナ	富山大学	HP	総覧
		固体量子論, 超伝導, 量子輸送現象, スピントロニクス, 熱電効果	伏屋 雄紀	電気通信大学		総覧
	化学	基礎化学	金属錯体, 錯体触媒, 配位選択性	會澤 宣一	富山大学	HP
錯体化学, 発光, 酸化還元			柘植 清志	富山大学	HP	総覧
有機化学, 特に関有機光化学, 物理有機化学, 超分子化学, 光生物化学			平野 誉	電気通信大学	HP	総覧
材料化学		高分子合成・物性, 天然高分子, 液晶材料科学	氏家 誠司	大分大学	HP	総覧
		無機材料, セラミック, 炭素材料, 燃料電池	豊田 昌宏	大分大学	HP	総覧
		光機能性有機材料, 固体物理化学, 光化学	中野 英之	室蘭工業大学	HP	総覧
		高分子化学, 環境生化学, 生分解	中谷 久之	北見工業大学		総覧
材料化学, 界面科学, 高分子化学	吉見 剛司	大分大学	HP	総覧		
生体高分子化学, 硫酸化多糖質, 抗ウイルス作用機構, 構造解析, 酵素, 環境化学, バイオエタノール, バイオマス, DNA配列解析	吉田 孝	北見工業大学		総覧		
化学	複合化学	金属錯体, 錯体触媒, 配位選択性	會澤 宣一	富山大学	HP	総覧
		触媒分解, プラスチックリサイクル	上道 芳夫	室蘭工業大学	HP	総覧
		高分子合成・物性, 天然高分子, 液晶材料科学	氏家 誠司	大分大学	HP	総覧
		計測工学, 生物工学, バイオセンサ, バイオチップ	鈴木 正康	富山大学		総覧
		創薬システムエンジニアリング, PET画像診断, 分子標的医療, NEXT-A反応(化学酵素学的反応), 10BASE-T法(ウイルス上での精密有機合成), 分子進化工学, タンパク質, ペプチド, 人工アミノ酸, 超分子	瀧 真清	電気通信大学	HP	総覧
		生体高分子化学, 硫酸化多糖質, 抗ウイルス作用機構, 構造解析, 酵素, 環境化学, バイオエタノール, バイオマス, DNA配列解析	吉田 孝	北見工業大学		総覧
工学	機械工学	機械材料学 塑性加工学 トライボロジー	曾田 哲夫	富山大学		総覧
		砥粒加工, 切削加工, 工作機械, 超音波工学, 難削材の高効率加工	呉 勇波	秋田県立大学	HP	総覧
		高分子および高分子系複合材料の強度・吸水・耐久性・塑性加工	境 英一	秋田県立大学	HP	総覧
		塑性加工学(押出し加工, 工具・金型設計, 数値シミュレーションほか)	高辻 則夫	富山大学		総覧
		機械加工: 切削, 研削, 研磨, 超音波援用加工	野村 光由	秋田県立大学	HP	総覧
		知的精密加工, フラクタル, インタネット, CAD/CAM, 付加製造法, 生産システム, 持続可能な生産, システム設計理論, 製品開発, 意思決定	ウラ シャリフ	北見工業大学	HP	総覧
		切削加工, 研削加工, ドリル加工, 工具の設計, 工具摩耗, アルミニウム合金	山田 茂	富山大学		総覧
		木質系バイオマスを用いたバイオエタノール製造技術, 乾式微粉砕機, 低温工学, 伝熱工学	森 英明	秋田県立大学	HP	総覧
		バイオエタノール製造における前処理技術, 機械設計, 接合技術	高橋 武彦	秋田県立大学	HP	総覧
		接合, 固相接合, 摩擦圧接, 非鉄金属, 新素材	富士 明良	北見工業大学	HP	総覧
		亜臨界水, 有機毒物分解, ろ過濃縮	河合 秀樹	室蘭工業大学		総覧
		機械力学, 耐震	木村 弘之	富山大学		総覧
		実験力学, 高エネルギー白色X線, 非破壊評価, 生体力学, 生体硬組織	柴野 純一	北見工業大学	HP	総覧
		流体力学, 航空機空気力学, CFD/CFD融合, 翼/翼型の空力, 逆問題設計, 流体波動の制御(衝撃波低減, 津波減災)	松島 紀佐	富山大学		総覧
		固体力学(非弾性構成式, 損傷力学, 数値シミュレーション)	水野 衛	秋田県立大学	HP	総覧
		破壊力学, 金属疲労, 信頼性工学, トライボロジー	小熊 規泰	富山大学		総覧
		フルードパワーシステム, トライボロジー, 設計工学	風間 俊治	室蘭工業大学	HP	総覧

領域	分野	研究キーワード	氏名	大学名	研究室 HP	研究者 総覧
		材料疲労, 破壊靱性, ひずみ拘束, 超電導材料の機械的特性	笠場 孝一	富山大学		総覧
		高分子および複合材料の強度・破壊・接合・塑性加工等	邱 建輝	秋田県立大学	HP	総覧
工 学	機 械 工 学	流体工学	川口 清司	富山大学	HP	総覧
		磁性流体とNdFeB磁石を用いたマイクロデバイスの開発	須藤 誠一	秋田県立大学	HP	総覧
		エネルギーシステム, 熱エネルギーシステム, 電力システム, 運用計画, 複合エネルギー	小原 伸哉	北見工業大学	HP	総覧
		熱伝導率, 潜熱, 蓄熱, 相変化, 複合材料, 機能性材料, 熱物性	平澤 良男	富山大学		総覧
		燃焼学, 安全工学, 反応性熱流体工学, 廃棄物処理, 火災, 爆発	鶴田 俊	秋田県立大学	HP	総覧
		生産工学・環境工学	谷内 宏行	秋田県立大学		総覧
		精密機器システム	青山 尚之	電気通信大学	HP	総覧
		電磁力応用, 磁気工学, 電気機器工学, 電磁界解析	大路 貴久	富山大学	HP	総覧
		メカトロニクス, ロボティクス	笹木 亮	富山大学	HP	総覧
		ロボット工学, 計測工学, システム工学	下井 信浩	秋田県立大学		総覧
		インテリジェント制御, ロボット, ブレインマシンインタフェース, 非線形制御などの理論構築から産業応用	田中 一男	電気通信大学	HP	総覧
		知能機械学, 医用福祉工学	横井 浩史	電気通信大学	HP	総覧
	制振技術, 可変剛性型動吸振器開発	劉 孝宏	大分大学	HP	総覧	
	受動関節, 福祉・介護, 歩行アシスト, 生涯スポーツ	鈴木 聡一郎	北見工業大学	HP	総覧	
	建 築 学	建築材料・木質材料・木質構造	板垣 直行	秋田県立大学		総覧
		木質構造, 木質材料, 地震防災, 木材利用, 竹材利用	井上 正文	大分大学	HP	総覧
		環境・建築音響, 騒音制御, 室内音響設計	大鶴 徹	大分大学	HP	総覧
		建築環境学, 住宅の省エネルギーと健康性	長谷川 兼一	秋田県立大学		総覧
		建築構造学, 振動制御工学	菅野 秀人	秋田県立大学		総覧
		木材の化学加工・木質炭化	栗本 康司	秋田県立大学	HP	総覧
		コンクリート材料, 微粉砕乾燥スラッジ	佐藤 嘉昭	大分大学	HP	総覧
		建築構造学	西田 哲也	秋田県立大学		総覧
	工 業 化 学	高分子化学, 環境生化学, 生分解	中谷 久之	北見工業大学		総覧
		生体高分子化学, 硫酸化多糖質, 抗ウイルス作用機構, 構造解析, 酵素, 環境化学, バイオエタノール, バイオマス, DNA配列解析	吉田 孝	北見工業大学		総覧
	材 料 工 学	機械材料学 塑性加工学 トライボロジー	曾田 哲夫	富山大学		総覧
		電磁力応用, 磁気工学, 電気機器工学, 電磁界解析	大路 貴久	富山大学	HP	総覧
		鋳鉄, 軽量化, 高強度, 強靱化	長船 康裕	室蘭工業大学		総覧
		炭化ケイ素複合材料, NITE法	岸本 弘立	室蘭工業大学	HP	総覧
		ナノ粒子, エネルギー材料	葛谷 俊博	室蘭工業大学	HP	総覧
		水素吸蔵合金	齋藤 英之	室蘭工業大学	HP	総覧
	ラマン分光, 近接場光学	酒井 彰	室蘭工業大学	HP	総覧	
	工 学	材 料 工 学	光機能性有機材料, 固体物理化学, 光化学	中野 英之	室蘭工業大学	HP
シミュレーション, 材料設計, 酸化物セラミックス			澤口 直哉	室蘭工業大学	HP	総覧
耐摩耗材料・鉄鋼材料の強度評価			清水 一道	室蘭工業大学	HP	総覧
アルミニウム, 腐食, メッキ			世利 修美	室蘭工業大学	HP	総覧
無機材料, セラミック, 炭素材料, 燃料電池			豊田 昌宏	大分大学	HP	総覧
磁性材料・非平衡材料・磁性物理			尾藤 輝夫	秋田県立大学	HP	総覧
高熱伝導性バイオプラスチック			平井 伸治	室蘭工業大学	HP	総覧
有機化学, 特に有機光化学, 物理有機化学, 超分子化学, 光生物化学			平野 誉	電気通信大学	HP	総覧
材料化学, 界面科学, 高分子化学			吉見 剛司	大分大学	HP	総覧
接合, 固相接合, 摩擦圧接, 非鉄金属, 新素材			富士 明良	北見工業大学	HP	総覧
知的精密加工, フラクタル, インタネット, CAD/CAM, 付加製造法, 生産システム, 持続可能な生産, システム設計理論, 製品開発, 意思決定			ウラ シャリフ	北見工業大学	HP	総覧
ナノ・マイクロ構造, 材料組織, 電子顕微鏡, 析出, 相変態軽金属材料, 金属材料, アルミニウム合金, 銅合金, マグネシウム合金, 複合材料, 超伝導線材			松田 健二	富山大学	HP	総覧
超音波計測, 材料評価, 非破壊検査		三原 毅	富山大学	HP	総覧	
総 合 工 学		石炭ガス化, 石炭資源の有効利用	板倉 賢一	室蘭工業大学	HP	総覧
		ナノ粒子, エネルギー材料	葛谷 俊博	室蘭工業大学	HP	総覧
		非破壊検査技術, 計測工学	後藤 雄治	大分大学	HP	総覧
		流体力学, 航空機空気力学, CFD/CFD融合, 翼/翼型の空力, 逆問題設計, 流体波動の制御(衝撃波低減, 津波減災)	松島 紀佐	富山大学		総覧
	パワーエレクトロニクス, 電気機器工学	飴井 賢治	富山大学	HP	総覧	
パワーエレクトロニクス, 制御工学	樋口 幸治	電気通信大学	HP	総覧		
スイッチング電源・DC-DCコンバータ開発, 小型化・高効率化	鍋島 隆	大分大学		総覧		
スイッチング電源・DC-DCコンバータ開発, 小型化・高効率化	西嶋 仁浩	大分大学	HP	総覧		
半導体電子工学, 電子デバイス, 量子効果デバイス, 集積回路工学	前澤 宏一	富山大学	HP	総覧		

領域	分野	研究キーワード	氏名	大学名	研究室 HP	研究者 総覧
		電気電子工学, 磁気工学	甲斐祐一郎	大分大学	HP	総覧
		バイオセンサー, ウエハー加工	福田 永	室蘭工業大学	HP	総覧
		太陽電池, 半導体, 量子ナノ構造	山口 浩一	電気通信大学	HP	総覧
		制御工学	新 誠一	電気通信大学	HP	総覧
		システム制御理論, 確率システムの推定と制御	中野 和司	電気通信大学	HP	総覧
		電磁力応用, 磁気工学, 電気機器工学, 電磁界解析	大路 貴久	富山大学	HP	総覧
		磁気応用, 回転モータ, リニアモータ, 電磁アクチュエータ, 磁気式センサ	片岡 康浩	秋田県立大学		総覧
工学	電気電子工学	ロボット工学, 計測工学, システム工学	下井 信浩	秋田県立大学		総覧
		マルチメディア通信, ユビキタスシステム	笠井 裕之	電気通信大学	HP	総覧
		インタラクティブシステム, ヒューマンインタフェース, 触覚インタフェース	梶本 裕之	電気通信大学	HP	総覧
		光ファイバ光学, 光信号処理, 光信号源, 光導波路	來住 直人	電気通信大学	HP	総覧
		コロナ放電, 廃棄物処理, バイオガス, 水素生成	佐藤 孝紀	室蘭工業大学	HP	総覧
		自然エネルギー, 風力発電, 回転機, 電力システム, 水素エネルギー	田村 淳二	北見工業大学	HP	総覧
		二酸化炭素削減, CFP, 地熱発電	永野 宏治	室蘭工業大学	HP	総覧
	波動信号処理(基礎理論および画像・音声・音響・各種計測システムへの応用)	西 一樹	電気通信大学	HP	総覧	
	知的情報処理, ソフトコンピューティング	橋山 智訓	電気通信大学	HP	総覧	
	情報通信工学, ITS, 画像処理工学, 感性情報処理など	堀田 裕弘	富山大学	HP	総覧	
	並列処理システム, 並列化コンパイラ	本多 弘樹	電気通信大学	HP	総覧	
	システム制御理論, ダイナミックセンサ設計, 各種プラント制御系設計	松尾 孝美	大分大学	HP	総覧	
	最適化, 工学基礎, 数理計画問題	村松 正和	電気通信大学	HP	総覧	
	地球宇宙電磁環境, 宇宙プラズマ理工学, 大気電気学, 地震電磁気学	芳原 容英	電気通信大学	HP	総覧	
	土木工学	交通工学, 道路工学, 乗り心地評価, 舗装マネジメントシステム, 路面評価	川村 彰	北見工業大学		総覧
		廃棄物処分場・環境安全性・シミュレーション	吉田 英樹	室蘭工業大学	HP	総覧
	プロセス・化学工学	生体工学	伊藤 一志	秋田県立大学	HP	総覧
		触媒分解, プラスチックリサイクル	上道 芳夫	室蘭工業大学	HP	総覧
		生命電子工学(バイオエレクトロニクス), バイオセンサ工学, 細胞機能工学	篠原 寛明	富山大学	HP	総覧
複合化学, 触媒科学, セラミックス		西口 宏泰	大分大学	HP	総覧	
計測工学, 生物工学, バイオセンサ, バイオチップ		鈴木 正康	富山大学		総覧	
木質系バイオマス, リグニン	安居 光國	室蘭工業大学	HP	総覧		
生物学	基礎生物学	微生物型ロドプシン, GPCR, 光受容	岩佐 達郎	室蘭工業大学	HP	総覧
		植物形態学, 植物生理学, 宇宙生物学, 電子顕微鏡	唐原 一郎	富山大学		総覧
		イネ, 突然変異, 形態形成, 環境応答	永澤 信洋	秋田県立大学		総覧
	生物科学	微生物型ロドプシン, GPCR, 光受容	岩佐 達郎	室蘭工業大学	HP	総覧
		行動神経科学, 学習, 記憶, 代償機能発達, 脳	川原 茂敬	富山大学	HP	総覧
材料化学, 界面科学, 高分子化学	吉見 剛司	大分大学	HP	総覧		
匂い, 匂い分子結合タンパク質, 匂いセンサー	澤田 研	室蘭工業大学	HP	総覧		
農学	境界農学	森林資源, 木材材質, 遺伝的多様性, 資源管理	高田 克彦	秋田県立大学	HP	総覧
		生体高分子化学, 硫酸化多糖質, 抗ウイルス作用機構, 構造解析, 酵素, 環境化学, バイオエタノール, バイオマス, DNA配列解析	吉田 孝	北見工業大学		総覧
	森林圏科学	木材の化学加工・木質炭化	栗本 康司	秋田県立大学	HP	総覧
森林資源, 木材材質, 遺伝的多様性, 資源管理	高田 克彦	秋田県立大学	HP	総覧		
薬学 医歯	看護学	生体計測工学, 高齢者工学, 福祉工学	中島 一樹	富山大学	HP	総覧
	外科系臨床医学	医用生体工学, 聴覚, 振動, 診断装置, 生体モデリング	小池 卓二	電気通信大学	HP	総覧
	医学	生体計測工学, 高齢者工学, 福祉工学	中島 一樹	富山大学	HP	総覧
	歯学	医用画像工学, 医療情報学, 生体システム工学, 画像情報処理, バイオメカニクス	早川 吉彦	北見工業大学	HP	総覧
	薬学	行動神経科学, 学習, 記憶, 代償機能発達, 脳	川原 茂敬	富山大学	HP	総覧
情報学	計算基盤	生体工学, 人間工学, ヒューマンインタフェース, システム工学	板倉 直明	電気通信大学	HP	総覧
		計算機アーキテクチャ	入江 英嗣	電気通信大学	HP	総覧
		通信ネットワーク, 通信システム, トラフィック制御	大木 英司	電気通信大学	HP	総覧
		コンピュータネットワーク, 通信性能評価	大坐 島 智	電気通信大学	HP	総覧
		電磁力応用, 磁気工学, 電気機器工学, 電磁界解析	大路 貴久	富山大学	HP	総覧
		グリーン&ディペンドブルシステム, コンピュータの論理設計とテスト, コンピュータの設計自動化(CAD)	大竹 哲史	大分大学	HP	総覧
		マルチメディア通信, ユビキタスシステム	笠井 裕之	電気通信大学	HP	総覧
		データ工学, データマイニング, データベース	新谷 隆彦	電気通信大学	HP	総覧
		アルゴリズムの理論解析, マルチメディア情報処理	古賀 久志	電気通信大学	HP	総覧
		並行・並列・分散処理, OS, 言語処理系	多田 好克	電気通信大学	HP	総覧
		知的システム, ヒューマンインタフェース	田野 俊一	電気通信大学	HP	総覧
		ソフトウェア工学, 形式検証, 要求工学	田原 康之	電気通信大学	HP	総覧

領域	分野	研究キーワード	氏名	大学名	研究室 HP	研究者 総覧
情報学	情報学フロンティア	バーチャルリアリティ, パイロットインタフェース	野嶋 琢也	電気通信大学	HP	総覧
		情報通信工学, ITS, 画像処理工学, 感性情報処理など	堀田 裕弘	富山大学	HP	総覧
		並列処理システム, 並列化コンパイラ	本多 弘樹	電気通信大学	HP	総覧
		分散・並列処理, ネットワークシステム	吉永 努	電気通信大学	HP	総覧
	人間情報学	脳による情報処理, 特に視覚の仕組みと理解	佐藤 俊治	電気通信大学		総覧
		学習工学・学習科学, 知的学習環境, 認知ツール, 知的ユーザインタフェイス, Webベースシステム, コミュニティ支援環境	柏原 昭博	電気通信大学	HP	総覧
		インタラクティブシステム, ヒューマンインタフェース, 触覚インタフェース	梶本 裕之	電気通信大学	HP	総覧
		人工知能, 複雑ネットワーク科学, 創発計算, ユビキタスコンピューティング, マルチエージェント, 自律分散システム, ソーシャルメディア, 社会情報システム	栗原 聡	電気通信大学	HP	総覧
	人間情報学	脳による情報処理, 特に視覚の仕組みと理解	佐藤 俊治	電気通信大学		総覧
		人工知能, 機械学習, データ/テキストマイニング	末田 直道	大分大学	HP	総覧
知的システム, ヒューマンインタフェース		田野 俊一	電気通信大学	HP	総覧	
知能情報学, 自然言語処理, 音声対話システム, 会話ロボット, 知的情報ネットワーク		堂坂 浩二	秋田県立大学		総覧	
知能ロボット, 進化ロボティクス, 支援ロボット, マルチロボットシステム		チャピゲンツィ	富山大学		総覧	
ロボティクス, 生体制御工学, 医療福祉ロボット, 呼吸センサ		戸田 英樹	富山大学		総覧	
波動信号処理(基礎理論および画像・音声・音響・各種計測システムへの応用)		西 一樹	電気通信大学	HP	総覧	
知的情報処理, ソフトコンピューティング		橋山 智訓	電気通信大学	HP	総覧	
	情報通信工学, ITS, 画像処理工学, 感性情報処理など	堀田 裕弘	富山大学	HP	総覧	
環境学	環境解析学	GIS, 公共選択, 環境計画・都市計画	山本 佳世子	電気通信大学	HP	総覧
	環境保全学	機械材料学 塑性加工学 トライボロジー	曾田 哲夫	富山大学		総覧
		木質構造, 木質材料, 地震防災, 木材利用, 竹材利用	井上 正文	大分大学	HP	総覧
		触媒分解, プラスチックリサイクル	上道 芳夫	室蘭工業大学	HP	総覧
		環境・建築音響, 騒音制御, 室内音響設計	大鶴 徹	大分大学	HP	総覧
		エネルギーシステム, 熱エネルギーシステム, 電力システム, 運用計画, 複合エネルギー	小原 伸哉	北見工業大学	HP	総覧
		生物学的環境修復, 環境微生物, バイオマス利用	チャン ヨン Chol	室蘭工業大学	HP	総覧
		高分子化学, 環境生化学, 生分解	中谷 久之	北見工業大学		総覧
		稲作 雑草制御 熱帯アフリカ	森田 弘彦	秋田県立大学		総覧
		GIS, 公共選択, 環境計画・都市計画	山本 佳世子	電気通信大学	HP	総覧
	生体高分子化学, 硫酸化多糖質, 抗ウイルス作用機構, 構造解析, 酵素, 環境化学, バイオエタノール, バイオマス, DNA配列解析	吉田 孝	北見工業大学		総覧	
複合領域	科学教育・教育工学	知識処理, データサイエンス, 教育工学	植野 真臣	電気通信大学	HP	総覧
		学習工学・学習科学, 知的学習環境, 認知ツール, 知的ユーザインタフェイス, Webベースシステム, コミュニティ支援環境	柏原 昭博	電気通信大学	HP	総覧
	子ども学	自然言語処理, テキストマイニング, 情報検索, 観光情報学, 教育支援, 有害情報検出, ノウハウ継承	榊井 文人	北見工業大学	HP	総覧
		木質系バイオマス, リグニン	安居 光國	室蘭工業大学	HP	総覧
	生体分子物理学	自然言語処理, テキストマイニング, 情報検索, 観光情報学, 教育支援, 有害情報検出, ノウハウ継承	榊井 文人	北見工業大学	HP	総覧
		アルツハイマー病, 細胞骨格, タンパク質, 量子ドット, バイオイメーキング, 自己組織化, 生物物理学, 生化学, ケミカルバイオロジー	徳楽 清孝	室蘭工業大学	HP	総覧
	社会・安全システム科学	非破壊検査技術, 計測工学	後藤 雄治	大分大学	HP	総覧
		ロボット工学, 計測工学, システム工学	下井 信浩	秋田県立大学		総覧
燃焼学, 安全工学, 反応性熱流体工学, 廃棄物処理, 火災, 爆発		鶴田 俊	秋田県立大学	HP	総覧	
	地域活性化, 品質管理, 信頼性, 経営情報システム	嶋崎 真仁	秋田県立大学		総覧	
複合領域	社会・安全システム科学	システム安全学, 危機管理, 緊急時意思決定	田中 健次	電気通信大学	HP	総覧
		生体計測工学, 高齢者工学, 福祉工学	中島 一樹	富山大学	HP	総覧
	デザイン学	知的システム, ヒューマンインタフェース	田野 俊一	電気通信大学	HP	総覧
		バイオセンサー, ウエハー加工	福田 永	室蘭工業大学	HP	総覧
	人間医工学	生体工学, 人間工学, ヒューマンインタフェース, システム工学	板倉 直明	電気通信大学	HP	総覧
		ロボティクス, メカトロニクス, ヒューマンインタフェース	橋本 卓弥	電気通信大学	HP	総覧
		医用生体工学, 聴覚, 振動, 診断装置, 生体モデリング	小池 卓二	電気通信大学	HP	総覧
		高効率細胞膜穿孔法/細胞集団改変/神経インタフェース/ロボット	齋藤 敬	秋田県立大学	HP	総覧
		受動関節, 福祉・介護, 歩行アシスト, 生涯スポーツ	鈴木 聡一郎	北見工業大学	HP	総覧
		生体計測工学, 高齢者工学, 福祉工学	中島 一樹	富山大学	HP	総覧
		再生医工学, 人工臓器, 医療関連機器, 生体計測, 再生医工学生産技術	中村 真人	富山大学	HP	総覧
		知能機械学, 医用福祉工学	横井 浩史	電気通信大学	HP	総覧
	脳科学	脳神経科学	宮脇 陽一	電気通信大学	HP	総覧
文化財科学	木材の化学加工・木質炭化	栗本 康司	秋田県立大学	HP	総覧	

室蘭工業大学地域コア運営委員会要項

平成 25 年 4 月 4 日
学長伺定

(設置)

第 1 条 室蘭工業大学に、イノベーション創出型人材育成と地域活性化に貢献することを目的として、室蘭工業大学地域コア運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域の産官との共同研究等の推進に関する事項
- (2) 地域企業への学生の長期インターンシップ等の推進に関する事項
- (3) 地域企業との共同研究をベースとする、学生の学位研究の推進に関する事項
- (4) その他イノベーション創出型人材育成と地域活性化に関し必要と認められる事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長が指名する理事
- (2) 学長が指名する副学長
- (3) 地域共同研究開発センター長
- (4) 地域コアコーディネーター
- (5) 学外者のうちから、学長が必要と認めた者
- (6) その他学長が必要と認めた者 若干名

(任期)

第 4 条 前条第 5 号及び第 6 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、学長が指名する理事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴取することができる。

(事務)

第 8 条 委員会に関する事務は、教務グループが事務局関係グループの協力を得て処理する。

(雑則)

第 9 条 この要項に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て、委員長が定める。

附 則

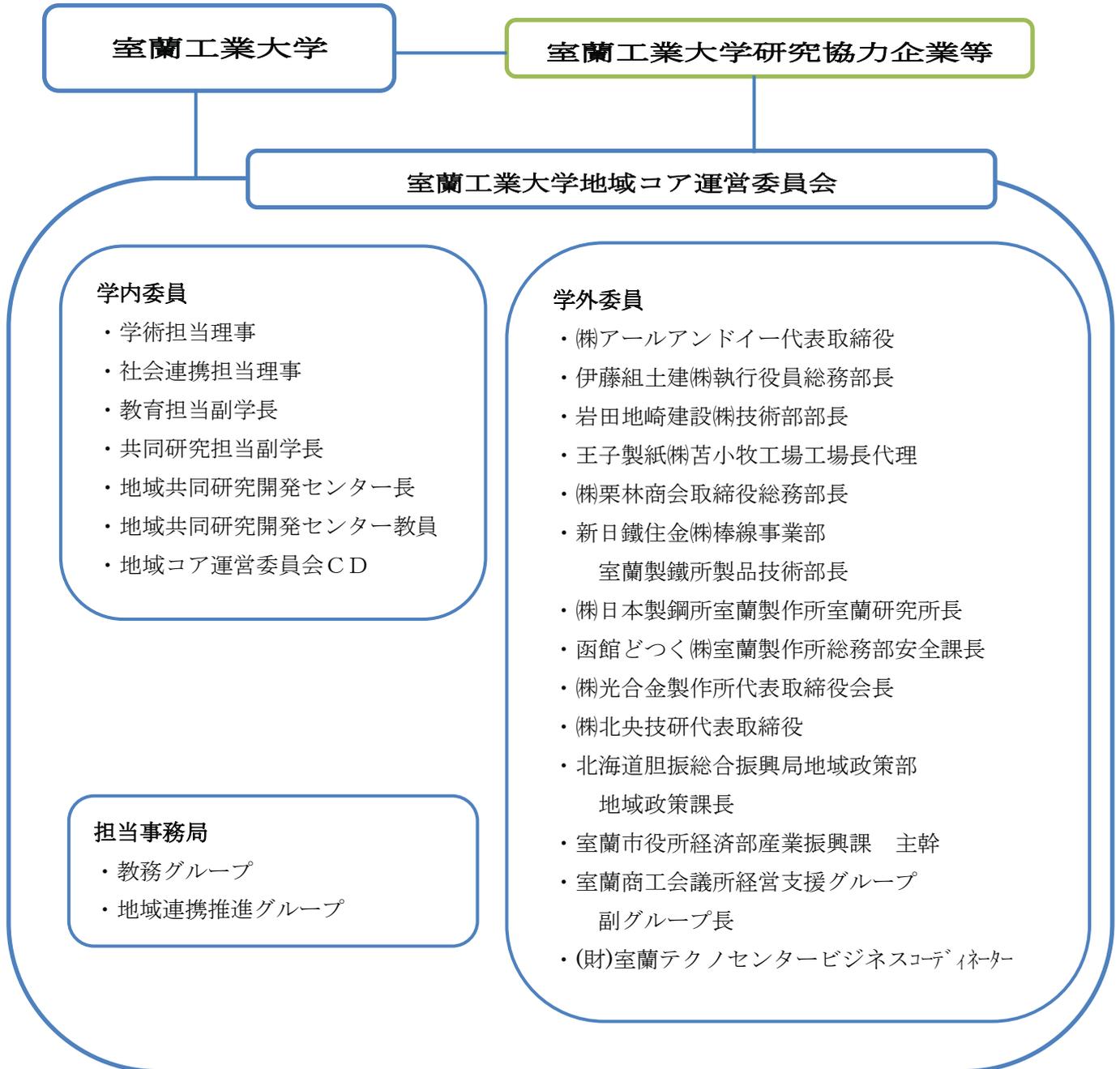
(施行期日)

1 この要項は、平成 25 年 4 月 4 日から実施し、平成 25 年 3 月 25 日から適用する。

(委員の任期の特例)

2 この要項実施後、第 3 条第 5 号及び第 6 号に規定する最初の委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず平成 27 年 3 月 31 日までとする。

室蘭工業大学地域コア運営委員会の体制図（改定版）



スーパー連携大学院プログラム シラバス

開講番号 -

科目	講義種別	受講対象	単位数	開講学期	開講曜日・時限
■“志”教育科目	■集合教育	■修士/博士 いずれも可	1 単位	■前学期 □後学期	2014 年 9 月 16 日 ～2014 年 9 月 18 日
授業科目名	現役社長の講話V (Active President's Lecture V)				
担当教員	所 属: 室蘭工業大学 大学院工学研究科 氏 名: 松田瑞史 e-mail: matsuda@mmm.muroran-it.ac.jp				
授業関連 Web ページ					
授業のねらい	イノベーションマインドを持ち、時代の最先端を進んでいる起業家・企業家の経営戦略などに関する講演を聴講し質疑応答、討論を行い、その地域の特殊性、問題点、強味などを理解し、経営者の志、発想に直に触れることにより、それを刺激とし、自己の志を醸成することを目的にする。				
学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特殊性等を理解し、その企業戦略を知る。 ・起業家、経営者としての志を理解する。 ・自己の進路について目標を定める。 	学修教育目標との関連	A. 志 100 % B. 専門知識 0 % C. マネジメント力 0 % D. 創造性 0 % E. 先見性・革新性 0 % F. コミュニケーション力 0 % G. 倫理・教養 0 % H. 国際性 0 %		
授業計画 及び授業方法	日程：2014 年 9 月 16 日～2014 年 9 月 18 日 場所：室蘭工業大学 宿泊：（別途連絡） <ul style="list-style-type: none"> ・室蘭近郊及び道央圏で起業家・企業家として活躍されている企業の社長等に経営者としての心構え、ポリシー、企業戦略、若手技術者に望む事などに起業時の経験、計画などを併せて講演してもらう。 ・社長等の講演の後に、質疑応答、討論を行う。 ・各講演・議論を踏まえて、レポートを作成し提出する。 ・3 日間の集中講義形式で行う。 				
成績 評価	評価 方法	レポートなど総合的に判断する。			
	評価 基準				
留意事項					
教科書・参考書					
その他					

北見工業大学地域コア運営委員会要項

平成26年6月6日制定

(設置)

第1条 北見工業大学社会連携推進センターに、スーパー連携大学院との連携によるイノベーション創出型人材育成と地域活性化に貢献することを目的として、北見工業大学地域コア運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 地域コアコーディネーター
- (2) スーパー連携大学院コンソーシアム共同研究事業委員会委員
- (3) 社会連携推進センターの専任教員
- (4) 委員長が指名する本学以外の産学官連携推進を担う組織等の関係者
- (5) その他委員長が必要と認めた者

(審議事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域との共同研究等の産学官連携の推進に関する事項
- (2) 地域との共同研究をベースとする、学生の学位研究の推進に関する事項
- (3) その他イノベーション創出型人材育成と地域活性化に関し、必要と認められる事項

(任期)

第4条 第2条第3号及び第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、地域コアコーディネーターをもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 副委員長は、委員長が指名する委員をもって充てる。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、研究協力課において行う。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

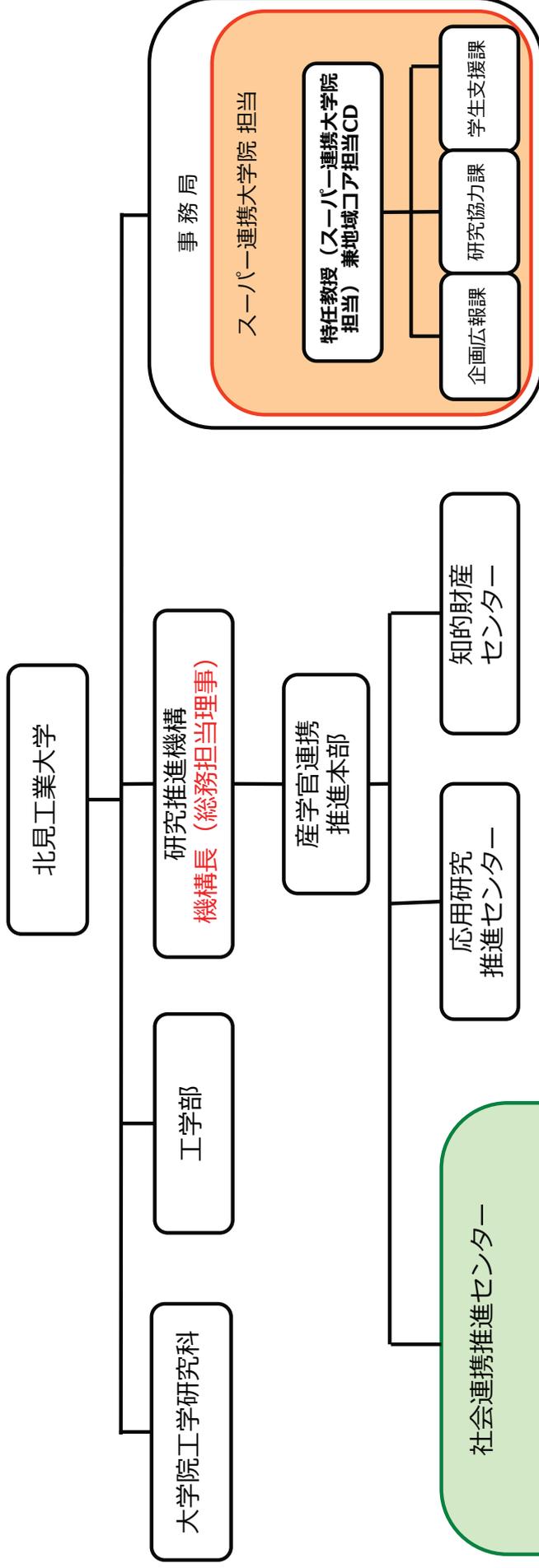
附 則

- 1 この要項は、平成26年6月6日から施行する。
- 2 この要項の施行後、最初に任命される第2条第3号及び第4号に規定する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成27年3月31日までとする。

地域コア運営委員会構成員名簿

NO	組織名	役職名	氏名	備考
1	北見工業大学	地域コアコーディネーター 特任教授	田牧 純一	
2	北見工業大学	社会連携推進センター教授	鞆師 守	共同研究事業委員会委員 地域運営委員会委員
3	北見工業大学	社会連携推進センター教授	有田 敏彦	
4	オホーツク産学官融合センター	センター長	加藤 裕実	
5	中小企業整備基盤整備機構	北見オフィス所長	高橋 均	
6	北見市	商工観光部産業連携推進課 産学官連携担当係長	後藤 博幸	
7	一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	事業支援課長	進藤 寛弥	
8	北見商工会議所	地域振興部長	服部 浩司	
9	公益財団法人オホーツク地域振興機構 オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究課長	太田 裕一	

[北見工業大学] 地域コア運営委員会体制図



社会連携推進センター

地域コア運営委員会

【構成】

- (1) 地域コアコーディネーター
- (2) スーパー連携大学院コンソーシアム共同研究事業委員会委員
- (3) 社会連携推進センターの専任教員
- (4) 委員長が指名する本学以外の産学官連携推進を担う組織等の関係者
- (5) その他委員長が必要と認めた者

地域コア運営委員会審議事項

- (1) 地域との共同研究等の産学官連携の推進に関する事項
- (2) 地域との共同研究をベースとする、学生の学位研究の推進に関する事項
- (3) その他イノベーションイノベーション創出型人材育成と地域活性化に関し、必要と認められる事項

【担当事務】

企画広報課 (総務関係)

- ・コンソーシアム事務局との連絡調整
- ・各担当との連絡調整
- ・全体構想(計画)の意向調整
- ・各委員会への出張手続
- ・全体予算の管理
- ・調査、照会に係る業務

研究協力課 (地域連携)

- ・地域コア運営委員会に関する事務
- ・地域のニーズ、シーズ把握
- ・地域コーディネーターに関する事務
- ・地域コア関連予算執行

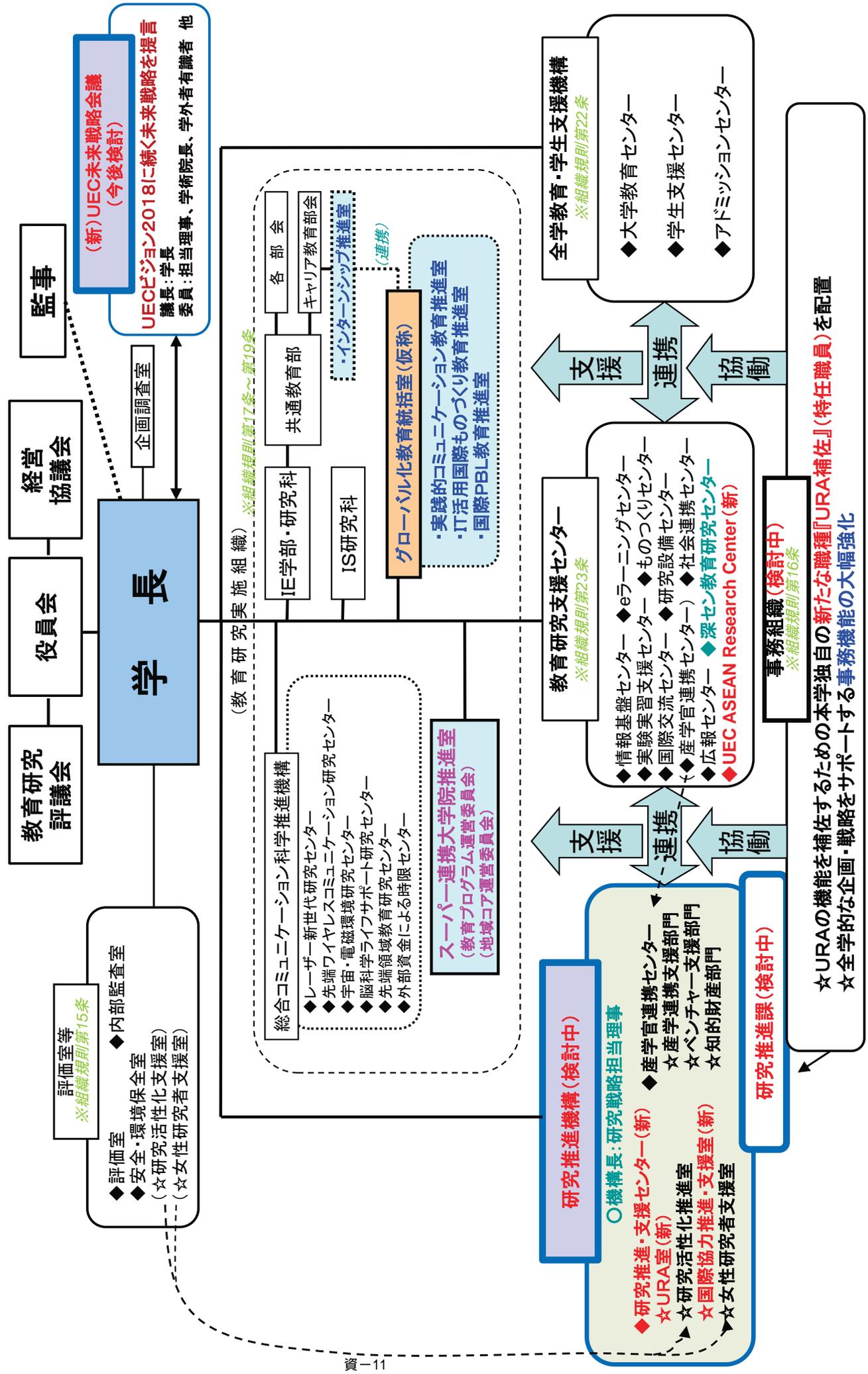
学生支援課 (教育関係)

- ・提供科目、担当教員の選出
- ・受講学生の募集、管理
- ・提供科目の運営、管理
- ・協力研究室の選定

全学的教育研究推進体制(H26.1.1.1～)

H25.12.3

～研究大学強化促進事業・女性研究者研究活動支援事業・UECグローバル化教育推進事業・スーパー連携大学院プログラム～



電気通信大学スーパー連携大学院首都圏地域コア運営委員会細則

平成 26 年 3 月 25 日

(設置)

第 1 条 電気通信大学スーパー連携大学院推進室規程第 10 条の規定に基づき、首都圏地域コア運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、スーパー連携大学院に係るイノベーション創出型人材育成及び首都圏地域活性化について、本学における実施に必要な事項を協議し、その円滑な推進に資することを目的とする。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 産学官連携センター長
- (2) 産学官連携センター副センター長
- (3) 委員長が指名する産学連携コーディネーター
- (4) スーパー連携大学院推進室に置かれた特任事務職員
- (5) 委員長が指名する首都圏の産学官連携推進を担う組織の関係者
- (6) 委員長が指名する首都圏の自治体の関係者
- (7) 委員長が指名する首都圏の企業の関係者
- (8) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第 5 号から第 8 号までの委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第 4 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 首都圏地域コアにおける共同研究等の産学官連携の推進に関する事項
- (2) 首都圏地域コアにおける共同研究に基づく大学院学生の学位研究の推進に関する事項
- (3) その他首都圏地域コアに関する重要な事項

(委員長等)

第 5 条 委員会に委員長を置き、第 3 条第 1 項第 1 号に規定する者をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員会に若干名の副委員長を置き、委員長が指名する。
- 4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した副委員長がその職務を代行する。
- 5 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

- 2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、委員長の決するところ

による。

(秘密保持義務)

第7条 委員及び委員会出席者は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。
委員を退いた後も同様とする。

(事務)

第8条 委員会の事務は、研究推進課及びスーパー連携大学院推進室が協力して行う。

(その他)

第9条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は委員会で協議する。

附 則

- 1 この細則は、平成26年3月25日から施行し、平成26年2月1日から適用する。
- 2 この細則施行後最初に選出される第3条第1項第5号から第8号までに規定する委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

所属等	職名	氏名	備考	根拠
産学官連携センター長	特任教授	◎中嶋 信生	産学官連携センター長	第3条第1項1号
産学官連携副センター長	教授	田村 元紀	産学官連携センター副センター長	第3条第1項2号
産学官連携センター	特任教授・産学連携コーディネーター	比企 春夫	委員長が指名する産学連携コーディネーター	第3条第1項3号
研究推進センター 研究企画室	URA(特任准教授)	小島 珠代	"	"
スーパー連携大学院推進室	特任事務職員	宇梶 純良	スーパー連携大学院推進室に置かれた特任事務職員	第3条第1項4号
スーパー連携大学院推進室	特任事務職員	産形 峰久	"	"
(一社)首都圏産業活性化協会		小林 弘幸	委員長が指名する首都圏の産学官連携推進を担う組織の関係者	第3条第1項5号
調布市		丸山 義治	委員長が指名する首都圏の自治体の関係者	第3条第1項6号
(株)アルザネットワークス		床次 隆志	委員長が指名する首都圏の企業の関係者	第3条第1項7号
(株)ALBERT		山川 義介	"	"
北川電機(株)		北川 秀秋	"	"
(株)オプトエレクトロニクス		志村 則彰	"	"
(株)キャンパス・クリエイティブ		安田 耕平	"	"
システム・インスツルメンツ(株)		濱田 和幸	"	"
(株)日立国際電気		武鎗 良治	"	"
横河電機(株)		高木 真人	"	"
電気通信大学	特任教授	三木 哲也	その他委員長が必要と認められた者	第3条第1項8号
電気通信大学	准教授	和田 光司	その他委員長が必要と認められた者	"

◎印は委員長

富山大学工学部地域コア運営委員会内規

平成 25 年 2 月 13 日制定

(設置)

第 1 条 富山大学工学部に、イノベーション創出型人材育成と地域活性化に貢献することを目的として、富山大学工学部地域コア運営委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域の産官との共同研究等の推進に関すること。
- (2) 地域企業との共同研究をベースとする、学生の学位研究の推進に関すること。
- (3) その他イノベーション創出型人材育成と地域活性化に関し必要と認められる重要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 工学部長
- (2) 工学部副学部長
- (3) 工学部学科長
- (4) 工学部産学連携研究コーディネーター
- (5) 工学教育に関し高い識見を有する学外者のうちから、工学部運営委員会の意見を聴いて工学部長が必要と認めるもの 若干人
- (6) その他工学部長が必要と認める職員 若干人

(任期)

第 4 条 前条第 5 号及び第 6 号の委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に、委員長を置き、工学部長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

- 2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(委員の秘密保持義務)

第8条 委員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。委員を退いた後も同様とする。

(事務)

第9条 委員会の事務は、工学系支援グループにおいて処理する。

(雑則)

第10条 この内規に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て、委員長が定める。

附 則

- 1 この内規は、平成25年2月13日から実施し、平成25年2月1日から適用する。
- 2 この内規実施後最初に選出される第3条第5号及び第6号に規定する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成27年3月31日までとする。

富山大学工学部地域コア運営委員会委員名簿（学内委員）

所 属 ・ 役 職	氏 名	内線番号	備考
学 部 長	堀田 裕弘	6771 6758	職指定
副 学 部 長	篠原 寛明	6832	〃
副 学 部 長	川口 清司	6779	〃
電気電子システム工学科 学科長	鈴木 正康	6707	〃
知能情報工学科 学科長	廣林 茂樹	6889	〃
機械知能システム工学科 学科長	小熊 規泰	6776	〃
生命工学科 学科長	中村 真人	6884	〃
環境応用化学科 学科長	會澤 宣一	6980	〃
材料機能工学科 学科長	砂田 聡	6818	〃
スーパー連携大学院コンソーシアム 共同研究事業委員会委員	川口 清司	6779	(任期) H25. 2. 1～ H27. 3. 31
地域連携推進機構産学連携部門長	高辻 則夫	6790	(任期) H25. 2. 1～ H27. 3. 31

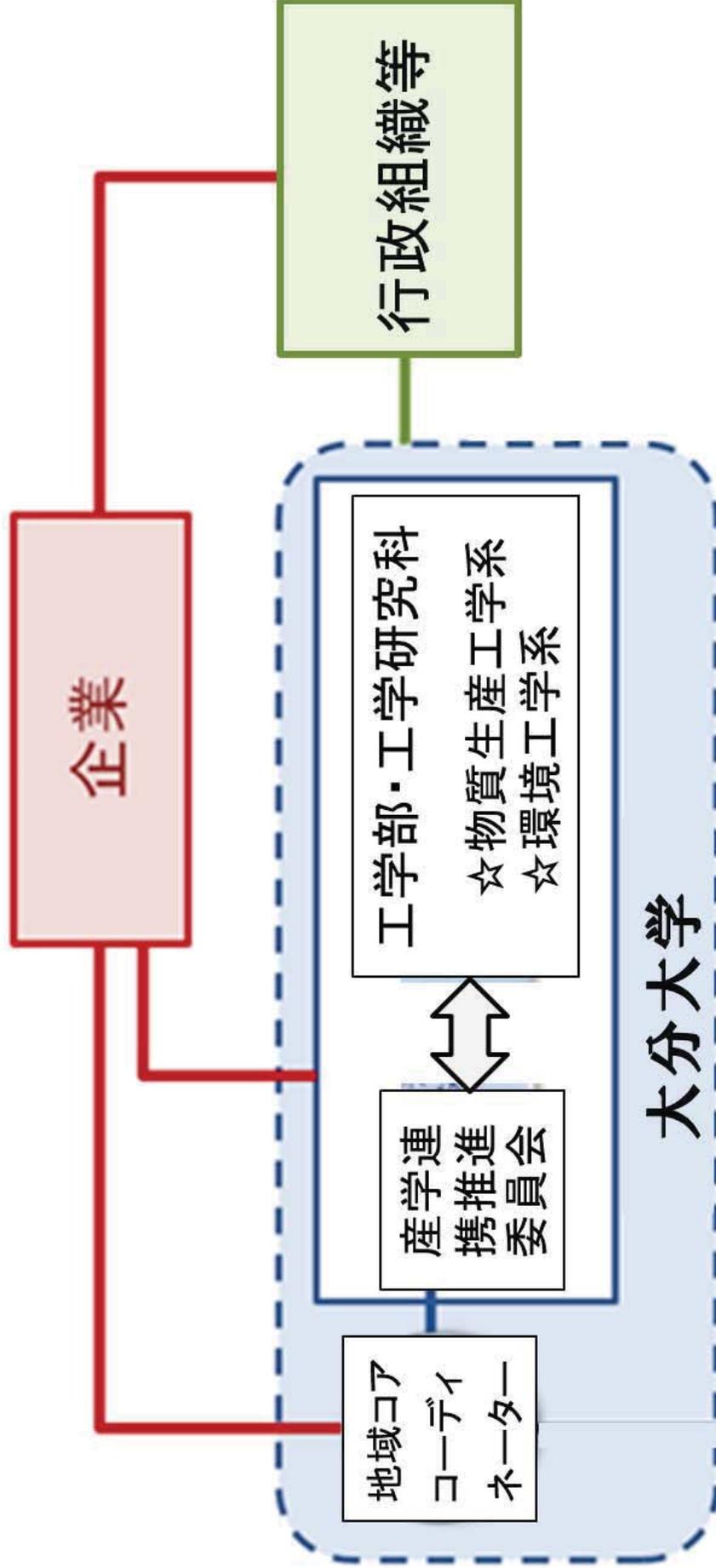
以上 11 名

富山地域コア運営委員会委員の事業内容

2014年8月18日

	法人名	住所	事業内容
1	立山科学工業(株)	富山県 富山市	無線機器の設計・開発・製造・販売、各種抵抗器・電子部品・電子機器の製造販売、FA機器販売
2	(株)スギノマシン	富山県 魚津市	高圧ジェット洗浄装置、超高圧水切断装置等の製造・販売、原子力発電所検査保守製品、
3	(株)不二越	富山県 富山市	工具・工作機・ロボット・ベアリング・特殊鋼・工業炉・カーハイドロリスク・油圧装置等の設計・製造・販売
4	三協立山(株)	富山県 高岡市	アルミ建材・マテリアル・商業施設事業関連
5	(株)タカギセイコー	富山県 高岡市	プラスチック製品・金属プレス製品などの製造・販売
6	コマツNTC(株)	富山県 南砺市	トランスファーマシン・マシニングセンター・レーザ加工機・ワイヤーソー等の製造販売
7	アイシン軽金属(株)	富山県 射水市	アルミダイキャスト製品・アルミ押し出し製品の製造販売
8	(株)アライドマテリアル	富山県 富山市	タングステン・モリブデン・放熱器版材料、ダイヤモンド工具・CBN工具等の製造・販売
9	富山信用金庫	富山県富山市	
10	富山県商工労働部	富山県富山市	
11	富山県厚生部	富山県富山市	
12	YKK(株)	富山県 黒部市	ファスナー製品の製造・販売、住宅・ビル用アルミ製品の製造・販売
13	(株)アイ・ユー・ケイ	東京都 新宿区	(株)インテック(ICT技術の研究開発:富山県富山市)のグループ企業、ハード・ソフトウェアの販売
14	(株)日立国際電気	東京都 千代田区	本工場:富山県富山市 無線・半導体製造装置の製造・販売
15	リードケミカル(株)	富山県 富山市	経皮吸収タイプ医薬品の開発・製造・販売
16	テイカ製薬(株)	富山県 富山市	医療用医薬品・配置用医薬品の製造・販売

地域コア体制図



国立大学法人大分大学大学院工学研究科地域コア運営委員会内規

(趣旨)

第1条 大分大学大学院工学研究科に、イノベーション創出型人材育成と地域活性化に資することを目的として、大分大学大学院工学研究科地域コア運営委員会（以下「委員会」という）を設置する。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域の人材育成および共同研究等の推進に関すること。
- (2) 地域企業との共同研究をベースとする学生の学位研究の推進に関すること。
- (3) その他イノベーション創出型人材育成と地域活性化に関し必要と認められる事項に関すること。

(構成)

第3条 委員会は次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) スーパー連携大学院コンソーシアム委員
- (2) 工学研究科長
- (3) 工学研究科長が指名する次の者
 - ・教務委員長
 - ・研究指導委員長
 - ・産学連携推進委員長
- (4) 工学部産学連携研究コーディネーター
- (5) 工学教育及び産学官連携に関し高い見識を有する学外者の中から、委員会委員長が指名する者 若干名
- (6) その他委員会が必要と認める職員 若干名

(任期)

第4条 前条第5号及び第6条の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、工学研究科長をもって充てる。

- 2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、工学部事務部において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この内規は、平成26年10月1日から実施する。

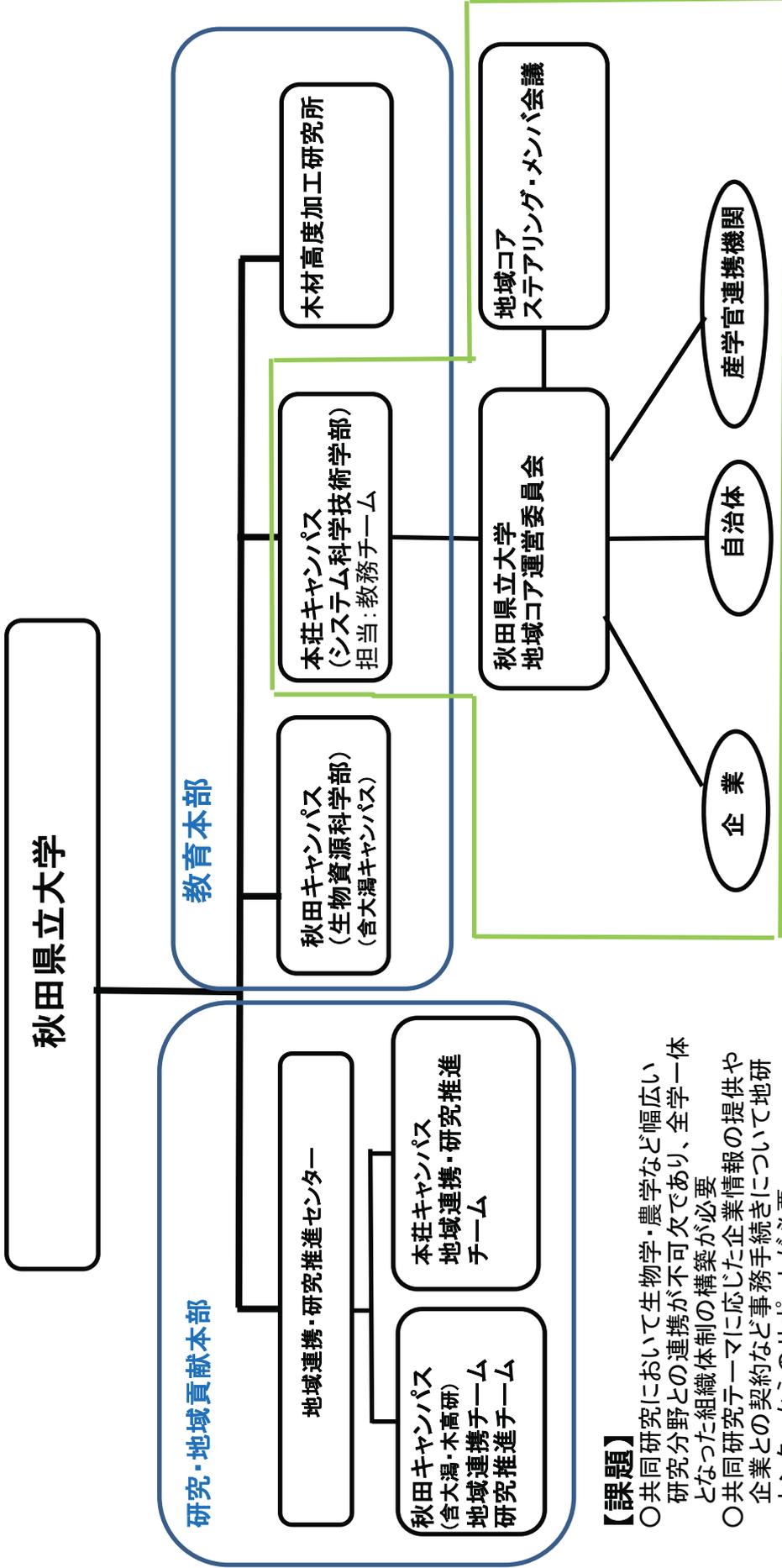
秋田県立大学 地域コア運営委員会名簿

(会社名五十音順、敬称略)2013.12.20現在)

運営委員	企業・機関名	所属・役職	備考
湊屋 隆夫	秋田銀行	取締役頭取	
斎藤 昭則	秋田県産業技術センター	所長	兼ステアリング・メンバ
今野 宏	株式会社秋田今野商店	代表取締役社長	兼ステアリング・メンバ
丹羽 博和	秋田プリマ食品株式会社	代表取締役社長	
佐藤 裕之	羽後設備株式会社	代表取締役社長	兼ステアリング・メンバ
小林 憲一郎	小林工業株式会社	代表取締役社長	兼ステアリング・メンバ
齋藤 伸英	株式会社斉藤光学製作所	代表取締役社長	
斎藤 民一	株式会社三栄機械	代表取締役社長	兼ステアリング・メンバ
田口 勝巳	セカンドデザイン	代表	兼ステアリング・メンバ
虻川 東雄	東光鉄工株式会社	代表取締役会長	兼ステアリング・メンバ
斉藤 永吉	北都銀行	代表取締役頭取	
山崎 博次	山崎ダイカスト株式会社	代表取締役社長	兼ステアリング・メンバ
山田 伸祐	株式会社ヤマダフーズ	代表取締役社長	
須田 哲生	由利工業株式会社	代表取締役社長	兼ステアリング・メンバ
塩田 充弘	ヨコウ株式会社	代表取締役社長	
和賀 幸雄	株式会社和賀組	代表取締役社長	
小林 淳一	秋田県立大学 理事・副学長	代表取締役社長 教育本部長・スーパー連携大学院 運営委員会・同幹事会委員	兼ステアリング・メンバ
谷内 宏行	秋田県立大学本荘キャンパス経営システム工学科	スーパー連携大学院 イノベーション博士育成事業委員	
小笠原 正	秋田県立大学本荘キャンパス地域連携・研究推進センター	スーパー連携大学院 共同研究事業委員	兼ステアリング・メンバ
呉 勇波	秋田県立大学本荘キャンパス機械知能システム学科	スーパー連携大学院 教務委員会委員	
長谷川 兼一	秋田県立大学本荘キャンパス建築環境システム学科	スーパー連携大学院 国際交流委員会委員	
中泉 甚一	秋田県立大学本荘キャンパス	キャンパスリーダー	兼ステアリング・メンバ
石川 直人	秋田県立大学本荘キャンパス地域連携・研究センター	コーディネーター	
(事務局)			
田口 和哉	秋田県立大学本荘キャンパス 教務チーム	チームリーダー	
高石 稔	秋田県立大学本荘キャンパス 教務チーム	スーパー連携大学院 地域コアコーディネーター	

秋田地域コア体制図

資料18



【課題】

- 共同研究において生物学・農学など幅広い研究分野との連携が不可欠であり、全学一体となった組織体制の構築が必要
- 共同研究テーマに応じた企業情報の提供や企業との契約など事務手続きについて地研センターからのサポートが必要

・フォーラムの開催を広く案内する
 ・会員化は行わず、地域コア運営委員会やコンソーシアムへの加入を依頼
 ※地域コア運営委員会事務局は本荘キャンパス教務チームが行っている。

秋田県立大学地域コア運営委員会規則

平成 25 年 12 月 20 日制定

(設置)

第 1 条 秋田県立大学にイノベーション創出型人材育成と地域活性化に関して協議することを目的として、秋田県立大学地域コア運営委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(協議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を協議する。

- (1) 地域の産官との共同研究等の推進に関すること。
- (2) 地域企業との共同研究をベースとする、大学院学生の学位研究の推進に関すること。
- (3) その他イノベーション創出型人材育成と地域活性化に関する重要な事項に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 工学教育に関し高い見識を有する学外者のうちから、委員長が必要と認める者
- (2) 教育本部長（スーパー連携大学院運営委員会・同幹事会委員）
- (3) スーパー連携大学院イノベーション博士育成事業委員
- (4) スーパー連携大学院共同研究事業委員
- (5) スーパー連携大学院教務委員
- (6) スーパー連携大学院国際交流委員
- (7) 秋田県立大学本荘キャンパス キャンパスリーダー
- (8) その他委員長が必要と認める者 若干名

(任期)

第 4 条 前条第 1 号及び第 8 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、教育本部長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

- 2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 委員会に出席できない委員は、他の委員又は同所属の代理人に議決権の行使を委任することができる。

(意見の聴取)

第 7 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(秘密保持義務)

第8条 委員および委員会出席者は、委員会の協議上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。
委員を退いた後も同様とする。

(事務)

第9条 委員会の事務は、県立大学本荘キャンパス教務チームにおいて処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会の議を経て定める。

附 則

- 1 この規則は、平成25年12月20日から実施し、平成25年4月1日から適用する。
- 2 この規則実施後、最初に選出される第3条第1号及び第7号に規定する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成27年3月31日までとする。

スーパー連携大学院が取り組むべき 日本型 Industrial PhD の制度設計について

1. 本年度の目標（平成25年度調書10-②）

Industrial PhD 制度「①地域企業がテーマを公表し、②地域の学生、地域外を必ず含む複数の大学・企業がプロジェクトを組み応募し、③審査を受け、④プロジェクトを組む企業、学生、大学への研究費・人件費の支給を行う」の詳細設計を行い規則化する。その後一部地域において試行を行う。

2. 先行指標としているモデル

◆デンマークにおける Industrial PhD 制度

デンマークでは、大学が認定する一般の PhD と国の科学技術推進機関が認定する Industrial PhD 制度がある。特に Industrial PhD 制度はデンマーク独自の制度で、企業が科学技術に基づく新製品の開発等を支援すると同時に、将来企業で活躍する技術移転に優れた博士の人材養成にも役立っている。

1. 企業が必要とする技術開発を目的とした PhD 候補者を募集
2. 学生が応募し研究員となる
3. 願書は企業が作成し、大学と企業から派遣された査定委員会が合否を決定する
4. 学生は大学と企業に半分ずつ勤務し、給料は双方から半分ずつ受給する
5. 企業には共同研究費に該当する一定金額が支払われる
6. 学位が取れるように配慮する
6. 本プログラムは「Danish Agency for Science, Technology and Innovation」が実行している

この制度を活用する企業の約40%が中小企業。すでに企業に在籍する社員が社会人学生として大学に入学することもあるようだ。学生は学位取得後、共同研究先企業に残る義務はないが、実際には多くの学生がその企業にそのまま残ることが多い。

* スーパー連携大学院 Agora 第5号：平尾敏様報告資料より一部抜粋

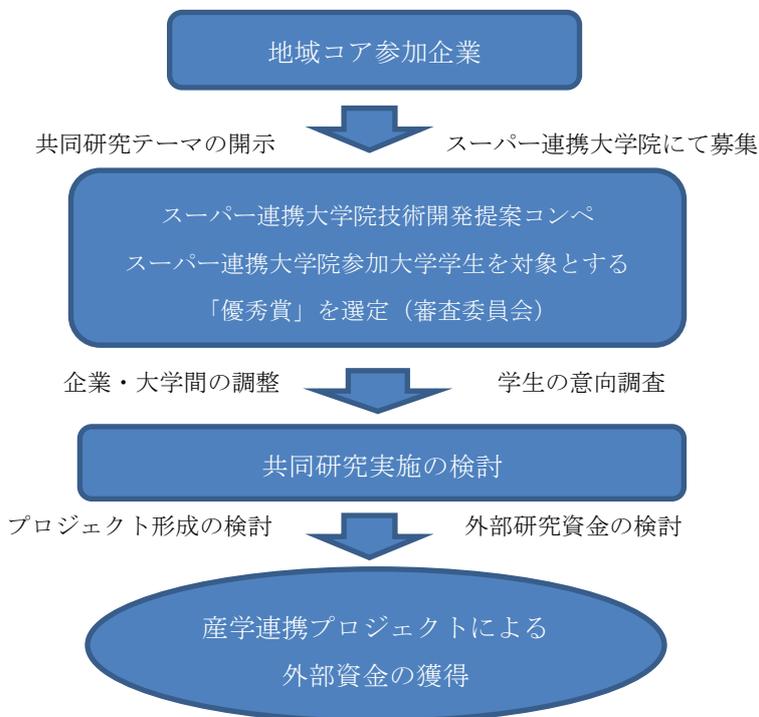
3. 本事業における検討課題

- ・ 検討課題 ①：「入口」の課題
中堅・中小企業で技術課題の開示をするようなインセンティブ（誘因）をどのように上げていくのか。
- ・ 検討課題 ②：「出口」の課題
共同研究に関する費用（研究費・人件費等）の支出はどのようにするのか。

4. 提案モデル (制度)

■モデル A “共同研究テーマを開示して学生提案コンペを活用”

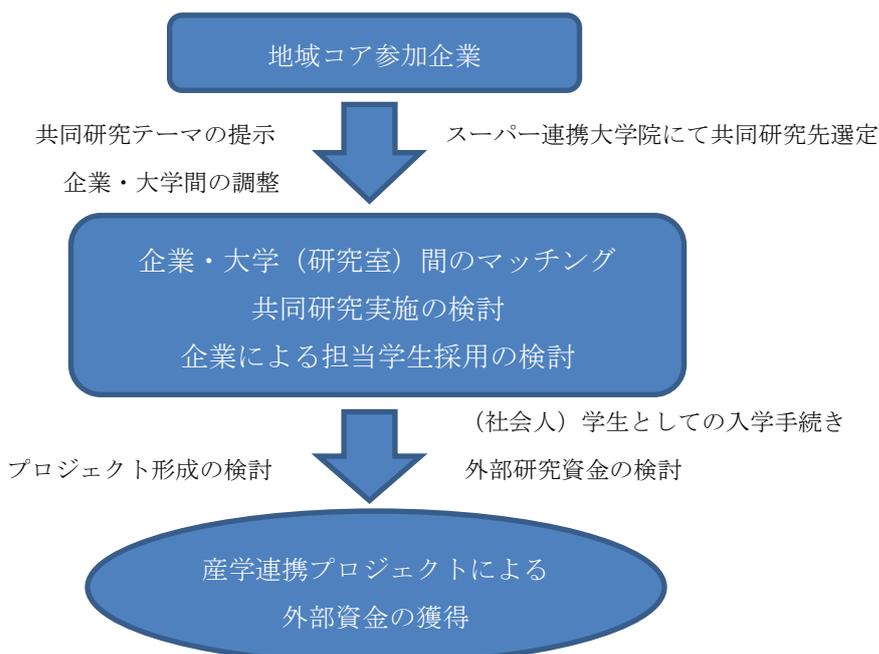
共同研究テーマ開示 ⇒ 学生提案コンペ ⇒ 共同研究推進 ⇒ 外部資金獲得



■モデル B “共同研究テーマを限定的に開示して学生採用と連動させる”

共同研究テーマ提示 ⇒ 共同研究先 (大学：研究室) 選定 ⇒ 採用支援

⇒ 採用+ (社会人) 学生としての入学手続き (大学及びスーパー連携大学院プログラム)



各地域コア 共同研究希望ニーズ・シーズ 一覧

担当地域コア	種別	提案機関	内容
室蘭地域コア	ニーズ	企業	「耐摩耗性金属」の生産体制の強化など
		企業	水抜き栓の新商品開発および高付加価値化
		企業	熱を今以上に有効活用する技術・手段・用途
		企業	設計(デザイン)や製造(現場)技術の高度化
		企業	西胆振地域の観光資源の発掘
		企業	建設業界全体における縮小、高齢化に対する、技術・技能継承
北見地域コア	シーズ	大学	シタケ上面栽培廃液(上面水)の有効利用
		大学	ブレイン・マシン・インタフェースを用いたリハビリ機器の開発
		大学	糖質高分子の合成
		大学	食品由来成分が持つアレルギー抑制機能の評価
		大学	ボロン酸による鮮やかな色調変化を示す糖センサー
		大学	簡便な処理で骨適合性チタン材料を製造する新表面処理技術
		大学	ビジュアルインタフェース用クラスライブラリの開発
		大学	分散オブジェクトを用いた知的シミュレータ
		大学	階層型並列分散処理
		大学	天文用補償光学装置の開発
		大学	既存データが少量でも分類可能な文書分類技術
		大学	電磁波用周期構造デバイスの数値解析および設計手法に関する研究
		大学	バイオディーゼル燃料生産に有効なホタテ貝殻由来の触媒開発
		大学	スマートウィンドウ用電極材料のスパッタ成膜技術
		大学	ナノ粒子表面への複合酸化物材料のナノコーティング技術の開発
		大学	牧草を断熱材として利用した雪の冷熱利用
		大学	擬似酵素システムを用いたポリプロピレンの生分解化
		大学	微生物によるコーンコブからの高効率キシリトール生産技術
		大学	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善 - 白煙、臭気に関する研究 -
		大学	レーザラマン分光法によるすす粒子の構造解析
		大学	風力発電を擁するマイクログリッド設計法
		大学	着氷碍子の絶縁特性
		大学	電線着氷雪対策に関する研究
		大学	塩雪害減少と電気絶縁
		大学	碍子への塩分付着特性と雨洗効果
		大学	車両挙動解析における路面プロファイルのリアルタイム計測
		大学	凍結・融解履歴を受ける斜面内土要素の異方性に関する研究
		大学	亜硝酸系混和剤を用いた高性能硬化促進剤の開発
		大学	有機短繊維と混和材の併用による寒冷地対応型コンクリートの開発
		首都圏地域コア	ニーズ
企業	食糧・マテリアル・エネルギー分野での共同研究		
企業	果実の自動皮むき機の機能強化		
企業	新しい圧電材料の開発		
シーズ	大学		人の心を豊かにする知的システムとの新しい関係を構築へ!
	大学		音メディアでコミュニケーションの世界を探っています
	大学		人・機械の融合システム開発と関連する基礎技術の研究
	大学		湿式太陽電池を用いた光-化学エネルギー変換システムの研究
	大学		光・無線融合通信技術により災害に強いシステムの構築
	大学		極低電力LSI設計技術による無限動作マイコンの実現とエネルギーハーベスティングセンサネットワークシステム応用
首都圏地域コア	シーズ	大学	体重変動や疾病予防と生活習慣の関係を科学的に分析
		大学	超音波の不思議な現象や音響技術を、新製品開発にお役立てください!
		大学	健康で豊かな生活のためのインタラクティブシステムを作る
富山地域コア	シーズ	大学	高齢者ごとに合わせる介護支援
		大学	斑点米の発生を防ぐための薬剤開発に関する有機化学的研究
		大学	健康者の歩行機能改善能力を持つ足首関節拘縮防止リハビリロボットシステムの開発
		大学	三相倍電圧整流回路方式を用いた制御回路レス小水力(風力)発電装置の高効率化
秋田地域コア	シーズ	大学	微細手術支援用刺入検知マニピュレータシステム
		大学	小型風力や小水力発電に適した発電機
		大学	細胞膜先行技術による細胞改変
		大学	国産スギ材を活用した木造建築工法

社会人の学び直し制度やUターン支援制度に関する、地域から得られた意見・希望等

室蘭工業大学	・アンケートと運営委員会から地域社会人の学び直し支援について、賛同及び要望が出され、検討会議を立ち上げて地域での課題、要望を踏まえた学び直しに関する事項の検討を開始することとした。(別添資料 アンケート回答結果)
北見工業大学	オホーツク地域及び近隣地域では、社会人の学び直し制度に該当する地域のものづくり人材育成が進められており、北見工業大学では「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン(H18～)」、東京農業大学では「オホーツクものづくり・ビジネス地域創成塾(H21～)」、帯広畜産大学では「フードバレーとまち人材育成事業(H19～)」が実施されている。
電気通信大学	・スーパー連携大学院のネットワークを利用しつつも、「電通大らしい」コースを用意したい。例えば、ビッグデータ関連を扱うデータサイエンティスト養成コースなど。 ・Uターン支援については、各地域コアの企業からの求人情報等に加え、地域でどのような課題があるか、東京でどのような活動をしてほしいかという要望等を聞きたい。
富山大学	・Drに違和感はなく、機会があればチャレンジさせる。 ・業界の中では、肩書きにDrが無いと相手にされない。是非取らせたい。 ・社会人Drの事例はまだ無い。参加させても、会社の都合で途中休学させることも考えられる。 ・採用においては、学部生・修士生・博士関係なく良い人材を採用する。
大分大学	社会人の学び直しについては、興味を持っている県内企業があるので、スーパー連携大学院コンソーシアムとの連携で地域に適応したプログラムを考えたい。Uターン支援制度については、さらに調査が必要である。
秋田県立大学	・国の補助金制度の中に学生を参加させることが可能になれば、大学との共同研究がやりやすくなる。 ・大学でモデルケースの授業を行い、そこに企業の優秀な若手をアドバイザーとして参加させてはどうか。大学の指導教官から学ぶことで会社としても人材育成のメリットがある。

【H25 調書との対応】9. ③全国ネットワーク型地域コアを活かした地域人材育成の複線化の制度の検討

アンケート回答結果

以下について、該当する番号に○、あるいは記述して下さいようお願いいたします。

(1) 解決すべき課題の有無について記入願います。

1. 現在抱えている自社の技術的課題がある
2. 自社に限らず取り組むべき地域課題、産業課題がある
3. 課題はあるが、公開することができない
4. 自社の課題はないし、地域課題、産業課題もない

2 : 7機関、3 : 2機関、回答なし : 1機関

(2) (1) で1及び2に○を付けた委員にお伺いします。課題はどのようなものですか？

以下に簡潔に記述をお願いします。

1. 生産体制の強化など。
2. 建設業界全体における縮小、高齢化に対する、技術・技能継承
3. 公共インフラの長寿命化・解体・更新に関わる技術継承および
防災・減災を考慮したまちづくり(コンパクトシティ、スマートシティ)のあり方
4. 熱を今以上に有効活用する技術・手段・用途
5. 自社・・・設計技術、現場技術について。その他・・・観光
6. 水抜き栓の新商品開発および高付加価値化
7. 大企業下請城下街から自立化へ
8. 多岐にわたる

(3) スーパー連携大学院プログラムへの進学者を出していただくことは可能でしょうか？

1. 自社（機関）から進学者を出したい
2. 現状では難しいが、数年後には出したい（意向がある）
3. 将来的にも出すことは難しいである

2 : 2機関、3 : 5機関、回答なし : 2機関

(4) スーパー連携大学院プログラム受講生の受入れていただくことは可能でしょうか？

1. 受入れることは可能
2. 受入れることは難しい（よろしければ、難しい理由を具体的にお書きください）

1 : 5機関、2 : 4機関、回答なし : 2機関

2. で記述あり (内容・①中小企業であり、外部からの受講生を受入れて指導する人材が少ない、
②人材不足、③(公財)で3市(室蘭・登別・伊達)の承諾が必要)

(5) (4) で1に○を付けた委員にお伺いします。どのような形態での受入れは可能でしょうか？

1. 共同研究者として自社課題に取り組んでもらうことは可能
2. インターンシップとして、短期受入れは可能
3. インターンシップとして、長期（1か月以上）受入れは可能
4. その他（具体的に記入願います）

2：4機関、3：3機関、回答なし：5機関、重複回答：2機関

(6) スーパー連携大学院プログラムでの講義等について

スーパー連携大学院プログラムの講義として、本学では MOT 基礎論（前期）（電気通信大学及び富山大学から計7名が受講）等を実施しています。更に地域の課題解決やニーズに沿う科目（群）の創設を考えていますが、次のようなご協力は可能でしょうか？

1. スーパー連携大学院プログラムにおける講義の講師を引受けることは可能
2. 講師を引受けることは難しいが、新規科目（群）を提案することは可能
3. いずれも難しい

1：2機関、2：3機関、3：4機関

1. で記述あり（内容・期間等の条件により可能性はある）

(7) (6) で1に○を付けた委員にお伺いします。どのようなご協力が可能でしょうか？

1. 15回の講義の講師を引受けることは可能
2. 15回の講義のうち数回であれば講師を引受けることは可能
3. スポット（1回又は数回）で講義に関連する講演等の講師を引受けることは可能
4. 自社への長期インターンシップ学生向けの事前講義の講師を引受けることは可能
5. その他（簡潔にご記入願います）

1：1機関、2：0機関、3：1機関、4：1機関

3. で記述あり（内容・時間的余裕があればスポットの講義引受可能）

(8) 地域社会人の再教育について

地域コアを生かした人材育成として、本学においても地域社会人の再教育を支援することとしています。地域社会人の再教育を目的とした科目（群）を創設し実施することが必要と考えておりますが、次のようなご協力は可能でしょうか？

1. 科目（群）の創設に係る会議等に参画することが可能
2. 科目（群）の創設に係る会議等に参画することは難しいが、社会人の勧誘は可能
3. 参画も勧誘も難しい

1：5機関、2：2機関、3：2機関

スーパー連携大学院プログラム履修要覧

1. 教育目的

スーパー連携大学院プログラムは、スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員である大学、企業及び行政機関がそれぞれの特色を活かして、産学官連携による教育の質を保証したカリキュラムの実施とキャリアパスの確立、所属組織の異なる複数の教員による共同研究ベースの学位研究指導を行うことによって、グローバル化社会においてリーダーシップを発揮し、広く産業界や行政にわたってイノベーションによる価値の創造を担うことができる「志」の高い博士人材を育成することを目的としている。

2. アドミッション・ポリシー

スーパー連携大学院では、産業界や行政の広い分野でイノベーションの担い手として活躍する志を持ち、以下のような資質・能力・意欲を持った学生を広く国内外から受け入れる。

[求める学生像]

1. ベンチャー精神旺盛で自立を目指す人
2. 実社会のさまざまな分野で創造的能力を発揮し活躍したい人
3. 専門分野への深い造詣の上にマネジメント力を兼ね備えたい人
4. 未来指向の先見性と革新性を身につけたい人
5. 質の高いコミュニケーション力を発揮したい人
6. リーダーとして尊敬される深い教養を備えたい人
7. 国際的感覚を備え、世界で活躍したい人

3. 学修・教育目標

学修・教育目標として下記の A～Hを設定し、これらの学修・教育目標の達成のために修得すべき知識と能力を明確にした科目群を配置している。学修・教育目標と科目群・科目類・科目との関係を表1に示す。

- A. <志> “志”教育により、旺盛なベンチャー精神を養うと共に、専門家としての高い志と自立性を涵養する。
- B. <基礎・専門知識> 質の保証された教養基礎教育およびそれぞれの分野の専門教育により、応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、専門的造詣を深める。
- C. <実践力・マネジメント力> 専門分野教育、MOT 教育およびプロジェクト実践教育(PBL ; Project-Based Learning)、インターンシップ、海外研修等)により、専門分野における学術体系およびその社会的影響について深い見識を持ち、当該分野の専門家としてのマネジメント能力を身につける。
- D. <創造性> 応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、プロジェクト等の実践的能力を身につけた上で、先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究を遂行することにより、実社会のさまざまな分野で活躍しうる創造的課題解決能力を身につける。
- E. <先見性・革新性> “志”教育、教養教育および先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究により、未来指向の先見性と革新性を身につける。
- F. <コミュニケーション力> “志”教育、教養教育およびプロジェクト実践教育により、日本語および外国語による論理的文章力をはじめ、ディベート力、プレゼンテーション力など、総合的に質の高いコミュニケーション能力とチームワーク力を身につける。
- G. <倫理・教養> 教養教育および自己啓発により、リーダーとして尊敬される倫理観と深い教養を身につける。
- H. <国際性・グローバルマインド> 海外研修、海外インターンシップ、国際サマースクール、国際会議参加、英語教育などを通して、世界で活躍できる国際的感覚と国際的視野を身につけ、あわせて“志”教育、教養教育、地域学などを通じてグローバルマインドを涵養する。

表1 学修・教育目標と科目の関係

科目群・科目類・科目		学修・教育目標							
		A 志	B 基礎・専門知識	C 実践力・マネジメント力	D 創造性	E 先見性・革新性	F コミュニケーション力	G 倫理・教養	H 国際性・グローバルマインド
“志”教育科目群		◎		○	○	○	○	○	○
教養科目群	教養基礎科目類	基礎数理・論理科目類		◎		○	○	○	○
		MOT科目類			◎				○
	科学技術史	○		○		○		◎	
教養応用科目類		○		◎		◎	○	◎	○
専門科目群	専門基礎科目類			◎		○			
	専門展開科目類			◎		○			
	専門特論科目類			◎		○			
	地域学科科目類			○			○		◎ ◎
プロジェクト実践科目群	PBL				○	◎		◎	
	短期インターンシップ				○	○		◎	
	海外研修, 共同研究長期インターンシップ				○	○		◎	○ ◎
研究プロポーザル									
共同研究型サーティフィケート研究			○	◎	◎	◎	○		

◎：対応，○：関連，○：一部関連

4. 教育プログラム

4-1 スーパー連携大学院プログラムとは

スーパー連携大学院プログラムは、広く実社会でイノベーションを担う志の高い博士人材育成プログラムであり、スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員大学の大学院博士前期課程の入学者の中から希望する学生を募って、プログラム受講生とする。従って、スーパー連携大学院プログラム受講生は、同時に各大学の大学院研究科・専攻の所属学生であり、学年も同一であるものとする。

スーパー連携大学院プログラムは、博士前期課程（標準2年）と博士後期課程（標準3年）を一貫する標準5年間のプログラムである。ただし、博士後期課程への進級時にはスーパー連携大学院プログラム博士前期課程の科目修得の修了要件と共に、博士後期課程で行う共同研究型サーティフィケート研究のプロポーザル（研究課題提案と研究計画）の審査に合格した受講生が博士後期課程への進級を認められる。

スーパー連携大学院では、博士前期課程の修了要件を満たして博士後期課程に進学する学生に対して「イノベーション博士候補（Innovative PhD Candidate）サーティフィケート」を授与する。また、博士後期課程の修了要件を満たし、共同研究型サーティフィケート研究の成果論文の審査に合格した受講生に対して「イノベーション博士（Innovative PhD）サーティフィケート」を授与する。

本教育プログラムは、標準年限を大学院博士課程の5年間とするが、博士前期課程(修士課程)の2年間で修了することもできる(イノベーション修士サーティフィケート修得)。

また、イノベーション修士サーティフィケートを修得し、就職した後に博士後期課程に入学する場合も本プログラムを継続して受講することができる。

4-2 スーパー連携大学院プログラムと所属大学院との関係

スーパー連携大学院プログラム受講生は、所属大学院研究科・専攻の教育科目を履修すると共に、スーパー連携大学院プログラムが提供する教育科目を履修する必要がある。

スーパー連携大学院プログラムの修了要件と所属研究科・専攻の修了要件は、専門科目群については共通する部分が多いが、それに加えてスーパー連携大学院プログラムでは「志」教育科目群、「教養科目群」、「プロジェクト実践科目群」、「共同研究型サーティフィケート研究」、「地域学科目類」などの修得を条件としている。一方、現状では多くの大学で大学院博士前期課程の修了条件として課している修士論文研究は、スーパー連携大学院プログラムでは修了条件としていない。

これらの関係を、5年間の教育プログラムの年次計画として図1に示す。

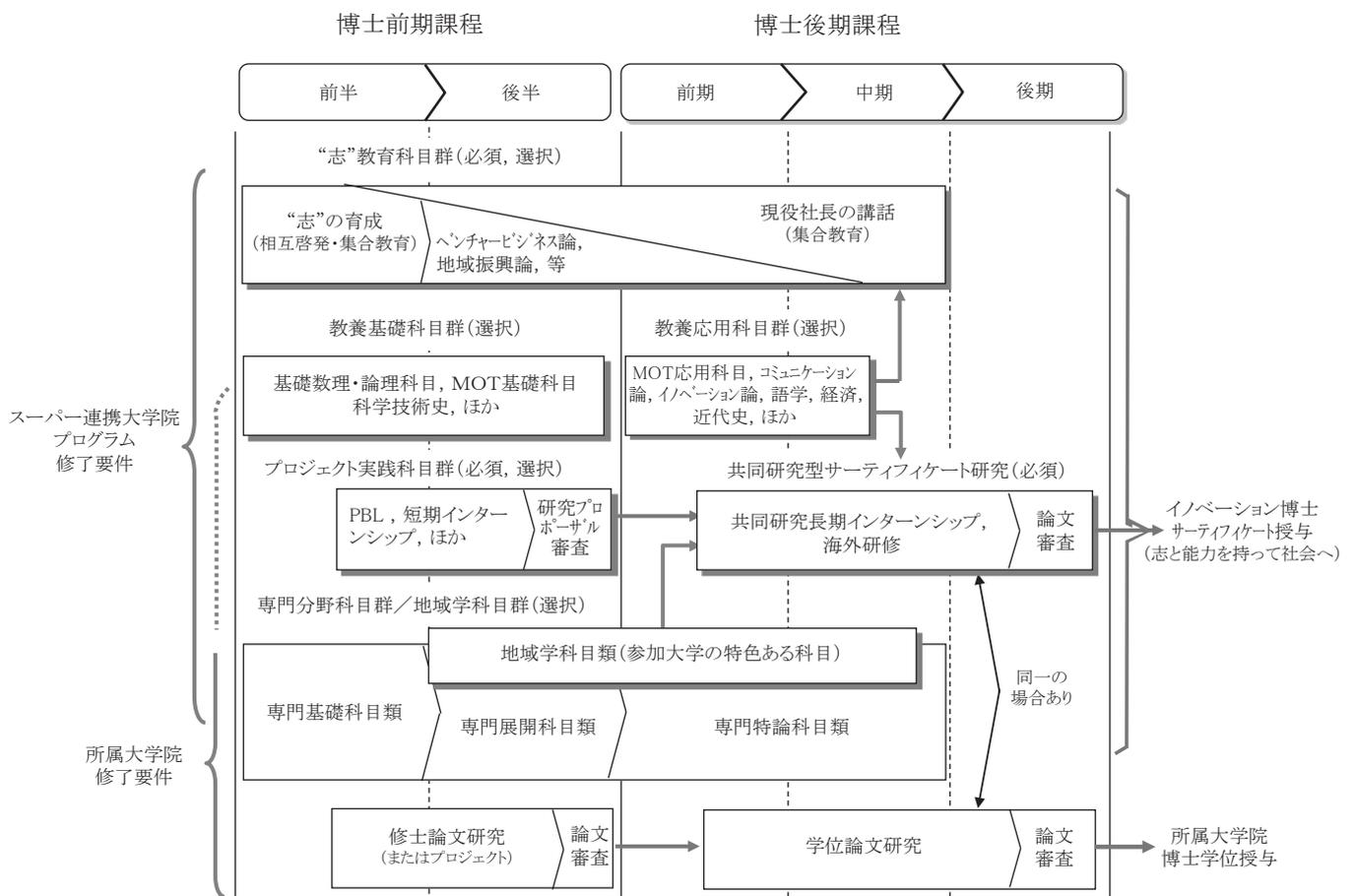


図1 年次計画

4-3 教育方法

- ・スーパー連携大学院コンソーシアム参加大学の単位互換科目によるカリキュラムによって、イノベーション博士候補サーティフィケート、イノベーション修士サーティフィケート、イノベーション博士サーティフィケートの授与に必要な条件ならびに所属大学院学位授与の条件の双方に必要な教育が行われる。
- ・単位互換科目は、eラーニングシステムでの遠隔受講を可能とする。eラーニングとして、自習形式、受動的講義形式、全員参加型講義形式などのシステムを用意する。
- ・実験等を行うことが必要な科目については、集合授業への参加を必要とする(eラーニングシステムでの遠隔講義受講では単位取得が出来ない)。

- ・講義では討論の時間が設けられ、対話型の授業が進められるので積極的に発言することが求められる。
- ・スーパー連携大学院プログラムでは、対面での受講あるいはeラーニングシステムのライブでの受講を必須とする。

4-4 評価方法

(1) 演習・課題・レポート

- ・毎回あるいは単元毎に出される課題をそれぞれ定められた提出期限までに提出する。合格は、60点以上とする。

(2) 試験

- ・筆記試験(定期・最終筆記試験)を行い60点以上を合格点とする。あるいは、複数の筆記試験と最終レポートを組み合わせで評価し、60点以上を合格とする。
- ・試験問題と解答例、評価方法をインターネット等で外部に開示する。

(3) 評価

- ・評価はS(100~90点), A(89~80点), B(79~70点), C(69~60点)として記載する。

(4) 成績指標値(GPA)の算出

- ・成績指標値の算出は以下の方法によって行う。

- ① 評価点は、S=4, A=3, B=2, C=1
- ② 取得点の計算は、当該科目で得た 評価点×単位数。
- ③ 算出は、 $GPA = (\text{取得点の合計}) / (\text{取得した科目の単位数の合計})$

5. 共同研究の実施方法

スーパー連携大学院が行う共同研究は、大学、企業等からの複数の教員、研究者、受講生によるプロジェクト研究を基本とする。その実施方法の概念図を図2に示す。

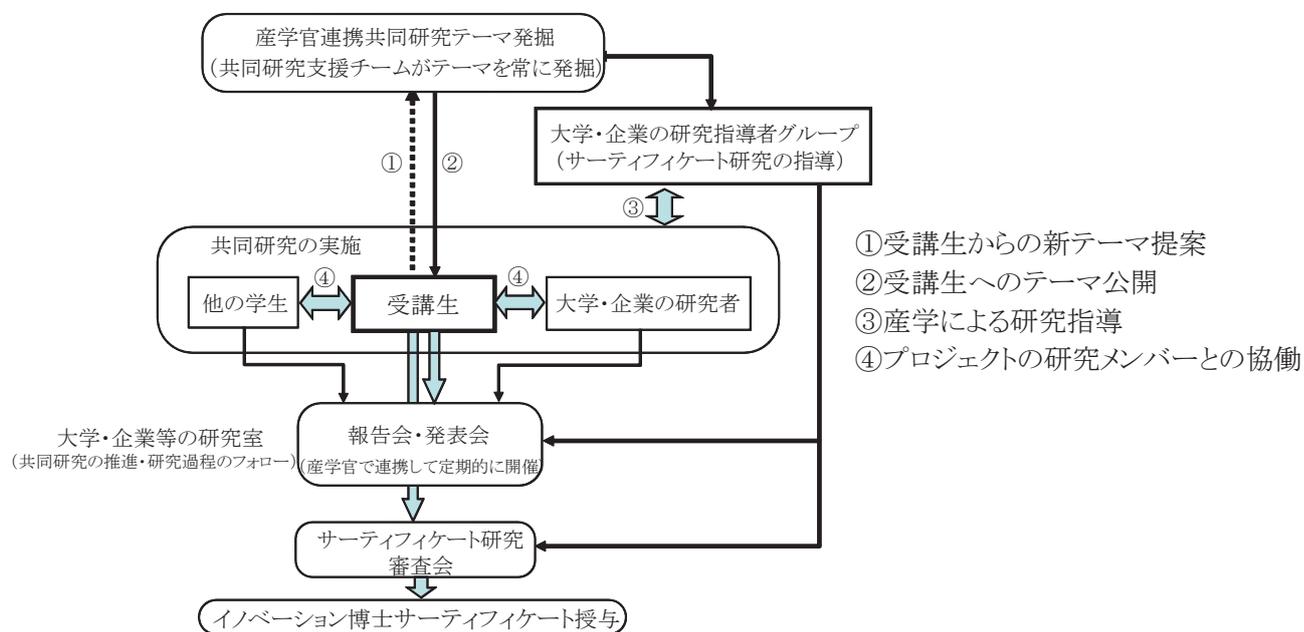


図2 共同研究等の連携体制とサーティフィケート研究の概念図

共同研究のテーマとしては、概略以下の4タイプが想定される。

○タイプA: ドリームテーマ

- ・夢のある大規模プロジェクトであり、プロジェクト実現に必要な数多くの要素となるテーマについてそれぞれ共同研究を行うもの。
- ・関係者による研究会を立ち上げて、テーマの探索、共同研究テーマの設定などを行い、設定されたそれぞれ

の共同研究に受講生が参加する。

○タイプB:既契約共同研究テーマ

・個々の企業と教員が既に共同研究を実施中のテーマであり、そこへ受講生が参加する。

○タイプC:潜在共同研究テーマ

・企業が将来に望むテーマであり、企業からの提案に対して教員、受講生が参加する。

○タイプD:学生発案テーマ

・受講生の新たなテーマの発案・提案に対し、関心を持つ企業を募り、新たな共同研究としてスタートさせる。

6. プログラム履修規程

6-1 履修科目群(科目類・科目を含む)

スーパー連携大学院プログラムでは、博士前期課程と博士後期課程それぞれの修了時にサーティフィケートの取得を目指すため、受講生は、メンター(指導教員、コーディネーター等)と相談し、毎年期首に所属大学院の履修科目を含め総合的に履修計画を立てるものとする。

各科目群の履修は原則として以下のように行う。

- (1) “志”教育科目:スーパー連携大学院カリキュラム表より博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (2) 教養基礎・応用科目:スーパー連携大学院カリキュラム表より博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (3) 専門基礎・展開・特論科目:スーパー連携大学院カリキュラム表から選択する。
選択科目所要単位(博士前期課程12単位以上のうち8単位まで、博士後期課程8単位以上のうち6単位まで)は所属大学院の専門科目(ゼミ、演習等、修士論文は対象にしない)での充当を認める。ただし、その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない。なお、履修する専門科目群が所属大学院の専門科目に偏らないことが望ましい。
- (4) 地域学科目:スーパー連携大学院カリキュラム表より博士前期課程から博士後期課程の期間に履修する。
- (5) プロジェクト実践科目:短期インターンシップは博士前期課程の期間に所属大学の規程に従って行い、単位数は実施時間により付与する。共同研究長期インターンシップおよび海外研修は博士後期課程の期間に行う。
- (6) 研究プロポーザル:博士後期課程で行う研究課題提案と研究計画を提出し、審査に合格する。
- (7) 修士論文研究(またはプロジェクト):所属大学院の規定に従って行う(スーパー連携大学院プログラムの履修要件とはしていない)。
- (8) 共同研究型サーティフィケート研究論文:博士後期課程の期間に、共同研究長期インターンシップによる企業等との共同研究(プロジェクト研究:大学と企業で構成される研究グループが行う研究)へ参加して行う。共同研究で行った研究成果を博士学位論文に相当するサーティフィケート研究論文としてまとめる。サーティフィケート研究論文は、スーパー連携大学院コンソーシアムが設置する審査委員会において審査される。
- (9) 学位論文研究:所属大学院の規程に従って行う。場合によっては共同研究型サーティフィケート研究論文と同一となる。
- (10) 英語:TOEICを受験する(年1回以上)。博士前期課程で600点以上、博士後期課程で700点以上取得することを目標とする。

6-2 科目群(科目類・科目を含む)の履修方法

(1) 各科目群の履修は、下記の手続きを必要とする。

・所属大学院に設置されている科目は、所属大学院の手続きに従い履修登録を行う。

・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、特別聴講学生として履修登録を行う。

(2) 各科目群の履修は、原則として下記の方法で行う。

・所属大学院に設置されている科目は、通常の対面受講を行う。

・所属大学院以外のプログラム参加大学に設置されている科目は、eラーニングによるライブ受講を行う。

・同時間帯の講義の受講は認めない。ただし、以下の3条件を満たす場合、講義毎にスーパー連携大学院

プログラムのオンデマンド講義での重複受講を認める場合がある。

- ①他の講義とスーパー連携大学院プログラムの講義が重なる。
- ②スーパー連携大学院プログラムの講義をライブで受講できない明確な理由がある。
- ③スーパー連携大学院プログラムの講義担当者が以下を認め、実施する。
 - a) オンデマンドでの受講を認める(講義内容に依存)。
 - b) 毎週の宿題, 筆記試験等は他の受講生と同様に課す。
 - c) 質疑の時間を別途個別に設ける。

(3) 海外研修は、下記の実施要領で行う。

内 容	海外の大学, 研究機関, 企業等での研修とする。 本人の国際会議での発表, 本人の研究に関連する海外研究室等の訪問とそこでの議論などを組み合わせて実施することも可能とする。ただし, 語学研修は含まない。
期 間	原則として連続する4週間以上
実施手順	①本人, 指導教員, スーパー連携大学院のコーディネーターの3者で研修計画を立て実施計画(所属大学や外部留学支援制度の応募計画を含む)をスーパー連携大学院に提出する。 ②本人, 指導教員, スーパー連携大学院のコーディネーターの3者で相談し, 所属大学の「留学支援」「海外インターンシップ」などの支援制度や IAESTE 等の外部留学支援制度に応募する。 ③上記の支援制度を利用できなかった場合は, スーパー連携大学院に支援を請求する。 ④終了後実施報告書をスーパー連携大学院に提出する。
費 用	所属大学や外部留学支援制度を利用できなかった場合は, スーパー連携大学院が別に定める交通費を補助する(海外研修補助金申請要項)。

(4) 共同研究長期インターンシップは、下記の実施要領で行う。

内 容	共同研究先あるいは関連機関等で共同研究長期インターンシップを実施する。共同研究長期インターンシップが海外で行われる場合には, その実施計画の中に「海外研修」を含めることができる。
期 間	原則として3か月以上(目安: 週の半数程度以上の滞在が計12週以上となること)。実施場所が海外で, 連続して行う場合, 「海外研修」も含み4週間以上とする。
実施手順	①本人, 指導教員, 共同研究先担当者, スーパー連携大学院のコーディネーターの4者で相談し, 実施計画を作成し, スーパー連携大学院に提出する。 ②スーパー連携大学院のコーディネーターが共同研究先と交渉し諸条件を決定する。 ③終了後, 実施報告書をスーパー連携大学院に提出する。
費 用	共同研究先が滞在費や交通費等を負担することを基本とするが, 先方が制度を持たない場合は, スーパー連携大学院が別に定める交通費を補助する(共同研究長期インターンシップ補助金申請要項)。

(5) 英語: TOEIC のスコアを博士前期課程で 600 点以上, 博士後期課程で 700 点以上取得することを目標として, TOEIC を毎年 1 回以上受験し, 達成度を確認すること。スコア達成のために「英語特別プログラム」の活用や各地域で年数回実施される試験日に合わせ計画的に受験する。

また, 受験料が所属大学で補助されない場合は, コンソーシアムが受験料 1 回分/年を補助する。その場合, 証明書類として受験料の領収書とスコアの公式認定証(写)を提出する。

6-3 受講の取り止め

病気その他やむを得ない事情により受講を取りやめようとするときは, 主指導教員(メンター)の承認を得た上で, 受講取り止め願いを提出すること。

7. プログラム履修要件

7-1 博士前期課程

博士前期課程では、表2に示す科目の単位を取得し、それらの成績指標値(GPA)が3.0/4.0以上を目指す。さらに、博士前期課程を修了し、博士後期課程に進学する場合は、研究プロポーザル(研究課題の提案および研究計画)の審査に合格する必要がある。

表2 博士前期課程

	科目群	科目類	所要単位	
授業	“志”教育科目群	選択	≥2	≥4
		必修 現役社長の講話	≥2	
	教養基礎・応用科目群	選択	≥4	
	専門科目群 *1	選択 専門基礎科目類	≥12	≥14
		選択 専門展開科目類		
必修 地域学科目類		≥2		
実践	プロジェクト実践	必修 短期インターンシップ	実施時間による(*2)	
	研究プロポーザル	必修 サーティフィケート研究プロポーザル *3	-	
	英語	必修 TOEIC スコア目標:600点以上	-	
取得単位合計			≥30	

*1 専門基礎科目類、専門展開科目類はスーパー連携大学院カリキュラム表から選択する。

選択科目所要単位(12単位以上)のうち8単位までは所属大学院の専門科目での充当を認める。ただし、その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない。

なお、履修する専門基礎科目、専門展開科目が所属大学院の専門科目に偏らないことが望ましい。

*2 短期インターンシップの単位数は実施時間により付与する。ただし、その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない。

2015年度以前に実施の場合は所属大学の規定による。実施時間には、インターンシップに付随する研修会、報告会等の時間も含むものとする。

45時間以上 90時間未満 1単位

90時間以上 180時間未満 2単位

180時間以上 4単位

*3 博士前期課程を修了し、博士後期課程に進学する場合は研究プロポーザルの審査を受ける。

7-2 博士後期課程

博士後期課程では、表3に示す科目の単位を取得し、それらの成績指標値(GPA)が3.0/4.0以上を目指す。

表3 博士後期課程

	科目群	科目類	所要単位	
授業	“志”教育科目群	選択	≥2	≥4
		必修 現役社長の講話	≥2	
	教養基礎・応用科目群	選択	≥4	
	専門科目群 *4	選択 専門展開科目類	≥8	≥10
		選択 専門特論科目類, 他		
必修 地域学科目類		≥2		
実践	プロジェクト実践	必修 共同研究長期インターンシップ *5	-	
		必修 海外研修 *6	-	
	産学連携共同研究	必修 サーティフィケート研究論文	-	
	英語	必修 TOEIC スコア目標:700点以上	-	
取得単位合計			≥20	

*4 専門展開科目類, 専門特論科目類他はスーパー連携大学院カリキュラム表から選択する.

選択科目所要単位(8単位以上)のうち6単位までは所属大学院の専門科目での充当を認める. ただし, その評価は成績指標値(GPA)の算出に使用しない.

なお, 履修する専門展開科目, 専門特論科目が所属大学院の専門科目に偏らないことが望ましい.

*5 共同研究長期インターンシップ終了後, インターンシップ先より評価を受ける.

*6 海外研修終了後, 指導教員より評価を受ける.

7-3 短期修了

標準年限よりも短時間で, それぞれの修了要件を満たした場合には, 所定の修了の場合と同様に該当するサーティフィケートが授与されるものとする.

8. サーティフィケートの授与

8-1 サーティフィケート授与の要件

サーティフィケート	授与要件
イノベーション博士候補サーティフィケート	博士前期課程を修了し, 博士後期課程に進学する者
イノベーション修士サーティフィケート	博士前期課程を修了した者(博士後期課程に進学しない者)
イノベーション博士サーティフィケート	博士後期課程を修了した者

8-2 サーティフィケートの審査

サーティフィケート審査は, 以下の履修要件の取得状況を総合的に評価し, 判定する.

- (1) 科目群の履修状況
- (2) 所定科目の成績指標値(GPA)
- (3) 短期インターンシップの実施状況
- (4) 共同研究長期インターンシップ(イノベーション博士サーティフィケートのみ)
- (5) 海外研修(イノベーション博士サーティフィケートのみ)
- (6) 英語の学力達成度
- (7) 学修・教育目標達成度
- (8) サーティフィケート研究プロポーザル(イノベーション博士候補サーティフィケートのみ)
- (9) サーティフィケート研究論文(イノベーション博士サーティフィケートのみ)

9. 受講生支援

9-1 生活支援

受講生の生活支援全般は, 基本的には受講生が所属する大学の担当部署が行う. また, スーパー連携大学院プログラムを受講する博士後期課程の受講生に対し, 修学に必要な経済的支援として給付型の奨学金を支給する(詳細は別に定める).

9-2 就職支援

スーパー連携大学院コンソーシアムに参加している企業等を含めて就職支援を行う.

10. スーパー連携大学院の運営組織

スーパー連携大学院は, 会員となっている大学, 企業および行政機関等から組織された一般社団法人スーパー連携大学院コンソーシアムによって運営される.

会員の一覧はホームページ(<http://www.super-daigakuin.jp/memberlist.html>)をご参照.

スーパー連携大学院講義の質保証について

スーパー連携大学院の講義は下記を満たす必要がある。

項目	要件	チェック欄
シラバス	履修内容と成績評価基準を明示する。	
	インターネット等で外部へ開示する。	
講義	スーパー連携大学院が用意する e-learning システムでの受講を可能とする。 ただし、実験装置・試作装置を使う、また、討論が中心であるなど、その場での受講が必須と判断される講義に関しては、原則として毎回の講義風景、演習風景等を e-learning システムで配信でき、かつ、その他の質保証要件を満たせば、スーパー連携大学院の講義として認める。	
	出席は2 / 3以上とする (e-learning の場合はログオン時間で管理)。	
演習問題・課題・レポート	毎回、あるいは、単元毎に課題を出し、すべての課題をそれぞれ定められた提出期限までに提出させ、60点以上を合格とする。	
	課題、解答例をインターネット等で外部へ開示する。	
討論	討論の時間を設ける。	
筆記試験	原則として、筆記試験（定期試験・最終筆記試験）を行い、60点以上を合格とする。 複数の筆記試験と最終レポートの組み合わせの方でも可とする。	
	試験問題、解答例、受講生の解答とその評価をインターネットで外部へ開示する（但し個人が特定できないように配慮する）。	
講義の外部評価	受講生による授業評価を行う。	
	インターネットで開示された情報、および e-learning で保存されたコンテンツを元に、スーパー連携大学院質保証委員による外部評価を受ける。	

回答日： _____ 授業科目名 (_____)

この授業アンケートは、今後の授業改善に役立てることを目的に実施するものです。受講生の皆様にはご回答いただきますようお願いいたします。以下の設問について該当する項目の番号を○で囲んでください。

1. シラバスに記載された授業のねらい、学修到達目標、授業計画及び授業方法に沿って授業が実施されましたか。該当する箇所に○を記入してください。

[2016年度カリキュラム] <http://www.super-daigakuin.jp/pdf/2016curriculum.pdf>

	①シラバスどおりに実施された	②シラバスどおりのおおむね実施された	③シラバスどおり実施されなかった
授業のねらい			
学修到達目標			
授業計画及び授業方法			

シラバスどおり実施されなかったと思われる理由をご記入ください。

2. 受講の結果、学修到達目標の達成度を自己評価するとどのくらいですか。

①90%以上 ②70%以上 ③50%未満

3. 授業の満足度（履修を終えての総合的評価）を回答ください。

①非常に満足した ②ほぼ満足した ③満足度が低い

4. 【授業について】

この授業に対する意見、感想など自由に記入してください。

5. 【e-ラーニングについて】

e-ラーニングによる授業に対して、講師への要望、システムの改善点などについての意見があれば、自由に記入してください（e-ラーニングで受講した場合のみご回答ください）。

6. 【スーパー連携大学院プログラム全般】

上記以外で、ご意見・ご要望などあれば、自由に記入してください。

(2枚になっても結構です)

スーパー連携大学院プログラム 授業実施状況報告書

回答日: 2017年 月 日

年度・学期	2016年度 後学期	開講大学		担当教員	
授業科目名					

実施内容			
授 業	講義	回/15回	15回未満の場合はその理由 []
	演習問題・課題・レポート等の実施	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 毎回実施 <input type="checkbox"/> __回実施 <input type="checkbox"/> 課題や解答例を外部へ開示した(moodleや授業情報HP等) 開示先URL:
	討論(質疑含む)	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 毎回実施 <input type="checkbox"/> __回実施
試 験	筆記試験 (定期試験・最終筆記試験)	<input type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	実施しなかった場合: 筆記試験に代わる評価方法 [] <input type="checkbox"/> 試験問題や解答例を外部へ開示した(moodleや授業情報HP等) 開示先URL:

授業科目シラバスとの整合性				
	整合	ほぼ整合	整合せず	シラバス通りに実施しなかった理由
授業のねらい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
学修到達目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
授業計画及び授業方法	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

学修到達目標に対する学生の到達度	
自己評価	[] %

<p>スーパー連携大学院プログラムの授業実施上の問題点・改善点および受講生に関するコメント (今後のプログラム改善の参考にさせていただきます。自由にご記入ください。)</p>

学修・教育目標達成度評価基準(評価ルーブリック)

2014.9.2改定

学修・教育目標	達成度評価の観点	達成度レベル				
		1 (poor)	2 (fair)	3 (good)	4 (very good)	5 (excellent)
A “志”教育により、旺盛なベンチャー精神を養うと共に、専門家としての高い志と自立性を涵養する	未知・不確実なことへの取り組み経験と挑戦する意欲	未知・不確実なことへの取り組みが未経験であるか、または経験はあるが力を入れたことがない	未知・不確実なことへの2～3の取り組み経験の内、その半数程度に対して力を入れて挑戦した	未知・不確実なことへの多くの取り組み経験の内、半数程度に対してほぼ全力を出して挑戦した	未知・不確実なことへの多数の取り組みの内、その大半(7割以上)に対してほぼ全力を出して挑戦した	未知・不確実なことへの多数の取り組みについて、その全てに対して常に全力を出して挑戦した
	専門家としての倫理感と社会的使命感	技術者倫理の必要性、社会的使命を理解しているつもりだが、実際の場面に遭遇したことがなく未知である	技術者倫理について事例による演習をしたことがあり、技術者の社会的使命について考えたことがある	技術者倫理に関わる報道に対して時々考え、技術者の社会的使命を時々考えている	技術者倫理に関わるほぼ全ての報道に対して考察し、専門家としての社会的使命を時々考えている	技術者倫理問題に係わり議論・思考した経験があり、専門家としての社会的使命を主張することができる
	精神的に健全な自律心と自己管理能力	精神的にたびたび不安定になり、規則的な生活・計画的な行動ができないことが多い	精神的にほぼ安定しており、ほぼ半数以上の場面で規則的な生活・計画的な行動をとることができる	精神的にほぼ安定しており、ほぼ全ての場面で規則的な生活・計画的な行動をとることができる	精神的に安定しており、全ての場面で規則的な生活・計画的な行動をとることができる	精神的に非常に安定しており、全ての場面で規則的な生活・計画的な行動を完璧にとることができる
B 質の保証された教養基礎教育およびそれぞれの分野の専門教育により、応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、専門的能力を高める。	専門分野の基礎となる学問に関する知識	専門基礎学問に未習得の部分がある。または学問ではいまいち理解度の低い(70%以下)ものが半数以上ある	専門基礎学問はほとんど全て(90%以上)習得しているが、理解度が平均80%程度である	専門基礎学問は全て習得しており、理解度は平均90%程度である	専門基礎学問は全て習得しており、理解度は平均90%以上であり、さらに他者を指導したことがある	専門基礎学問は全て習得しており、理解度はほぼ100%であり、さらに他者の指導経験を多く有する
	専門分野の学問に関する知識	専門分野に必要な知識に未習得な部分(50%以上ある。または70%以上習得しているが理解度の低い(70%以下)ものが半数以上ある	専門分野に必要な知識はほとんど(80%以上)習得しているが、理解度が平均80%程度である	専門分野に必要な知識はほとんど全て(90%以上)習得しており、理解度は平均90%程度である	専門分野に必要な知識は全て習得しており、理解度は平均90%以上であり、さらに他者を指導したことがある	専門分野に必要な知識は全て習得しており、理解度はほぼ100%であり、さらに他者の指導経験を多く有する
	専門分野および関連分野の社会の表情把握	専門分野の技術動向および内外の産業動向について把握していない、または1例を知っている程度である	専門分野の技術動向および内外の産業動向について2～3の事例を知っている	専門分野の技術動向および内外の産業動向について5～6の事例を知っている	専門分野の技術動向および内外の産業動向について5～6以上の事例を知っており、今後重要な技術を説明できる	専門分野の技術動向および内外の産業動向について内外の多数の事例を知っており、今後重要な技術および産業を説明できる
C 専門分野教育、MOT教育およびプロジェクト実践教育(PBL、インターンシップ、海外研修等)により、専門分野における学術体系およびその社会的影響についての深い見識を持ち、併せて当該分野の専門家としてのマネジメント能力を身につける	専門分野の学術体系の理解	専門分野の学術体系と、その中で自分の専門領域の学術体系をおおそそ把握している程度である	専門分野の学術体系と、その中で自分の専門領域の学術体系を理解している	専門分野の学術体系を理解しており、自分の専門領域の学術体系について説明することができる	専門分野の学術体系全体を、自分の専門領域との関係を含めて説明することができる	専門分野の学術体系全体を、自分の専門領域との関係を含めて広く俯瞰し、それらの最新動向についても説明することができる
	専門分野の科学技術が与える社会的・経済的影響の理解	専門分野の科学技術が与える社会的・経済的影響をおおそそ理解している程度である	専門分野の科学技術が与える社会的・経済的影響を理解している	専門分野の科学技術が与える社会的・経済的影響について説明できる	専門分野の科学技術が与える社会的・経済的影響について問題点を指摘することも説明できる	専門分野の科学技術が与える社会的・経済的影響について問題点を対策を含めて説明できる
	知的財産(特許、著作権、標準化、等)の知識とその応用力	知的財産について、特許、著作権、標準化の部分的な知識を有する程度である	知的財産について特許、著作権、標準化の知識を一通り知っている	知的財産の知識を有し、特許や標準化の調査をしたことがある	知的財産の知識を有し、特許や標準化の調査をしたことがある	知的財産の知識を有し、特許・標準化調査、複数の特許出願経験があり、他人の指導ができる
D 応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、プロジェクト等の実践的能力を身につけた上で、先導的な共同研究型サーティファケート研究を遂行することにより、実社会のさまざまな分野で発揮し活躍しうる創造的能力を身につける	プロジェクト管理に関する知識とその応用力	プロジェクト管理について学んだことがない	プロジェクト管理を学んでおり、その基礎的な知識を有する	プロジェクト管理の知識を有し、PBLなど一部活用した経験がある	プロジェクト管理の諸手法を活用して遂行したプロジェクトが成功した経験がある	プロジェクト管理の諸手法を活用して遂行したプロジェクトが成功した経験がある
	チームワークの結果、プロジェクトの成果および自己・他者に関する評価力	実験結果の検証・評価を行った経験がある程度である	実験、インターンシップ、PBLなどの実施における自己評価をした経験がある	インターンシップ、PBLなどの実施における自己評価をした経験がある	プロジェクトなどの実施における結果評価、自己および他者の評価をした経験がある	論文査読、共同研究などの研究評価、共同研究での自己および他者の評価をした経験がある
	新規性のある研究テーマの発掘力	自ら研究テーマを提案した経験がない、または研究テーマ発掘を目指したことはあるが新提案は出せなかった	自ら新規の研究テーマを提案した経験があり、それについて研究した経験がある	自ら新規の研究テーマを提案し、そのテーマの研究内容を学会で口頭発表したことがある	自ら新規の研究テーマを提案し、そのテーマの研究内容を学会で口頭発表したことがある	自ら新規性が高いテーマを提案し、そのテーマの研究内容を学術論文として発表したことがある
E “志”教育、教養教育および先導的な共同研究型サーティファケート研究により、優れた先見性と革新性を身につける	研究遂行上の問題解決に必要なアイデアの創出力	研究を遂行した経験がない、または研究を遂行した経験があるが問題解決ができなかった	問題解決に有効なアイデアを創出した経験がある	問題解決に有効なアイデアを創出し、その研究成果を学会で口頭発表したことがある	問題解決に有効な大きなアイデアを創出し、その研究成果を学術論文で発表したことがある	問題解決に有効な大きなアイデアを創出し、その研究成果を発表した学術論文または国際会議論文が受賞したことがある
	研究遂行への専門知識・関連知識の応用力	研究を遂行した経験がない、または研究遂行の経験はあるが知識の応用力が不十分で成果が得られなかった	専門知識・関連知識を応用して研究を遂行した経験がある	専門知識・関連知識を有効に活用して研究を遂行し、研究成果を学会で口頭発表したことがある	専門知識・関連知識を効果的に応用して研究を遂行し、研究成果を学術論文として発表したことがある	専門知識・関連知識を効果的に応用して研究を遂行し、研究成果を発表した学術論文または国際会議論文が受賞したことがある
	研究提案の社会的意義・技術的着眼点の先見性	社会的意義や技術の先見性がある研究やプロジェクトを提案したことがない	自身が行った研究提案または研究・プロジェクトの社会的意義や技術的着眼点の先見性を説明できる	自身の研究提案の社会的意義や技術的着眼点の先見性の記述を含む論文執筆や発表を行ったことがある	自身の研究提案の社会的意義や技術的着眼点の先見性を主に主張する論文執筆や発表を行ったことがある	自身の研究や研究提案の論文執筆や発表において、その社会的意義や技術的着眼点が評価されて受賞した経験がある
F “志”教育、教養教育およびプロジェクト実践教育により、日本語および外国語による論理的な文章力をはじめ、ディベート力、プレゼンテーション力など、総合的に質の高いコミュニケーション能力とチームワーク力を身につける	日本語(母国語)による論理的かつ理解しやすい文章力	日本語検定2級以下のレベルの日本語力である	日本語検定1級レベルの日本語力と、同分野の人には理解が得られる文章力がある	異分野の人にも理解が得られる論理的な文章力がある	異分野の人にも複雑な技術や研究の内容を論理的に説明できる文章力がある	一般の人にも内容の複雑な技術や研究の内容を論理的に分かりやすく説明できる文章力がある
	外国語(英語)による正確で論理的かつ理解しやすい文章力	TOEIC600点以下のレベルの英語力である	TOEIC600点以上のレベルの英語力と、同分野の人には理解が得られる英語の文章力がある	TOEIC850点以上のレベルの英語力であり、異分野の外国人にも理解が得られる論理的な英語文章力がある	TOEIC700点以上のレベルの英語力であり、一般の外国人にも複雑な技術や研究の内容を論理的に分かりやすく説明できる英語の文章力がある	TOEIC800点以上のレベルの英語力であり、一般の外国人にも複雑な技術や研究の内容を論理的に分かりやすく説明できる英語の文章力がある
	ディベート力	討論や意見の対立する議論の経験が少ない	討論や意見の対立する議論をしたことが5回以上あり、意見を発言した経験がある	公開の討論や議論の場で、自己の主張を明確かつ論理的に発言した経験がある	公開の討論や議論の場で、他者の主張の問題点を指摘し、自己の主張を明確かつ論理的に発言した経験がある	公開の討論の場で、他者の主張の問題点を指摘し、自己の主張を明確かつ論理的に発言したこと、および司会をした経験がある
G 教養教育および自己啓発により、リーダーとして尊敬される深い教養を身につける	プレゼンテーション力	卒業発表会などで発表をしたことが経験数が少ない(10回に満たない)	10回以上の発表経験があり、プレゼンテーションの基本に則った発表ができる	多くの発表経験があり、分かりやすい発表資料(スライド、配布資料、等)の作成、言葉使い等に配慮した発表ができる	国内学会等での発表経験があり、分かりやすい発表資料の作成はもとより、聴衆の反応を見ながら説明を調整し時間を厳守した発表ができる	国内学会等での発表および国際会議等での英語による発表経験があり、英語の発表資料を作成、質疑応答への準備をどうも発表ができる
	チームワーク力	実験や演習の経験はあるが、長期のチームワーク(数ヶ月以上のPBL、1ヶ月以上のインターンシップ等)の経験がない	PBL、インターンシップ、プロジェクト(ロボコンテスト等を含む)において長期のチームワークを行った経験がある	目標設定、役割分担を明確にし、長期のチームワークを計画的に遂行し期待した成果を挙げた経験がある	異分野、外国人を含むチームにより、目標設定、役割分担を明確にし、長期のチームワークを計画的に遂行し期待した成果を挙げた経験がある	異分野、外国人を含むチームのリーダーとして、目標設定、役割分担を明確にし、長期のチームワークを計画的に遂行し期待した以上の成果を挙げた経験がある
	リーダーとして必要な教養	学部の教養科目を学んだのみであり、自主的に教養を高める活動をしていない	教養を高める目的で経済、歴史、等に関するマスコム情報を利用してきている	教養講義の受講と共に、経済、歴史、等に関するマスコム情報の利用のほか、読書、講演聴講もしている	教養講義の受講と共に、マスコム情報の利用、年間に数冊の読書の、数回の講演聴講を行っている	教養講義の受講と共に、マスコム情報の利用、年間に10冊以上の読書、10回程度の講演聴講を行っている
H 海外研修、海外インターンシップ、国際会議発表等の海外活動経験	国際的な異文化の理解	外国人との交流、外国文化の学習をしていない	外国人との交流、外国文化の学習経験があり、一般的な異文化理解力がある	外国人の知人および海外旅行経験があり、具体的に異文化を理解している	複数国の外国人知人および海外活動経験があり、開いた異文化を比較して深く理解できる	複数国の外国人知人および複数の海外活動経験があり、主要な異文化を比較して深く理解できる
	地域と世界との関係の理解	地域の状況(産業、生活、観光、等)は大凡知っているが、対応する海外の状況について部分的に知らない	地域の状況を知っており、それに対応する海外の状況について部分的に知っている	地域の国内における位置を理解しており、対応する主要な海外との関係について背景を含めて定性的に状況を理解している	地域の国内における位置および対応する主要な海外との関係について背景を含めて定性的に状況を理解している	地域の国内における位置および対応する主要な海外との関係について背景を含めて定性的に状況を理解している
	グローバルマインドの涵養	海外に関連する地域社会への関心が薄い	海外に関連する地域社会への関心はあるが、地域の課題を議論したり考えたことはない	海外に関連する地域の課題に関して議論(シンポジウム等)に参加したことがある	海外に関連する地域の課題に関する活動(ボランティア等)の経験がある	海外に関連する地域の課題に関して活動(ボランティア等)の経験がある

教育評価報告書

設置大学		年度・学期	2016年度 後学期	担当教員	
授業科目名					

1.授業内容等

評価基準	シラバスの「授業のねらい」、「学修到達目標」、「授業計画及び授業方法」と実際の授業の比較				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業実施状況報告書」の[授業科目シラバスとの整合性]を確認。 ・「受講生による授業アンケート」回答[質問1]および自由記入の関係部分の内容確認。 ・オンデマンド授業視聴による確認。 				
評価結果	<input type="radio"/>	問題ありません		検討課題があります	改善を求めます
コメント					

2.演習問題・課題・レポート・討論(質疑含む)・筆記試験(定期試験等)の実施と開示

評価基準	シラバスの「授業計画及び授業方法」、「成績評価(評価方法・評価基準)」と実施状況の整合性				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業実施状況報告書」の授業・演習問題・課題・レポート・討論(質疑含む)・筆記試験(定期試験等)の実施とその開示を確認。 ・オンデマンド授業視聴による確認。 				
評価結果	<input type="radio"/>	問題ありません		検討課題があります	改善を求めます
コメント	討論(質疑含む)の時間を設けるようご検討ください。				

3.受講生から見た授業の満足度

評価基準	「受講生による授業アンケート」による受講生(回答者)の達成度と満足度				
評価方法	「受講生による授業アンケート」の回答[質問2「達成度」、質問3「満足度」、質問4.5.の自由記入の関係部分]を確認。				
評価結果	<input type="radio"/>	問題ありません		検討課題があります	改善を求めます
コメント	授業に関する意見があります。【受講生による授業アンケート参照】				

2017年6月19日

スーパー連携大学院コンソーシアム

教育評価委員会委員長 氏家 誠司

2016年度 スーパー連携大学院カリキュラム表

形態	区分	所要単位	No	受講対象	授業科目名	講義種別	開講機関	担当教員	開講学期	曜日・時限	単位数	
授業	”志” 教育科目	修士2 以上 博士2 以上	1	M/D	IT最前線 (*情報システム学基礎1)	e-ラーニング	電気通信大学	田野 俊一	後	火曜・5限	2	
			2	M/(D)	ベンチャービジネス論	集合教育	大分大学	氏家 誠司	後	2017. 1月上旬	2	
		修士4 以上 博士4 以上	修士2 以上 博士2 以上	3	M/D	現役社長の講話Ⅰ	集合教育	秋田県立大学	谷内 宏行	後	2017. 3/1~3	1
				4	M/D	現役社長の講話Ⅱ	集合教育	富山大学	岡田 裕之	後	10/28~30	1
			5	M/D	現役社長の講話Ⅲ	集合教育	大分大学	氏家 誠司	前	8/26~28	1	
			6	M/D	現役社長の講話Ⅳ	集合教育	北見工業大学	内島 典子	前	8/17~19	1	
			7	M/D	現役社長の講話Ⅴ	集合教育	室蘭工業大学	溝口 光男	前	9/6~8	1	
			8	M/D	現役社長の講話Ⅵ	集合教育	電気通信大学	牧 昌次郎	前	9/27~29	1	
	教養 基礎科目/ 教養 応用科目	修士4以上 博士4以上	9	M/D	数理科学特論	e-ラーニング	北見工業大学	三波 篤郎	後	火曜・5,6限	2	
			10	M/D	国際科学技術コミュニケーション論	e-ラーニング +集合教育	電気通信大学	西野 哲朗 大木 英司	前	9/21, 23, 24 集合:9/30-10/1	2	
			11	M/D	知的財産権特論	e-ラーニング	電気通信大学	本間 高弘	後	水曜・4限	2	
			12	M/D	ロジカルシンキング入門・実践講座	集合教育	富山大学	三宅 建嗣	後	10/15-16 10/22-23	2	
	専門 科目	専門 基礎科目/ 専門 展開科目/ 専門 特論科目	修士12 以上 博士8 以上 博士10 以上	13	M/D	量子物性学	e-ラーニング	室蘭工業大学	近澤 進	後	火曜・9,10限	2
				14	M/D	電気エネルギー工学特論	e-ラーニング	室蘭工業大学	佐藤 孝紀 渡邊 浩太	前	水曜・3,4限	2
				15	M/D	精密加工学特論	e-ラーニング	北見工業大学	ウラ シャリフ	後	金曜・1,2限	2
				16	M/D	知識工学特論Ⅰ	e-ラーニング	北見工業大学	早川 吉彦	後	水曜・3,4限	2
				17	M/D	インタラクティブシステム特論	e-ラーニング	電気通信大学	梶本 裕之	前	金曜・4限	2
				18	M/D	計算機科学特論	e-ラーニング	電気通信大学	西野 哲朗	後	火曜・5限	2
				19	M/D	無線通信システム特論	e-ラーニング	電気通信大学	藤井 威生 小島 年春	前	月曜・1限	2
				20	M/D	光通信システム特論	対面受講のみ	電気通信大学	來住 直人	後	金曜・4限	2
				21	M/D	ロボット機構制御特論	e-ラーニング	電気通信大学	田中 一男 横井 浩史	後	月曜・4限	2
				22	M/D	実システム創造 (*情報システム学基礎2)	対面受講のみ	電気通信大学	田野 俊一	後	水曜・4,5限	2
				23	M/D	創造的情報メディア論 (*情報メディア論1)	e-ラーニング	電気通信大学	田野 俊一	前	火曜・4限	2
				24	M/D	リスクマネジメント論 (*経営情報システム論1)	e-ラーニング <ライブのみ>	電気通信大学	田中 健次	前	月曜・2限	2
				25	M/D	ベイズ的人工知能特論 (*知識創産システム論1)	e-ラーニング	電気通信大学	植野 真臣	前	金曜・2限	2
				26	M/D	計算機ネットワーク特論 (*ネットワークコンピューティング論2)	e-ラーニング	電気通信大学	吉永 努	後	月曜・3限	2
				27	M/D	コンピュータネットワーク特論 (*ネットワークアーキテクチャ論2)	e-ラーニング	電気通信大学	大坐 島 智	後	火曜・3限	2
				28	M/D	メディア情報通信特論第1	e-ラーニング	富山大学	堀田 裕弘	後	水曜・2限	2
				29	M	メディア情報通信特論第2	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	稲積 泰宏	後	火曜・3限	2
				30	M	流体力学特論	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	川口 清司	前	火曜・1限	2
				31	M	生体情報工学特論	e-ラーニング	富山大学	篠原 寛明	前	木曜・2限	2
				32	M	機械システム動力学特論	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	木村 弘之	前	金曜・2限	2
				33	M/D	機械材料学特論	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	會田 哲夫	前	木曜・3限	2
				34	M/D	強度設計工学特論	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	笠場 孝一	前	火曜・3限	2
				35	M/D	工業熱力学特論	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	手崎 衆	前	火曜・2限	2
				36	M/D	システム工学特論第1	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	廣林 茂樹	前	火曜・2限	2
				37	M/D	シミュレーション工学特論第1	富山大学生の対 面受講のみ	富山大学	佐藤 雅弘	前	木曜・2限	2

形態	区分	所要単位	No	受講対象	授業科目名	講義種別	開講機関	担当教員	開講学期	曜日・時限	単位数
			38	M/(D)	計算機設計特論	(オンデマンド+e-mail)	大分大学	大竹 哲史	後	月曜・2限	2
			39	M	環境材料科学特論	大分大学の対面受講のみ	大分大学	西口 宏泰	後	木曜・2限	2
			40	M	セラミックス化学特論	大分大学の対面受講のみ	大分大学	豊田 昌宏	前	水曜・1限	2
			41	M	高分子材料化学特論	大分大学の対面受講のみ	大分大学	氏家 誠司	前	火曜・2限	2
			42	M/D	生産システム特論	e-ラーニング	秋田県立大学	谷内 宏行	後	木曜・5限	2
			43	M/D	経営情報システム特論	e-ラーニング	秋田県立大学	嶋崎 真仁	後	月曜・4限	2
			44	M/D	先端材料科学特論	e-ラーニング	秋田県立大学	尾藤 輝夫	前	火曜・4限	2
			45	M/D	応用確率統計特論	e-ラーニング	秋田県立大学	木村 寛	前	火曜・3限	2
			46	M/D	流体力学特論	e-ラーニング	秋田県立大学	須藤 誠一	前	木曜・2限	2
			地域学 科目	修士2 以上 博士2 以上	47	M/D	富山地域学	(オンデマンド+e-mail)	富山大学	會澤 宣一	前
		48	M/D	オホーツク地域学	e-ラーニング	北見工業大学	内島 典子	後	金曜・7,8限	2	

(*): 旧(2015年度以前)科目名

M: 博士前期課程が対象。

D: 博士後期課程が対象。

M/D : 博士前期課程・博士後期課程いずれも受講できますが、博士後期課程の方は所属大学の修了要件単位(単位認定)にならない場合があります。詳しくは所属大学にお尋ねください。

M/(D) : 博士前期課程・博士後期課程いずれも受講できますが、博士後期課程の方は所属大学の修了要件単位(単位認定)になりません。

~~~~~

<過去に開講した授業> 受講生によるテラーメイドカリキュラム希望の際に参考にご利用ください。

| 形態 | 区分 | 所要単位                            | No | 受講対象 | 授業科目名                  | 講義種別                           | 開講機関         | 担当教員          | 開講学期          | 年度   | 単位数  |   |
|----|----|---------------------------------|----|------|------------------------|--------------------------------|--------------|---------------|---------------|------|------|---|
| 授業 | 教養 |                                 |    | M/D  | <a href="#">MOT基礎論</a> | e-ラーニング                        | 室蘭工業大学       | 古屋 温美<br>那須 守 | 前             | 2015 | 2    |   |
|    |    | 専門科目<br>／<br>専門展開科目<br>／<br>専門特 |    |      | M/D                    | <a href="#">バイオ機器分析特論</a>      | e-ラーニング      | 室蘭工業大学        | 安居 光國         | 後    | 2014 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M                      | <a href="#">回路システム基礎</a>       | e-ラーニング      | 電気通信大学        | 西 一樹<br>小島 年春 | 後    | 2014 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M/D                    | <a href="#">錯体反応化学特論</a>       | e-ラーニング      | 富山大学          | 會澤 宣一         | 前    | 2012 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M/D                    | <a href="#">組織制御工学特論</a>       | e-ラーニング      | 富山大学          | 松田 健二         | 前    | 2012 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M/D                    | <a href="#">通信方式特論第1</a>       | 富山大学生のみ      | 富山大学          | 菊島 浩二         | 前    | 2012 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M/D                    | <a href="#">シミュレーション工学特論第2</a> | 富山大学生のみ      | 富山大学          | 春木 孝之         | 後    | 2012 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M/D                    | <a href="#">システム工学特論第2</a>     | 富山大学生のみ      | 富山大学          | 参沢 匡将         | 後    | 2012 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M                      | <a href="#">パターン情報処理特論</a>     | 富山大学生の対面受講のみ | 富山大学          | 酒井 充          | 後    | 2012 | 2 |
|    |    |                                 |    |      | M                      | <a href="#">数理工学特論第I</a>       | 対面受講のみ       | 大分大学          | 越智 義道         | 前    | 2012 | 2 |

## スーパー連携大学院プログラム

## サーティフィケート研究プロポーザル審査会及びサーティフィケート研究論文審査会 設置要項

## 1. 審査会の設置

受講登録者のサーティフィケート研究プロポーザルの審査及びサーティフィケート研究論文審査のため、それぞれに審査会を設置する。

## 2. 委員構成

(1) 審査会の委員は、4名以上とし、以下の者で構成する。

- ・ 主指導教員もしくは受講登録者が所属する大学の教員 1名以上
- ・ 受講登録者が所属する大学以外の教員 1名以上
- ・ 共同研究先（予定も含む）の研究者等 1名以上
- ・ その他コンソーシアム関係者

(2) 審査会の委員長は、教務委員会委員長とする。ただし、主指導教員及び共同研究先所属の者以外する。

## 3. 審査方法

(1) 審査方法は、委員がサーティフィケート研究プロポーザル発表会またはサーティフィケート研究論文発表会に参加して口頭試問を行い、審査票（別に定める）により判定し、審査会が総合判定する。

(2) 総合判定は、審査会委員長よりスーパー連携大学院コンソーシアム運営委員会委員長に報告する。

## 4. その他

審査会に出席する者は、研究プロポーザルの内容・審査結果はいかなる場合においても口外したり、自己のために利してはならない。

(サンプル)

スーパー連携大学院プログラム  
研究プロポーザル (学位研究提案書)

(タイトル)

森林100年計画における林業の産業化を目指すビジネス創設の研究

(サブタイトルをつけてもよい)

(共同研究機関名、指導教員など)

共同研究機関・・・秋田県由利本荘市

指導教員・・・・・・秋田県立大学 谷内宏行、稲川敬介

(作成日付)

2013年3月1日

(所属大学名、学科名)

秋田県立大学 大学院システム科学技術研究科

(名前)

秋田太郎

(研究テーマの内容)

## 概要

日本の林業は、海外の安い材料に押され、また需要が減少していることから、衰退の一途をたどっています。しかし、この豊富な資源を活用することは、日本の将来にとって大変重要なことです。また、山林を活性化することはCO<sub>2</sub>の低減、治山治水にも役立つなど、地球環境問題への対応にもつながります。本研究では、新たな森林需要創出技術を開発し、100年、200年に亘って森林を活性化していく壮大な構想を描いています。具体的には間伐材を有効利用し、バイオエタノールや生分解プラスチックなどの材料を開発するバイオリファイナリーを実現し新しい林業の産業化のビジネスモデルを構築することです。

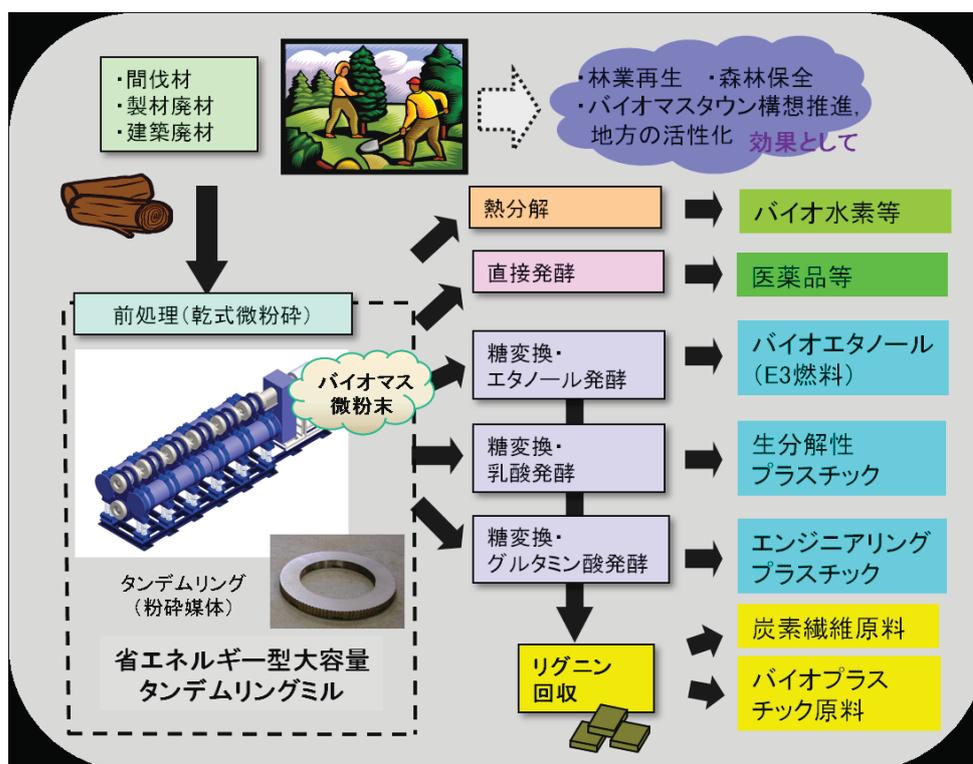


図1. バイオリファイナリーの関係図

### 1. 必要な技術分野と課題

バイオリファイナリーに関しては、構成要素であるセルロース・ヘミセルロースからグリニンを分離するための原料微粉末化技術、バイオエタノールやバイオプラスチックなどの材料を作るためのプロセス技術、間伐材を収集するための集材技術、山林に関する地図情報を活用した集材の最適化研究、集材から材料開発までトータルで考える林業産業化のためのビジネスモデル研究などが必要である。

### 2. 共同研究テーマの内容

地球環境問題の深刻さから、従来の石油に頼るエネルギーに代わる食物に由来しない木質系バイオエタノールへの期待がある。豊富な木質資源を持つと言われる秋田県は、森林組合や製材所からの大量の木質系バイオマスが排出される、それらを生かした乾式粉碎工程と糖化発酵プロセ

スを組み合わせたバイリファイナリープロセスがある。この構想の中で問題となるのが、間伐材等の搬出コストなどトータルな経済的な問題である。ここに注目すると、木質系バイオマスとして潜在的に大量の物量が存在する秋田モデルを提示することによって、豊かな森林資源を有効に利用することによってエタノール製造コストは80円/Lの達成が見込める。

そこで、秋田県をモデルとしたバイオフィナリーにおける間伐材を収集する集材技術の分析と、山林の地図情報を活用した集材の最適化研究、集材から材料開発までのトータルな林業産業化のビジネスモデルを研究する。

それには秋田県の森林管理組合の協力を得て、集材コストの低減のための山林における高密度路線網の整備と高性能集材機械の導入について検討し、地形と森林管理（間伐、皆伐、複層林、一斎林）、生態系への配慮、木材生産と水土保持のバランス、経営の合理化などのモデルを作成して集材工程を検証することが必要となる。

実際の集材作業の現場を調査すると共に、モデル開発のシミュレーションを実施し集材に係るコストを計算することにより、一連の林業の産業化について研究を行う。

### 3. 研究テーマの進め方

- ① 実際の集材現場の実情を調査する。秋田県の森林経営計画によると、面的なまとまりのある森林を施業及び保護する場合は、開発地域の5000分の1の地図をもとに図面上で計画する路網（幅2.5mから3mの産業道）を描く。
- ② 実際の現場を調査する。地図上の路網はあくまで机上であって、実際の現場は障害物や斜面などがあり、現実の合った路網を作ることになる。
- ③ 路網作成にあたっては、利用する作業の性質から待ち行列理論の基本的な考え方である連続時間型マルコフ連鎖を適用したモデル化を行い、数値的に配置の評価を可能にする。
- ④ これらのモデル化と現場の実際のデータ解析、統計的分析から補正を加える。
- ⑤ 経済的なコストに置き換えて、森林経営計画が一連の産業化計画として実現可能であり新しいビジネスを創設することを立証する。

### 4. 参考文献等

- 1) 永野正展, "平成21年度 物部川流域「緑の分権改革」推進事業成果報告書" 2011.3
- 2) 永野正展, "木質ペレット・ヒーティングシステムへのLCA導入," 第4回日本LCA学会研究発表会, 2010.3

(研究の計画スケジュール：サンプル)

研究スケジュール (必ず時系列で記入すること)

| 項目               | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 |
|------------------|--------|--------|--------|
| バイオマス材の集積方法調査    | →      |        |        |
| 隣地残材の調査分析        | →      | →      |        |
| 集材方法の検討<br>コスト計算 | →      | →      |        |
| シミュレーション         |        | →      | →      |
| ビジネスモデルの構築・提案    |        |        | →      |

(達成すべき研究成果：サンプル)

達成すべき研究成果

1. 秋田県における森林利用の現状を最低3か所調査して実態をまとめること。
2. 木質バイオマスの集材方法を林地残材の経済合理性からの集材方法を数値でもって表すこと。
3. 原材料の運搬経路（路網作成）のシミュレーションを実施し、結果をまとめること。
4. 最終年度までに新しいビジネスモデルを提案すること。

(決意表明：サンプル)

決意表明

私、秋田太郎は秋田県由利本荘市森林組合と秋田県立大学関係者の協力のもと、「森林 100年計画における林業の産業化を目指すビジネスモデル創設の研究」をいたします。

これは、地元秋田の林業の将来を決定する重要な研究であり、私の得意とする工学的アプローチの修得技法とともにマッチするテーマであると確信いたします。

何卒、本提案書をご採択いただけますようお願いいたします。

サイン 秋田太郎

# イノベーション博士サーティフィケート申請書①

年 月 日申請

スーパー連携大学院コンソーシアム会長 殿

|        |      |
|--------|------|
| 大学院    | 学研究科 |
| 博士後期課程 | 専攻   |
| 受講者番号  |      |
| 申請者    | 印    |

論文題目

(和訳 )

イノベーション博士のサーティフィケートを取得したいので、必要な書類を添えて申請いたします。

主たる指導教員（署名捺印）

\_\_\_\_\_ 印

## スーパー連携大学院プログラムサーティフィケート取得者

| 年    | サーティフィケート            | 所属大学院  | 人数 |
|------|----------------------|--------|----|
| 2013 | イノベーション博士候補サーティフィケート | 電気通信大学 | 1名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 北見工業大学 | 1名 |
| 2014 | イノベーション博士候補サーティフィケート | 電気通信大学 | 1名 |
|      | イノベーション博士候補サーティフィケート | 富山大学   | 1名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 秋田県立大学 | 1名 |
| 2015 | イノベーション博士候補サーティフィケート | 電気通信大学 | 2名 |
|      | イノベーション博士候補サーティフィケート | 富山大学   | 1名 |
|      | イノベーション博士候補サーティフィケート | 大分大学   | 2名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 電気通信大学 | 1名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 富山大学   | 1名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 秋田県立大学 | 1名 |
| 2016 | イノベーション博士サーティフィケート   | 電気通信大学 | 1名 |
|      | イノベーション博士候補サーティフィケート | 大分大学   | 1名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 電気通信大学 | 1名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 富山大学   | 2名 |
| 2017 | イノベーション修士サーティフィケート   | 北見工業大学 | 1名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 電気通信大学 | 3名 |
|      | イノベーション修士サーティフィケート   | 秋田県立大学 | 3名 |

≡文部科学省大学間連携共同教育推進事業キックオフイベント≡

# 「イノベーター人材育成に向け 大学はどう変わるべきか」



〔共催：文部科学省大学間連携共同教育推進事業「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」連携校（室蘭工業大学、北見工業大学、電気通信大学、富山大学、大分大学、秋田県立大学）  
協賛：スーパー連携大学院コンソーシアム〕

開催日時 2012年12月11日（火）13：30～17：00  
会 場 タワーホール船堀 桃源の間（2階）  
（東京都江戸川区船堀4-1-1、都営新宿線「船堀」駅前）

**参加無料**

|             |                                                                                                                                                                                                            |                                              |                       |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------------------|
| プログラム       | [司会 千々岩高美 電気通信大学 教務課長]                                                                                                                                                                                     |                                              |                       |
| 13:30～13:40 | 主催者挨拶                                                                                                                                                                                                      | 事業推進代表者                                      | 梶谷 誠（電気通信大学長）         |
| 13:40～14:00 | 来賓挨拶                                                                                                                                                                                                       | 文部科学省 高等教育局 大学振興課長<br>経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進課長 | 池田貴城 氏<br>佐藤文一 氏      |
| 14:00～15:00 | 特別講演                                                                                                                                                                                                       | 「熟議で育てる日本のイノベーター人材」<br>鈴木 寛 参議院議員（元文部科学副大臣）  |                       |
| 15:00～15:20 | 事業説明                                                                                                                                                                                                       | 事業推進責任者                                      | 田野 俊一（電気通信大学 教授・学長補佐） |
| 15:30～17:00 | パネルディスカッション<br>「イノベーター人材育成に向け大学はどう変わるべきか」<br>モデレーター 山本佳世子 日刊工業新聞社 論説委員兼編集委員<br>パネリスト 鈴木 寛 参議院議員<br>村上 哲 アイシン軽金属（株） 専務取締役<br>赤上 陽一 秋田県産業技術センター 素形材プロセス開発部長<br>小林 信一 筑波大学 ビジネス科学研究科 教授<br>小間 篤 秋田県立大学 理事長・学長 |                                              |                       |
| 17:20-19:00 | 情報交換会                                                                                                                                                                                                      | 蓬莱の間（2階）                                     | 会費4,000円              |

【参加方法】参加ご希望の方は、参加者氏名、所属、情報交換会への参加有無を記載の上、12月7日（金）までに、スーパー連携大学院コンソーシアムへe-mailでお申込みください。  
【お申込み・お問い合わせ先】スーパー連携大学院コンソーシアム事務局  
e-mail: jimusu@super-daigakuin.jp TEL：03-5667-3031 FAX：03-5667-3032

## イノベーションジャパン 2013 特別協賛シンポジウム

## 「真成長戦略・・・もう一つの三本の矢とは」のご案内

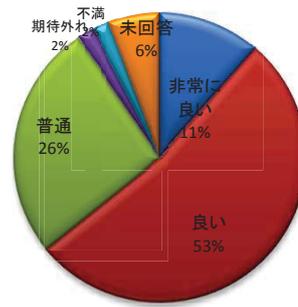
イノベーションジャパン 2013 の特別協賛シンポジウムに、平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」関連事業として、スーパー連携大学院コンソーシアムが参画します。皆様ふるってご参加ください。

| イノベーションジャパン 2013 特別協賛シンポジウム<br>「真成長戦略・・・もう一つの三本の矢とは」 |                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日程                                                   | 2013 年 8 月 29 日（木曜日）                                                                                                         |
| 時間                                                   | 13 時 15 分から 16 時 00 分                                                                                                        |
| 場所                                                   | 東京ビッグサイト（東京国際展示場）会議棟 1 階 101 会議室                                                                                             |
| 主催                                                   | 野村證券株式会社                                                                                                                     |
| 共催                                                   | スーパー連携大学院コンソーシアム（平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業）<br>「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」                                             |
| 会費                                                   | 無料                                                                                                                           |
| お申し込み                                                | 下記リンクよりお申し込みください（外部サイト）<br><a href="#">イノベーションジャパン 2013 特別協賛シンポジウム</a>                                                       |
| 内容                                                   | 「失われた 20 年」は 30 年に向かって進行中です。財政赤字や人工構成問題等を解決しながら真の経済成長を目指す処方箋を、「もうひとつの三本の矢」で考えます。三本の矢とは正に「産」「学」「官」のことで、グローバル経済でのニッポン復活を目指します。 |

次第・後援者等の詳細は、「お申し込み」リンク先をご参照ください。

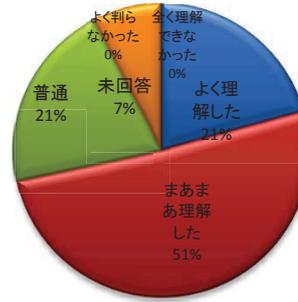
■ 内容について

|       |     |
|-------|-----|
| 非常に良い | 6名  |
| 良い    | 28名 |
| 普通    | 14名 |
| 期待外れ  | 1名  |
| 不満    | 1名  |
| 未回答   | 3名  |
| 合計    | 53名 |



■ 理解度について

|            |     |
|------------|-----|
| よく理解した     | 11名 |
| まあまあ理解した   | 27名 |
| 普通         | 11名 |
| よく判らなかつた   | 0名  |
| 全く理解できなかつた | 0名  |
| 未回答        | 4名  |
| 合計         | 53名 |



【意見・感想】

- ・ 地域の活性化に貢献していった下さい。
- ・ 構想やねらいについて良く理解できました。企業としてのメリットについて説明を聞きたい。
- ・ おもしろい取り組みでした。
- ・ 現役社長の講話はおもしろい。有益な取り組みだと思いました。
- ・ 興味なし。
- ・ スーパー連携大学院について初めて知りました。産業界のナマの声をこれから起業しようとする人々に伝えてゆくことは大変有意義であると感じます。可能であればもう少し受講者を増やして受講の機会を広げていただけるとありがたいと考えます。
- ・ 単なる報告ではつまらない。
- ・ インターンシップと何が違うのか？社長の話を聞くだけではダメ。もっと現場⇄大学の行き来が必要。もっとリアルなカリキュラムが必要。リスクの体感も必要。あるプロジェクトをまかせるのも必要と考える。学際力を養うカリキュラム？コーディネイト力をどうする？
- ・ ユニークな取り組みですばらしいと感じた。全国展開してほしい。
- ・ 海外の大学と連携して連携大学院をしたらおもしろいかも。無論英語で。
- ・ 志を持った学生の育成には難しいのではないかな？
- ・ カスタムメイドを可能にするにはたくさんのカリキュラムが必要にならないかな？
- ・ 堀田先生のお話しと学生さんの経験に基づいたお話しは非常に力強いもので「志」の高さを感じた。
- ・ 学生の発表を入れたのは良かったと思うが、格落ち。若い人としてはよくやった、我々も我慢した。堀田先生の話は配布資料をうまく使っていればよかった。
- ・ 産学官それぞれの複数から連携することで相乗効果が発揮された成果を期待します。
- ・ Global人材育成の取り組み発、Global人材にならないかな？
- ・ 終了後のイノベーション人材のアウトプットがまだ見えない感じがしました。

平成24年度大学間連携共同教育推進事業「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」

## 平成26年度地域フォーラム

### 全国連携による地域人材育成～それぞれの地域産業活性化のために～

**日時：**平成26年9月19日(金) 13:00～17:30 (情報交換会 18:00～20:00)

**会場：**カレッジプラザ 講堂 (秋田市中通2丁目1-51 明德館ビル2階)

**趣旨：**本事業では、昨年度までに全国ネットワーク型地域コアの体制や地域コアを中心とした人材育成に関し問題点の分析に基づく制度設計を行い一部試行した。また、産学官共同出資型教育研究組織の制度に関する調査や、具体的なコースワーク、リサーチワークなど事前試行に基づく評価および改善策の策定を進めてきた。本年度は、全国ネットワーク型地域コアを全ての地域で正式に制度化し設置を進め、それを母体とし多様な人材育成の試行を進める。産学官共同出資型教育研究組織構想の具体化、大綱化を進め、具体的イメージを作り上げる。

本地域フォーラムでは、各地域コアでの活動、地域コアの全国ネットワーク化に向けた取り組みを報告するとともに、国公私立大学のみならず産業界等が連携・協働してイノベーション博士を育成する新たな共同教育研究組織に向けた調査報告、議論、具体的イメージの共有を行う。

(敬称略)

|             |                                            |                                                     |       |
|-------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------|
| <b>次第：</b>  | 司会                                         | 秋田県立大学 地域連携・研究推進センター副センター長 教授                       | 小笠原 正 |
| 13:00～13:10 | 事業推進代表者 挨拶                                 | 電気通信大学長                                             | 福田 喬  |
| 13:10～13:20 | 開催大学代表者 挨拶                                 | 秋田県立大学 理事長兼学長                                       | 小間 篤  |
| 13:20～13:30 | 来賓 挨拶                                      | 文部科学省高等教育局長                                         | 吉田 大輔 |
| 13:30～13:40 | 来賓 挨拶                                      | 秋田県副知事                                              | 橋口 昌道 |
| 13:40～14:40 | 特別講演1                                      | 大学間連携の多様な展開<br>国立国会図書館専門調査員<br>調査及び立法考査局文教科学技術調査室主任 | 小林 信一 |
| 14:40～15:00 | — 休憩 —                                     |                                                     |       |
| 15:00～16:00 | 特別講演2                                      | 秋田産業活性化のための戦略と人材育成<br>秋田商工会議所 会頭                    | 三浦 廣巳 |
| 16:00～16:10 | 事業報告(概要報告)                                 | 事業推進責任者 (電気通信大学 教授)                                 | 田野 俊一 |
| 16:10～17:30 | パネルディスカッション「地域社会の課題を解決する人材育成」              |                                                     |       |
|             | モデレーター：                                    | 地域運営委員会委員長 (秋田県立大学 理事兼副学長)                          | 小林 淳一 |
|             | パネリスト：                                     | 【室蘭地域】岩佐 達郎 (室蘭工業大学 副学長 教授)                         |       |
|             |                                            | 【北見地域】鞆師 守 (北見工業大学 知的財産センター長 教授)                    |       |
|             |                                            | 【秋田地域】佐藤 裕之 (羽後設備 (株) 代表取締役)                        |       |
|             |                                            | 【首都圏地域】中嶋 信生 (電気通信大学 産学官連携センター長 特任教授)               |       |
|             |                                            | 志村 則彰 ((株) オプトエレクトロニクス 取締役会長)                       |       |
|             |                                            | 【富山地域】川口 清司 (富山大学 工学部 副学部長 教授)                      |       |
|             |                                            | 【大分地域】氏家 誠司 (大分大学 工学部 教授)                           |       |
|             | 主 な 話 題：各地域の活性化の問題点、各地域の人材育成、ネットワーク連携のメリット |                                                     |       |
| 18:00～20:00 | 情報交換会 (秋田ビューホテル、会費 4,000 円)                |                                                     |       |

参加をご希望の方は、氏名、所属、情報交換会出欠、メールアドレスを明記の上、[jimu@super-daigakuin.jp](mailto:jimu@super-daigakuin.jp)までご連絡ください。

## 事業評価委員会委員からの意見（まとめ）

## ＜事業評価委員＞

荒井 寿光 東京中小企業投資育成株式会社 相談役 2014年8月26日（火）16:00～17:30  
 小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長 2014年9月29日（月）16:30～17:15

## ＜事業全般＞

- ・本取組の方針は、基本的には正しいと感じた。（荒井）
- ・個人的にポストク問題対策の委員会に係っていたことがあり、博士育成の問題は日本全体の課題だと認識している。ポストク問題を発生の手前で対処するこの取組には、問題解決への一つのアプローチとして期待している。（荒井）
- ・この取組の目指すところには、非常に時間がかかるので、粘り強く推進してほしい。（荒井）
- ・ステークホルダーに対して協力を求めるには、ステークホルダーの種類（企業、自治体、あるいは金融機関等）ごとに効果的な方法を考えなければならない。例えば参加大学であれば、6大学の中での教員間での意識レベルの統一が非常に重要になるだろう。（荒井）
- ・教育システムなので国に依るところはあっても良いが、自立できるようなシステムを目指すべきだ。（小宮山）
- ・大企業がベンチャー企業に出資するような仕組みがもっと必要だ。（小宮山）
- ・現代は多様性の時代なので、生きている実感や **Quality of Life** の充実を感じられるようなライフスタイル、例えば農業などに魅力を感じる人が増えている。（小宮山）
- ・日本の優れた企業経営者は、もっと人材育成や教育に目を向け、積極的に社会貢献を行ってもらいたい。（小宮山）
- ・学術・芸術等の文化を継続させていくことが社会にとって非常に重要なことだ。（小宮山）

## ＜中間評価＞

- ・中間評価を行う中で、数値的な目標に達していないものがあつた場合は、その原因をチェックすることが重要で、現在本取組に足りていない点等が詳しく知ることができる。（荒井）
- ・事業期間は5年間となっているが、本来何十年計画で実施すべき取組であり、常に発展を目指してほしい。そのためには、PRや広報活動、外部意見のフィードバックが重要になると考えられる。（荒井）
- ・本取組実施の中でPDCAサイクルを回し、明らかになってきた課題の解決を図ってほしい。それによって取組の賛同者を増やすことができる。（荒井）

## ＜地域連携＞

- ・政府の方針として地方創生があるので、そこに絡めてアプローチしたらどうか。（荒井）
- ・信用金庫のような地元直結型の金融機関が取組みに参画することは、地域の中小企業との連携には

良いこと。(小宮山)

・地域活性化のためには優秀な人材が不可欠であり、世界を意識したグローバルな視点を持ちつつ最終的には地域で活躍できる人材を育成することが大切だ。スーパー連携大学院の取組みはまさにそのような内容で意義がある。(小宮山)

・東京一極では日本は発展しない。地方にも特徴のある優秀な大学があり、それぞれの地域で活躍できる人材の育成に取り組んでほしい。(小宮山)

・地方だからといって人材のレベルが低くて良いわけではない。地域でイノベーションを起こせるような人材が必要だ。(小宮山)

・最近では東京ではなく、地方で活躍したいと考える若者も増えつつある気運だが、そのためには若者が活躍できる「産業」が必要だ。(小宮山)

#### <カリキュラム>

・本取組へ協力的な教員については、何らかの表彰を行うなど、大学の社会貢献としてカウントしてもらおうようにする、等の方策により、モチベーションの元を用意したらどうか。(荒井)

・学生の負担を考え、教育の量を増やすことではなく質を高めることで対応していきたい。(荒井)

・本取組に参加する学生に対しても、モチベーションの元となるものを分かりやすく用意したい。特色のある講義を受講できること等はインセンティブとなりうるが、もっと魅力的に見える工夫が必要である。(荒井)

・サーティケート審査はどのように行っているのか。(小宮山)

⇒ 審査委員には対象学生の所属大学のみならず他大学や産業界からも参加してもらっている。入学審査も同様に行っている。

・論文以外の科目の取得単位が増えることにならないか。(小宮山)

⇒ 大学間の単位互換制度など工夫はしているが、一般の大学院生と比べると負荷がかかっているのは確かだ。負担感を解消していくことが必要だと考えている。

・学生の適正数はどのくらいと考えているのか。(小宮山)

⇒ 最終的にはドクター（博士後期課程）の数を重視していきたい。ドクターは6大学から各学年2~3名程度で40~60名、修士（博士前期課程）はその倍の人数をおおよその目安にしている。学生数を増やすためには、各大学の協力教員の理解も重要だ。

・学生数や集合教育をどう定常状態にするかが重要になる。(小宮山)

⇒ 学生の集合教育に参加するための旅費などが財務上の問題になっている。

・他大学に所属する学生同士が触れあう機会があるのか。(小宮山)

⇒ 集合教育を積極的に取り入れている。「現役社長の講話」は、各地域で志の高い中小企業経営者の方に企業見学の受入れや社長講話をお願いしており、たいへん評価の高いカリキュラムだ。授業だけでなく、地域の経営者や他大学の学生と触れ合う交流の機会があり、学生にとってはたいへん良い刺激になっている。

# 全国連携による 地域人材育成

～それぞれの地域産業活性化のために～

## schedule

司会 富山大学工学部 評議員・副学部長 教授  
岡田 裕之

### 開会挨拶

電気通信大学長

福田 喬 (13:00~13:10)

富山大学長

遠藤 俊郎 (13:10~13:20)

文部科学省高等教育局

(13:20~13:30)

### 【特別講演1】

#### 環境未来都市とやま

富山市政策監

柳原 聡子 (13:30~14:30)

—— 休 憩(14:30~14:40) ——

### 【特別講演2】

#### 深海未来都市構想「OCEAN SPIRAL」 について(技術イノベーション面からの提言)

清水建設株式会社 次世代リサーチセンター  
海洋未来都市プロジェクト室 プロジェクトリーダー

竹内 真幸 (14:40~15:40)

### 事業報告

#### 日本版Industrial PhD(仮称)制度の 創設について

スーパー連携大学院コンソーシアム 会長

梶谷 誠 (15:40~15:55)

#### 推進事業の概要報告

(事業推進責任者)電気通信大学 教授

田野 俊一 (15:55~16:10)

—— 休 憩(16:10~16:20) ——

2015. fri.

11/6

13:00~17:30

(情報交換会 18:00~20:00)

入場  
無料

パレブラン高志会館  
2F カルチャーホール

富山市千歳町 1-3-1  
TEL: 0120-542-489

### パネルディスカッション

#### 社会人の学び直しにおける 人材育成を考える(事例紹介)

事例紹介:富山大学 研究推進機構 産学連携センター長 教授  
高辻 則夫 (16:20~16:50)

モデレーター:富山大学 工学部長

堀田 裕弘 (16:50~17:30)

パネリスト:【室蘭地域】 河合 秀樹(室蘭工業大学 副学長 教授)  
【北見地域】 鞆師 守(北見工業大学 社会連携センター 教授)  
【秋田地域】 小林 淳一(秋田県立大学 理事兼副学長)  
【首都圏地域】 中嶋 信生(電気通信大学 産学官連携センター長 特任教授)  
【富山地域】 高辻 則夫(富山大学 研究推進機構 産学連携センター長 教授)  
川口 清司(富山大学 工学部 副学部長 教授)  
【大分地域】 氏家 誠司(大分大学 工学部 教授)

### 情報交換会

パレブラン高志会館、会費4,000円 (18:00~20:00)

参加をご希望の方は、氏名、所属、情報交換会出欠、メールアドレスを  
明記の上、[kaji@ctg.u-toyama.ac.jp](mailto:kaji@ctg.u-toyama.ac.jp)までご連絡ください。

平成 24 年度大学間連携共同教育推進事業  
「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」

## 平成 28 年度全国フォーラム 「地域連携による地域活性化と地域人材育成」

スーパー連携大学院コンソーシアムの会員大学である室蘭工業大学、北見工業大学、電気通信大学、富山大学、大分大学、秋田県立大学の6大学と（一社）コラボ産学官、江戸川区、秋田県産業技術センターは、連携して文部科学省大学間連携共同教育推進事業「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」を推進しています。本年度は、大分地区にて地域の現状や取り組みやコンソーシアムの人材育成の今後について意見交換したいと思います。

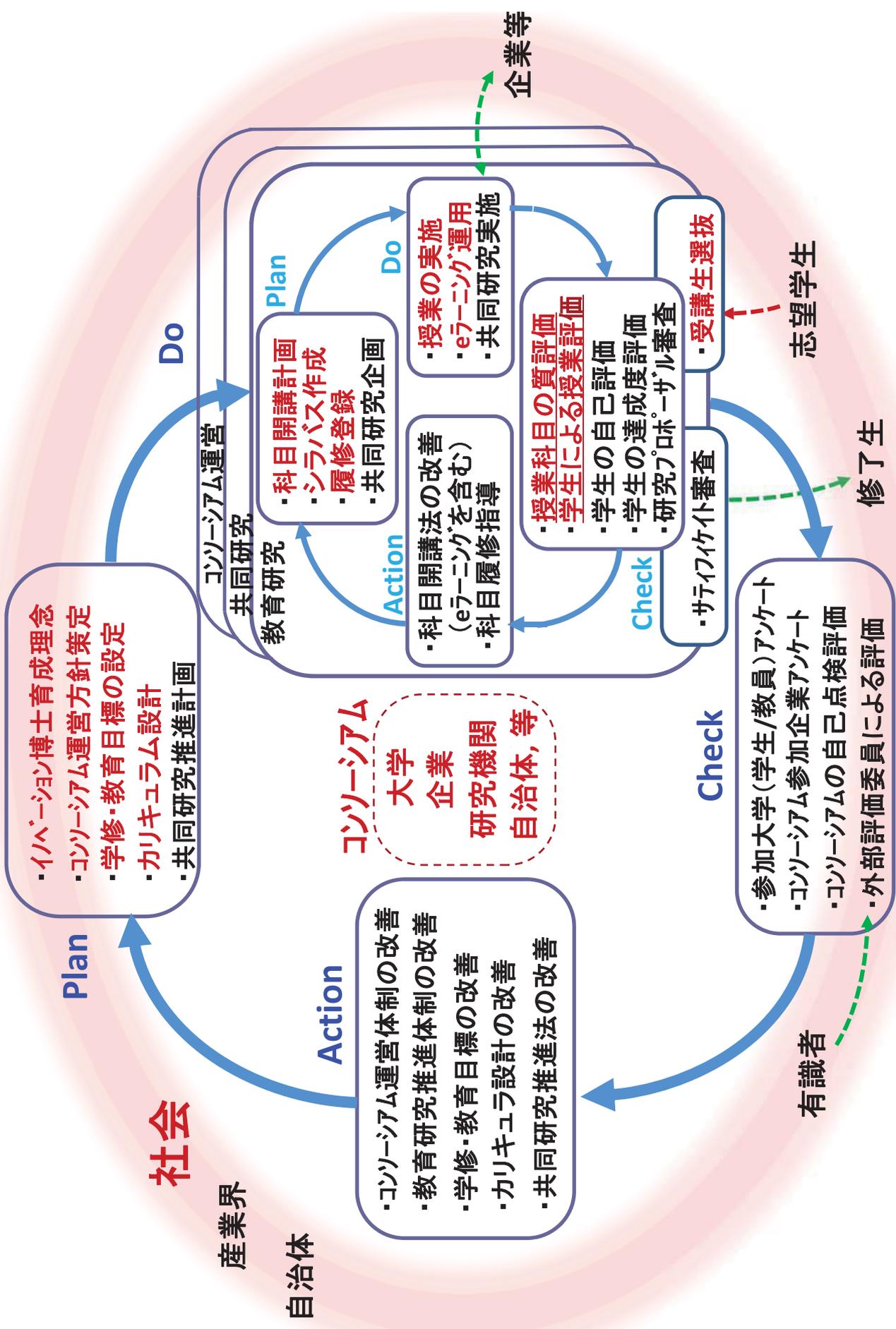
日時：平成 28 年 12 月 16 日（金）13:30～17:00

会場：全労済ソレイユ 7階カトリア（〒870-0035 大分県大分市中央町 4-2-5）

|             |                                                                  |                           |            |
|-------------|------------------------------------------------------------------|---------------------------|------------|
| プログラム：      |                                                                  | 司会：大分大学                   | 氏家 誠司      |
| 13:30～13:50 | 開会挨拶                                                             | 大分大学 教育担当理事               | 越智 義道      |
|             |                                                                  | 大分大学 工学部長                 | 豊田 昌宏      |
|             |                                                                  | 電気通信大学 理事                 | 中野 和司      |
|             |                                                                  | 一般社団法人スーパー連携大学院コンソーシアム 会長 | 梶谷 誠       |
| 13:50～14:20 | 講演 1 大分産業人クラブの活動と地域活性化への思い<br>大分産業人クラブ会長<br>(株)池永セメント工業所 代表取締役社長 | 池永 征司                     |            |
| 14:20～14:50 | 講演 2 (仮)磁気計測装置の商品化と産学連携<br>株式会社ブライテック 技術開発部 部長                   | 相原 茂                      |            |
| 14:50～15:10 | —休憩—                                                             |                           |            |
| 15:10～16:20 | 講演 3 各地区の現状と課題                                                   |                           |            |
| 15:10～15:40 | 【報告】各地区の現状と課題<br>スーパー連携大学院コンソーシアム 統括コーディネーター                     | 宇梶 純良                     |            |
| 15:40～16:00 | 【講演】北見地区の取り組み<br>北見工業大学 特任教授                                     | 田牧 純一                     |            |
| 16:00～16:20 | 【意見交換】                                                           |                           |            |
| 16:20～16:50 | 講演 4 スーパー連携大学院コンソーシアムの現状と将来計画<br>電気通信大学 教授                       | 田野 俊一                     |            |
| 16:50       | 閉会挨拶                                                             |                           |            |
| 17:15～19:15 | 情報交換会                                                            | 会場：大分オアシスタワーホテル           | 会費：6,000 円 |

参加をご希望の方は、氏名、所属、情報交換会出欠、メールアドレスを明記の上、スーパー連携大学院コンソーシアム事務局 (jimu@super-daigakuin.jp) までお申込みください。

# スーパー連携大学院のPDCA(教育の質保証)



## スーパー連携大学院プログラム受講生募集要項

### 2016年度 春季受講登録(3月期、4月期募集)

#### I. スーパー連携大学院プログラムとは

スーパー連携大学院プログラムは、国際社会においてリーダーシップを発揮しイノベーションによる価値の創造を担うことができる「志」の高い博士を育成することを目的として設立された、大学院博士前期および後期課程を含む5年間（標準年限）一貫の教育プログラムです。この教育プログラムは、多数の大学、企業、行政組織が参画する産学官連携の運営母体であるスーパー連携大学院コンソーシアムによって提供され、カリキュラムの実施からキャリアパスまでコンソーシアム正会員である大学、企業、行政がそれぞれ対等な立場で協同参画します。

本教育プログラムは、標準年限を大学院博士課程の5年間としていますが、博士前期課程（修士課程）の2年間で修了することもできます（イノベーション修士サーティフィケート修得）。また、イノベーション修士サーティフィケートを修得し、就職した後に博士後期課程に入学する場合も本プログラムを継続して受講することができます。

また、大学院博士後期課程に進学する受講生には、給付型の奨学金制度があります。

スーパー連携大学院コンソーシアム会員等一覧(2015年 8月 7日現在)

【正会員(大学)】 室蘭工業大学, 北見工業大学, 電気通信大学, 富山大学, 大分大学, 秋田県立大学

【正会員(企業)】 (株)アーク, (株)コラゴ産学官, 三愛電子工業(株), JNC(株), 清水建設(株),  
(株)タイムインターメディア, TIS(株), (公財)鉄道総合技術研究所, 日本精工(株),  
日本電信電話(株), 野村證券(株), 富士ゼロックス(株)

【賛助会員】 8大学, 12組織, 5個人

【特別協賛会員, 連携・協力機関】 江戸川区, 国立研究開発法人科学技術振興機構, 一般社団法人コラゴ産学官, 国立研究開発法人産業技術総合研究所, 国立研究開発法人情報通信研究機構, 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構, 一般社団法人電子情報技術産業協会, 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構, プラチナ構想ネットワーク

シラバスや履修要覧はホームページをご参照ください。  
<http://www.super-daigakuin.jp/study.html>



## Ⅱ. スーパー連携大学院の教育理念

### 1. 教育目的

スーパー連携大学院プログラムは、スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員である大学、企業及び行政機関がそれぞれの特色を活かして、産学官連携による教育の質を保証したカリキュラムの実施とキャリアパスの確立、所属組織の異なる複数の教員による共同研究ベースの学位研究指導を行うことによって、グローバル社会においてリーダーシップを発揮し、広く産業界や行政にわたってイノベーションによる価値の創造を担うことができる「志」の高い博士人材を育成することを目的としています。

### 2. アドミッション・ポリシー

スーパー連携大学院は、産業界や行政の広い分野でイノベーションの担い手として活躍する「志」を持ち、次に示す7つの資質・能力・意欲を持った学生を広く国内外から受け入れます。

#### 7つの志

1. ベンチャー精神旺盛で自立を目指す人
2. 実社会のさまざまな分野で創造的能力を発揮し活躍したい人
3. 専門分野への深い造詣の上にマネジメント力を兼ね備えたい人
4. 未来指向の先見性と革新性を身につけたい人
5. 質の高いコミュニケーション力を発揮したい人
6. リーダーとして尊敬される深い教養を備えたい人
7. 国際的感覚を備え、世界で活躍したい人

### 3. カリキュラム・ポリシー

次に示す学修・教育目標の達成のために修得すべき知識と能力を明確にした科目群を設置しています。博士前期課程から博士後期課程への進学時には「共同研究のプロポーザル」を求めることにより、イノベーションを推進する博士候補としての質を保証する学位プログラムです。博士後期課程に行う共同研究では、所属大学の異なる複数の教員が研究を指導することにより、研究室の壁を破る独創的で専門分野横断的な研究活動を遂行します。

#### <学修・教育目標>

- A. <志> “志”教育により、旺盛なベンチャー精神を養うと共に、専門家としての高い志と自立性を涵養する。
- B. <基礎・専門知識> 質の保証された教養基礎教育およびそれぞれの分野の専門教育により、応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、専門的造詣を深める。
- C. <実践力・マネジメント力> 専門分野教育、MOT 教育およびプロジェクト実践教育(PBL; Project-Based Learning)、インターンシップ、海外研修等)により、専門分野における学術体系およびその社会的影響について深い見識を持ち、当該分野の専門家としてのマネジメント能力を身につける。
- D. <創造性> 応用力のある確実な基礎知識と専門知識を習得し、プロジェクト等の実践的能力を身につけた上で、先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究を遂行することにより、実社会のさまざまな分野で活躍しうる創造的課題解決能力を身につける。
- E. <先見性・革新性> “志”教育、教養教育および先見性に富んだ共同研究型サーティフィケート研究により、未来指向の先見性と革新性を身につける。
- F. <コミュニケーション力> “志”教育、教養教育およびプロジェクト実践教育により、日本語および外国語による論理的文章力をはじめ、ディベート力、プレゼンテーション力など、総合的に質の高いコミュニケーション

能力とチームワーク力を身につける。

- G. <倫理・教養> 教養教育および自己啓発により、リーダーとして尊敬される倫理観と深い教養を身につける。
- H. <国際性・グローバルマインド> 海外研修、海外インターンシップ、国際サマースクール、国際会議参加、英語教育等を通して、世界で活躍できる国際的感覚と国際的視野を身につけ、あわせて“志”教育、教養教育、地域学などを通じてグローバルマインドを涵養する。

#### 4. ディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得し、かつ以下に示す能力を身につけた学生に対して 3 種類のサーティフィケートを授与します。

1. イノベーション博士候補 (Innovative PhD Candidate) サーティフィケート (博士前期課程)
  - ・修了に必要な科目および単位数を優秀な成績で取得するとともにスーパー連携大学院博士候補として必要な英語力を有していること。
  - ・イノベティブな研究課題の提案および研究計画の立案能力を有していること。
2. イノベーション修士 (Innovation Master) サーティフィケート
  - ・修了に必要な科目および単位数を優秀な成績で修得するとともにスーパー連携大学院修士として必要な英語力を有していること。
3. イノベーション博士 (Innovative PhD) サーティフィケート (博士後期課程)
  - ・修了に必要な科目および単位数を優秀な成績で修得するとともにイノベーション博士として必要な英語力を有していること。
  - ・共同研究を遂行することによりイノベーションを担う「志」の高い博士人材としての能力を有していること。

### Ⅲ 募集要項

#### 1. 募集人員

|                |     |
|----------------|-----|
| 2016 年度 3 月期募集 | 若干名 |
| 2016 年度 4 月期募集 | 若干名 |

#### 2. 出願資格

スーパー連携大学院コンソーシアムの正会員大学の 2016 年 (平成 28 年) 4 月大学院博士前期課程入学者または入学予定者であり、指導教員がスーパー連携大学院協力教員 (研究室) を兼任していること。

協力教員 (研究室) は、スーパー連携大学院ホームページ (<http://super-daigakuin.jp/student.html>) をご参照ください。

#### 3. 出願書類等受付期間

|                                                       |
|-------------------------------------------------------|
| 2016 年 3 月期募集: 2016 年 3 月 1 日 (火) ~ 3 月 15 日 (火) (必着) |
| 2016 年 4 月期募集: 2016 年 4 月 1 日 (金) ~ 4 月 15 日 (金) (必着) |

#### 4. 出願手続き

受講登録志願者は、次の出願書類等を一括取りそろえ、提出してください。郵送の場合は、封筒の表面に「スーパー連携大学院プログラム受講登録志願票在中」と朱筆してください。

- (1) 提出先 一般社団法人スーパー連携大学院コンソーシアム 事務局  
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1  
電気通信大学本館スーパー連携大学院コーディネーター室内  
TEL: 042-443-5939, FAX: 042-443-5940, e-mail: jimmu@super-daigakuin.jp

## (2) 出願書類等

|         |                                                          |
|---------|----------------------------------------------------------|
| 受講登録志願票 | 所定用紙(様式1)※ 上半身脱帽正面向きで出願3ヶ月以内に撮影した写真(画像)を指定の箇所に貼り付けてください。 |
| 検定料     | 無料                                                       |
| 成績証明書   | 出身大学長又は学部長が作成し厳封したもの                                     |
| 在学証明書   | ・入学予定者は合格通知の写し<br>・入学者は所属大学長又は研究科長が発行したもの                |
| 志望調書    | 所定用紙(様式2)※                                               |

※ 様式1, 様式2はスーパー連携大学院ホームページ( <http://super-daigakuin.jp/student.html> )からダウンロードしてご記入ください。

## 5. 選抜方法

(1)入学者の選抜では、成績証明書の内容、志望調書の内容、小論文、面接の結果を総合して判定します。その際、学力が優秀であるとともに、アドミッション・ポリシーに謳われている資質、能力および意欲を有していることを判断します。

### (2)試験日時

2015年3月期募集:2016年3月22日(火)～3月31日(木)のうち1日、日時は追って通知します。

2015年4月期募集:2016年4月18日(月)～4月27日(木)のうち1日、日時は追って通知します。

(3)試験会場 受講登録志願者の所属する大学または連携大学(会場は追って通知します)。

## 6. 合格発表

スーパー連携大学院ホームページ(<http://www.super-daigakuin.jp/>)にて合格者の受験番号を公表します。また、志願者全員に選抜結果を郵送いたします。

2016年3月期募集:2016年4月1日(金)

2016年4月期募集:2016年5月2日(月)

## 7. 受講手続き

合格者には合格発表の後に「受講手続きに関する書類等」を送付します。

(1)受講手続き期間 「受講手続きに関する書類等」の送付の際に通知します。

(2)受講手続料・授業料 受講手続料・授業料は無料です。

## 8. 注意事項

(1) 出願関係書類の不備なものは受理しませんので記載事項に記入漏れ、誤記のないようご注意ください。

(2) 面接には、必ず受験票を携帯してください。

(3) 出願書類の受理後は、出願事項の変更及び出願書類の返還は認められません。

(4) 面接日時と場所等については、受験票送付の際に通知します。

## 9. 問い合わせ先

出願等に関して不明な点がある場合には、下記へ問い合わせください。

スーパー連携大学院コンソーシアム事務局 TEL:042-443-5939 e-mail:jimu@super-daigakuin.jp

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

電気通信大学本館スーパー連携大学院コーディネーター室内

室蘭工業大学 教務グループ教務ユニット TEL:0143-46-5106

北見工業大学 学生支援課 修学支援(大学院)担当 TEL:0157-26-9177

電気通信大学 教務課大学院教務係 TEL:042-443-5073

富山大学 工学系支援グループ 大学院係 TEL:076-445-6701

大分大学 工学部学務係 TEL:097-554-7757

秋田県立大学 本荘キャンパス 教務チーム TEL:0184-27-2000

**スーパー連携大学院プログラム**  
**2016 年度博士前期課程 受講登録者選抜要項(春季受講登録)**

**1. 出願資格の審査**

- 1) 受講登録志願者は、スーパー連携大学院コンソーシアムに正会員として所属する大学の大学院博士前期課程の2016年(平成28年)4月入学者、あるいは入学予定者であること。
- 2) 出願資格の審査は出願書類により行う。
- 3) 出願資格の審査は「受講登録資格審査委員会」において行う。

**2. 選抜方法**

- 1) 受講登録志願者の学力および資質を審査するために「受講登録者選抜委員会」を設け、受講登録志願者の選抜を行う。
- 2) 受講登録者選抜委員会は原則として以下の者で構成される。
  - ・受講登録志願者が所属する大学のスーパー連携大学院協力教員(指導教員が兼ねることができる。) 数名
  - ・受講登録志願者が所属する大学以外のスーパー連携大学院コンソーシアム正会員(大学)の協力教員 数名
  - ・大学以外のスーパー連携大学院コンソーシアム会員から選出された者 数名

**3. 学力検査, 小論文・面接試験**

- 1) 学力検査は学部の成績に基づいて行う。
- 2) 小論文試験を行う。七つの志およびイノベーション博士としての将来性に関する内容について問う。
- 3) 面接では、志望調書、卒業研究及び所属する大学院博士前期課程での研究計画に関する口頭試問を行う。

**4. 試験日程等**

日 程: 3 月期募集 2016 年 3 月 22 日(火)～3 月 31 日(木)  
4 月期募集 2016 年 4 月 18 日(月)～4 月 27 日(木)  
会 場: 受講登録志願者の所属する大学またはコンソーシアム正会員大学

**5. 合格発表**

3 月期募集 2016 年 4 月 1 日(金)  
4 月期募集 2016 年 5 月 2 日(月)  
合否は、本人あてに通知する。

**6. 試験関係担当教員**

- 1) 受講登録資格審査委員:スーパー連携大学院「教務・学生委員会」委員から選出する。
- 2) 受講登録者選抜委員:スーパー連携大学院コンソーシアム運営委員会委員長が委嘱する。

**7. 学力検査, 小論文・面接試験の基準と配点**

- 1) 学力検査については、学部成績を30点満点で評価する。GPA評価点は、別表1に基づき換算する。
- 2) 小論文は、面接試験において実施する。面接試験については、アドミッション・ポリシー(7つの志)への適合性、スーパー連携大学院博士としての将来性を含めて判断する。小論文・面接試験は100点満点とする。
- 3) 学力検査、小論文および面接試験の結果を総合的に判断し、130満点の60%以上を合否判定の対象とし、スーパー連携大学院プログラム受講登録者の合格者を選抜する。

以上

| 2012年度 | 科目               | 開講大学   | 学期 | 実施年月日 | 受講生        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        | 合計<br>(名) |        |    |
|--------|------------------|--------|----|-------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|----|
|        |                  |        |    |       | 1          | 2      | 3      | 4      | 5      | 6      | 7      | 8      | 9      | 10     | 11     | 12     |           |        |    |
| 1      | 国際科学技術コミュニケーション論 | 電気通信大学 | 前  | 2012  | 11/30-12/1 | M1【電通】 | M1【電通】 | M1【富山】    | M1【富山】 | 6  |
| 2      | 現役社長の講話Ⅱ         | 富山大学   | 後  | 2012  | 11/9-11    | M2【北見】 | M2【電通】 | M2【電通】 | M2【電通】 | M2【電通】 | M1【電通】    | M1【電通】 | 12 |
| 3      | ベンチャービジネス論       | 大分大学   | 後  | 2013  | 1/12-14    | M1【富山】    | M1【富山】 | 5  |
| 4      | 現役社長の講話Ⅰ         | 秋田県立大学 | 後  | 2013  | 3/6-8      | M1【電通】 | M1【富山】    | M1【富山】 | 6  |
| 合計     |                  |        |    |       |            |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |           |        | 29 |

| 2013年度 | 科目                 | 開講大学                | 学期 | 実施年月日 | 受講生                      |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        | 合計<br>(名) |        |        |    |
|--------|--------------------|---------------------|----|-------|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|----|
|        |                    |                     |    |       | 1                        | 2      | 3      | 4      | 5      | 6      | 7      | 8      | 9      | 10     | 11     |           |        |        |    |
| 1      | 現役社長の講話Ⅲ           | 大分大学                | 前  | 2013  | 7/26-28                  | D1【電通】 | M1【電通】    | M1【電通】 | M1【電通】 | 10 |
| 2      | 国際科学技術コミュニケーション論   | 電気通信大学              | 前  | 2013  | 9/27-28                  | M2【秋田】 | M1【電通】 | M1【富山】    | M1【富山】 | M1【富山】 | 6  |
| 3      | 大分地域における生物系資源の利用技術 | 大分大学<br>(集合:秋田県立大学) | 後  | 2013  | 10/14                    | D1【電通】 | D1【電通】 | M1【電通】    | M1【電通】 | M1【電通】 | 11 |
| 4      | ロジカルシンキング入門・実践講座   | 富山大学                | 後  | 2013  | ①10/19-20<br>②11/30-12/1 | D1【電通】 | M1【電通】 | M1【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】 | M2【秋田】 | M2【秋田】 | M2【秋田】 | M2【秋田】 | M2【秋田】    | M2【秋田】 | M2【秋田】 | 7  |
| 5      | 現役社長の講話Ⅱ           | 富山大学                | 後  | 2013  | 11/15-17                 | D1【電通】 | M1【電通】    | M1【電通】 | M1【電通】 | 10 |
| 6      | ベンチャービジネス論         | 大分大学                | 後  | 2014  | 1/11-13                  | M1【電通】 | M1【電通】 | M1【富山】    | M1【富山】 | M1【富山】 | 8  |
| 7      | 現役社長の講話Ⅰ           | 秋田県立大学              | 後  | 2014  | 3/5-7                    | D1【電通】 | M1【秋田】 | M1【大分】    | M1【大分】 | M1【大分】 | 4  |
| 合計     |                    |                     |    |       |                          |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |           |        |        | 56 |

| 2014年度 | 科目                 | 開講大学   | 学期 | 実施年月日 | 受講生                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        | 合計<br>(名) |        |        |        |    |
|--------|--------------------|--------|----|-------|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|--------|----|
|        |                    |        |    |       | 1                    | 2      | 3      | 4      | 5      | 6      | 7      | 8      | 9      |        |           |        |        |        |    |
| 1      | 現役社長の講話Ⅲ           | 大分大学   | 前  | 2014  | 8/1-3                | D2【電通】 | M1【電通】 | M1【富山】 | M1【大分】    | M1【大分】 | M1【大分】 | M1【大分】 | 5  |
| 2      | 現役社長の講話Ⅳ           | 北見工業大学 | 前  | 2014  | 8/20-8/22            | D2【電通】 | D2【電通】 | M2【電通】    | M2【電通】 | M2【電通】 | M2【電通】 | 7  |
| 3      | 現役社長の講話Ⅴ           | 室蘭工業大学 | 前  | 2014  | 9/16-18              | D1【電通】 | M1【電通】 | M2【富山】 | M2【秋田】    | M2【秋田】 | M2【秋田】 | M2【秋田】 | 4  |
| 4      | 現役社長の講話Ⅵ           | 電気通信大学 | 前  | 2014  | 9/24-26              | M2【富山】 | M2【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】 | M2【電通】 | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】    | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】 | 6  |
| 5      | 国際科学技術コミュニケーション論   | 電気通信大学 | 前  | 2014  | 9/26-27              | M2【富山】 | M2【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】 | M2【電通】 | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】    | M2【富山】 | M2【富山】 | M2【富山】 | 5  |
| 6      | ロジカルシンキング          | 富山大学   | 後  | 2014  | ①10/4-5<br>②10/18-19 | D1【電通】 | M2【電通】 | M2【電通】 | M1【電通】 | M2【富山】 | M2【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】    | M1【富山】 | M2【電通】 | M2【電通】 | 9  |
| 7      | 大分地域における生物系資源の利用技術 | 大分大学   | 後  | 2014  | 11/3                 | M1【大分】 | M1【大分】 | M1【電通】    | M1【電通】 | M1【電通】 | M1【電通】 | 3  |
| 8      | 現役社長の講話Ⅱ           | 富山大学   | 後  | 2014  | 11/21-23             | M1【富山】 | M1【大分】 | M2【大分】    | M2【大分】 | M2【大分】 | M2【大分】 | 3  |
| 9      | ベンチャービジネス論         | 大分大学   | 後  | 2015  | 1/10-12              | D1【電通】 | M2【電通】 | M2【富山】 | M1【富山】    | M1【富山】 | M1【富山】 | M1【富山】 | 8  |
| 10     | 現役社長の講話Ⅰ           | 秋田県立大学 | 後  | 2015  | 3/4-6                | M1【電通】 | M1【電通】 | M1【大分】    | M1【大分】 | M1【大分】 | M1【大分】 | 4  |
| 合計     |                    |        |    |       |                      |        |        |        |        |        |        |        |        |        |           |        |        |        | 54 |

2015年度

| 科目                   | 開講大学   | 学期 | 実施年月日                          | 受講生        |            |            |            |            |            |            |            |            |            | 合計<br>(名)  |    |
|----------------------|--------|----|--------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----|
|                      |        |    |                                | 1          | 2          | 3          | 4          | 5          | 6          | 7          | 8          | 9          | 10         |            |    |
| 1 現役社長の講話Ⅲ           | 大分大学   | 前  | 2015<br>7/24-26                | M1<br>【北見】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【大分】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【電通】 | 9  |
| 2 現役社長の講話Ⅳ           | 北見工業大学 | 前  | 2015<br>8/19-21                | D1<br>【電通】 | D1<br>【電通】 | D1<br>【富山】 | M2<br>【電通】 | M2<br>【富山】 | M2<br>【富山】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | 10 |
| 3 現役社長の講話Ⅴ           | 室蘭工業大学 | 前  | 2015<br>9/3-5                  | D3<br>【電通】 | D2<br>【富山】 | D1<br>【電通】 | M2<br>【電通】 | M2<br>【富山】 | M2<br>【富山】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | 7  |
| 4 現役社長の講話Ⅵ           | 電気通信大学 | 前  | 2015<br>9/14-16                | D3<br>【電通】 | D2<br>【電通】 | D1<br>【電通】 | D1<br>【電通】 | M1<br>【北見】 | M1<br>【北見】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【電通】 | 10 |
| 5 国際科学技術コミュニケーション論   | 電気通信大学 | 前  | 2015<br>9/16-17                | D3<br>【電通】 | M2<br>【大分】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【大分】 | M1<br>【大分】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | 8  |
| 6 ロジカルシンキング          | 富山大学   | 後  | 2015<br>①10/17-18<br>②10/24-25 | D3<br>【電通】 | D2<br>【富山】 | D1<br>【電通】 | D1<br>【電通】 | D1<br>【電通】 | D1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | 10 |
| 7 現役社長の講話Ⅱ           | 富山大学   | 後  | 2015<br>11/27-29               | M2<br>【富山】 | M2<br>【大分】 | M1<br>【大分】 | M1<br>【北見】 | M1<br>【北見】 | M1<br>【北見】 |            |            |            |            |            | 4  |
| 8 大分地域における生物系資源の利用技術 | 大分大学   | 後  | 2015<br>12/12                  | D1<br>【電通】 | D1<br>【大分】 | M1<br>【北見】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | 10 |
| 9 ベンチャービジネス論         | 大分大学   | 後  | 2016<br>1/8-11                 | M2<br>【大分】 | M1<br>【北見】 | M1<br>【大分】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 | M1<br>【秋田】 |            |            |            |            | 6  |
| 10 現役社長の講話Ⅰ          | 秋田県立大学 | 後  | 2016<br>3/2-4                  | D1<br>【電通】 | D1<br>【富山】 | M1<br>【北見】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 |            |            |            |            |            | 5  |
| 合計                   |        |    |                                |            |            |            |            |            |            |            |            |            |            | 79         |    |

合計

2016年度

| 科目                 | 開講大学   | 学期 | 実施年月日                          | 受講生        |            |            |            |            |            |            | 合計<br>(名)  |            |   |
|--------------------|--------|----|--------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|---|
|                    |        |    |                                | 1          | 2          | 3          | 4          | 5          | 6          | 7          |            |            |   |
| 1 現役社長の講話Ⅳ         | 北見工業大学 | 前  | 2016<br>8/17-19                | D1<br>【大分】 | M2<br>【北見】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 |            | 6 |
| 2 現役社長の講話Ⅲ         | 大分大学   | 前  | 2016<br>8/26-28                | D2<br>【富山】 | M1<br>【富山】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 |            |            |            |            |            | 4 |
| 3 現役社長の講話Ⅴ         | 室蘭工業大学 | 前  | 2016<br>9/6-8                  | D2<br>【富山】 | D2<br>【大分】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 |            |            |            | 5 |
| 4 現役社長の講話Ⅵ         | 電気通信大学 | 前  | 2016<br>9/27-29                | D2<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 |            |            |            |            |            |            | 3 |
| 5 国際科学技術コミュニケーション論 | 電気通信大学 | 前  | 2016<br>9/30-10/1              | D2<br>【電通】 | M2<br>【北見】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 |            | 6 |
| 6 ロジカルシンキング        | 富山大学   | 後  | 2016<br>①10/15-16<br>②10/22-23 | M2<br>【北見】 | M2<br>【電通】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | 7 |
| 7 現役社長の講話Ⅱ         | 富山大学   | 後  | 2016<br>10/28-30               | M2<br>【電通】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 |            |            |            |            | 5 |
| 8 ベンチャービジネス論       | 大分大学   | 後  | 2017<br>1/6-9                  | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 |            |            |            |            |            |            |            | 2 |
| 9 現役社長の講話Ⅰ         | 秋田県立大学 | 後  | 2017<br>3/1-3                  | M2<br>【電通】 | M2<br>【電通】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【室蘭】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | M1<br>【電通】 | 6 |
| 合計                 |        |    |                                |            |            |            |            |            |            |            | 44         |            |   |

## 1. プログラム

## スーパー連携大学院「現役社長の講話Ⅳ」プログラム

## 【第1日：2016年8月17日(水)】

15:00～17:00 現役社長の講話(その1)・会社見学  
(株)福地工業(本社:北見市西三輪4丁目712番地)  
(工場:北見市西三輪3丁目735番地)  
講師:代表取締役社長 福地 博行 氏

## 【第2日：2016年8月18日(木)】

8:30～10:30 現役社長の講話(その2)・会社見学  
農業法人有限会社香遊生活(北見市柏木14-3)  
講師:代表 舟山 秀太郎 氏

10:30～12:30 移動・昼食

12:30～15:30 現役社長の講話(その3)・会社見学  
佐藤木材工業(株)(紋別市上渚滑町4丁目1番地)  
講師:代表取締役社長 佐藤 教誘 氏

18:30～20:30 主催者挨拶  
北見工業大学 学長 高橋 信夫  
情報交換会(オホーツクビアファクトリー)

## 【第3日：2016年8月19日(金)】

9:00～12:00 プレゼンテーション

## 1. プログラム

## スーパー連携大学院「現役社長の講話Ⅲ」プログラム

## 【第1日：2016年8月26日(金)】

13:00～18:00 徳器技研工業 株式会社 (宇佐市)  
工場見学・説明

株式会社 デンケン (由布市)  
工場見学・説明

## 【第2日：2016年8月27日(土)】 会場:ホルトホール大分

9:00～11:00 (1) 見学に関するまとめ  
(2) 講義に関する説明

11:00～12:30 昼食・休憩

12:50～14:20 講話1 : アイテック株式会社  
代表取締役社長 甲斐 厚 氏

14:35～16:05 講話2 : 株式会社デンケン  
代表取締役社長 石井 源太 氏

16:15～17:45 講話3 : 徳器技研工業株式会社  
代表取締役 徳永 修一 氏

※講演は質疑応答を含みます。講演実質時間は65～70分を予定しています。

17:55～20:30 議論・情報交換会(※移動時間を含む)

## 【第3日：2016年8月28日(日)】 会場:ホルトホール大分

8:50～10:20 プレゼンテーション

## 1. プログラム

## スーパー連携大学院「現役社長の講話V」プログラム

## 【第1日：2016年9月6日(火)】 見学(バスにて移動)

- 14:00～14:15 ガイダンス及び事前ワーク
- 14:15～15:15 株式会社永澤機械 工場 見学
- 15:15～15:30 事後ワーク及び事前ワーク
- 15:30～17:00 株式会社日本製鋼所 室蘭製作所 見学
- 17:00～18:00 事後ワーク
- 18:00～18:10 移動 ホテル前解散
- 18:10～18:30 移動 室工大正門前解散(室工大生)  
(各自工場見学レポート発表準備 2.5H相当)

## 【第2日：2016年9月7日(水)】 会場:室蘭工業大学

- 8:50～10:20 開講式・講義説明・発表  
主催者挨拶 室蘭工業大学 学長 くが 空閑 よしかず 良壽  
講義の概要進行説明  
工場見学レポート
- 10:30～12:00 講話(その1)  
株式会社永澤機械(室蘭市東町 3-1-5)  
ながさわ かつひろ  
講師:代表取締役 永澤 勝博 氏
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～14:30 講話(その2)  
日鋼検査サービス株式会社(室蘭市茶津町 4-1)  
なかむら つよし  
講師:代表取締役社長 中村 毅 氏
- 14:40～16:10 講話(その3)  
苫小牧港開発株式会社(苫小牧市入船町 2-9-15)  
いしもり りょう  
講師:代表取締役社長 石森 亮 氏
- 16:20～18:20 討論会
- 18:30～20:00 情報交換会

## 【第3日：2016年9月8日(木)】 会場:室蘭工業大学

- 9:00～12:10 まとめとレポート作成

## 2. 「現役社長の講話VI」プログラム

### 第1日：9月27日(火) 見学

- 10:00 集合 JR 京浜東北線 西川口 駅改札口前、徒歩にて移動
- 10:30～12:00 見学 (株)オプトエレクトロニクス(埼玉県蕨市塚越4-12-17)  
<http://www.opto.co.jp/>
- 12:00～13:00 昼食(オプトエレクトロニクス社員食堂、各自負担)、バスにて移動
- 14:30～16:00 見学 (株)井口一世(埼玉県所沢市所沢新町 2553 -3)  
<http://www.iguchi.ne.jp/>
- 16:00～ バスにて移動
- <司会:牧 昌次郎>
- 18:00～18:30 オリエンテーション(電気通信大学 西 11 号館 2 階ピクトラボ)

### 第2日：9月28日(水) 会場:西 11 号館 2 階ピクトラボ リビングルーム

- <司会:牧 昌次郎>
- 9:30～9:50 あいさつ 電気通信大学 副学長 <sup>ゆら けんじ</sup> 由良 憲二
- 9:50～10:30 オリエンテーション
- 10:30～12:00 講話(その1)と意見交換 <http://www.hakusan.co.jp/>  
<sup>よしだ みのる</sup> 白山工業(株) 代表取締役社長 吉田 稔
- 13:00～14:30 講話(その2)と意見交換 <http://www.opto.co.jp/>  
<sup>しむら のりあき</sup> (株)オプトエレクトロニクス 取締役会長 志村 則彰
- 14:40～16:10 講話(その3)と意見交換 <http://stack-elec.co.jp/>  
<sup>たじま みずや</sup> スタック電子(株) 名誉会長 田島 瑞也
- 16:20～16:50 講演 電気通信大学 学長 <sup>ふくだ たかし</sup> 福田 喬
- <司会:由良 憲二>
- 17:00～19:00 情報交換会(ピクトラボ プレイルーム)

### 第3日：9月29日(木) 会場:西 11 号館 2 階ピクトラボ リビングルーム

- <司会:牧 昌次郎>
- 9:00～9:10 オリエンテーション
- 9:10～12:00 レポート作成
- 13:00～15:00 レポート発表

## 1. プログラム

スーパー連携大学院  
「国際科学技術コミュニケーション論」(集合教育)

開催日時: 2016年9月30日(金)13:00 ~ 10月1日(土)14:30

会場: 電気通信大学(〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 地図 p.5)  
東3号館3階301

授業開始: 13時00分

### プログラム

**9月30日(金)** (東3号館3階301)

13:00~17:45      ・国際標準化・国際プロジェクトのグループワーク  
[大木教授、三木特任教授、高橋講師]

**10月1日(土)** (東3号館3階301)

9:00~14:30      ・プレスリリース文の発表と議論  
[山本佳世子講師]

## 1. プログラム

スーパー連携大学院  
「ロジカルシンキング入門・実践講座」

**(第1回 集合教育)**

開催日時: 2016年 10月 15日(土)8:45~18:00  
16日(日)8:45~14:30

会場: 富山大学 五福キャンパス(地図 p.5)  
〒930-8555 富山市五福 3190 番地  
総合教育研究棟(工学系) 1F クリエーションスペース

**10月15日(土)**

|             |    |    |        |
|-------------|----|----|--------|
| 8:45~12:00  | 講義 | 講師 | 三宅 建嗣氏 |
| 12:00~      | 昼食 |    |        |
| 13:00~18:00 | 講義 | 講師 | 三宅 建嗣氏 |

**10月16日(日)**

|             |    |    |        |
|-------------|----|----|--------|
| 8:45~12:00  | 講義 | 講師 | 三宅 建嗣氏 |
| 12:00~      | 昼食 |    |        |
| 13:00~14:30 | 講義 | 講師 | 三宅 建嗣氏 |

シラバス <http://www.super-daigakuin.jp/pdf/syllabus/057.pdf>

**(第2回 集合教育)**

開催日時: 2016年 10月 22日(土)8:45~18:00  
23日(日)8:45~12:00

会場: 富山大学 五福キャンパス(地図 p.5)  
〒930-8555 富山市五福 3190 番地  
総合教育研究棟(工学系) 1F クリエーションスペース

**10月22日(土)**

|             |    |    |        |
|-------------|----|----|--------|
| 8:45~12:00  | 講義 | 講師 | 三宅 建嗣氏 |
| 12:00~      | 昼食 |    |        |
| 13:00~18:00 | 講義 | 講師 | 三宅 建嗣氏 |

**10月23日(日)**

|            |    |    |        |
|------------|----|----|--------|
| 8:45~12:00 | 講義 | 講師 | 三宅 建嗣氏 |
|------------|----|----|--------|

## 1. プログラム

## スーパー連携大学院「現役社長の講話Ⅱ」プログラム

開催日時： 2016年10月28日(金)13:00～10月30日(日)12:15

会 場： 富山大学 工学部(富山市五福 3190 TEL:076-445-6701)

集合場所： 富山大学 黒田講堂前 13:00 集合(地図 p.7)

**【第1日： 2016年10月28日(金)】**

13:30～15:00 株式会社ユニゾーン 見学

15:30～17:00 富山テレビ放送株式会社 見学

**【第2日： 2016年10月29日(土)】**

9:00～10:00 レポート作成

10:15～12:15 現役社長の講話・質疑応答

株式会社牧田組

代表取締役社長 牧田 和樹 氏

12:15～ 昼食会

13:00～15:00 現役社長の講話・質疑応答

株式会社ユニゾーン

代表取締役会長 梅田 ひろ美 氏

15:15～17:15 現役社長の講話・質疑応答

富山テレビ放送株式会社

代表取締役社長 中西 修 氏

**【第3日： 2016年10月30日(日)】**

9:00～10:00 レポート作成

10:15～12:15 ショートプレゼンテーション

## 1. 「ベンチャービジネス論」プログラム

| 時限 | 時間     | 6日(金)                | 7日(土)           | 8日(日)                | 9日(月)        |
|----|--------|----------------------|-----------------|----------------------|--------------|
| 1  | 9:00～  |                      | 会計の基礎知識         | 資金ニーズの発生と<br>資金調達    | プレゼンテーション    |
| 2  | 10:40～ |                      | 企業の上場           | ベンチャー企業の成<br>功事例     | ディスカッション     |
| 昼休 | 12:10～ |                      |                 |                      |              |
| 3  | 13:10～ |                      | 企業の戦略           | 財務諸表分析               |              |
| 4  | 14:50～ |                      | 事業計画についての<br>説明 | 事業計画立案演習3            |              |
| 5  | 16:30～ | ガイダンス                | 事業計画立案演習1       | 事業計画立案演習4            |              |
| 6  | 18:10～ | ベンチャー企業・<br>産学連携について | 事業計画立案演習2       | 事業計画立案演習5            |              |
| 備考 | 提出物    | アンケート                | 会計演習レポート        | ベンチャー企業につ<br>いてのレポート |              |
|    |        |                      | 事業計画タイトル・概<br>要 | 事業計画書                |              |
|    | 部屋番号   | 410(4階)              | 410(4階):9時開錠    | 410(4階):9時開錠         | 410(4階):9時開錠 |

## 【注意事項】

\* 授業の内容、順序等は変更の可能性あり。

\* 会場のホルトホール大分には朝8:30から入場できますが、9:00以降でないと利用する部屋(4階の410)には入室できません(部屋の鍵の手渡しは9:00少し前の決まりのため)。そのため、7-9日の朝は9:00直前に「410(4階)」に来るようにしてください。

【会場】ホルトホール大分(大分駅南口 駅前広場前):大分市金池南1-5-1

TEL097-576-7555(information)、097-576-8877(総合受付) <http://www.horutohall-oita.jp/access/>

## 1. プログラム

### スーパー連携大学院「現役社長の講話 I」プログラム

開催日時： 2017年3月1日(水)13:00 ～ 3月3日(金)12:00

会 場： 公立大学法人秋田県立大学 本荘キャンパス

K318 教室(秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4)

#### プログラム

#### 【第1日:3月1日(水)】

15:30～ 企業見学

天寿酒造株式会社

由利高原鉄道株式会社

#### 【第2日:3月2日(木)】

8:30～ オリエンテーション

9:00～ 秋田産業史 谷内 宏行教授

10:50～ 現役社長の講話・質疑応答

由利高原鉄道 株式会社

代表取締役社長 春田 啓郎 氏

13:20～ 現役社長の講話・質疑応答

田口木材 株式会社

代表取締役社長 田口 知明 氏

15:00～ 現役社長の講話・質疑応答

株式会社 ヤマダフーズ

代表取締役社長 山田 伸祐 氏

18:00～ 情報交換会

#### 【第3日:3月3日(金)】

8:50～ レポート作成

# 1. プログラムおよび日程

| 2016 夏休み英語特別プログラム(8月29日～31日) 予定 |                                       |                                       |                        |
|---------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 時間                              | 8月29日(月)<br>14:00～20:00               | 8月30日(火)<br>9:00～20:30                | 8月31日(水)<br>9:00～12:00 |
| 9:00                            |                                       | 9:00～                                 | 9:00～                  |
| 10:00                           |                                       | 英語学習                                  | 英語学習・まとめ               |
| 11:00                           |                                       |                                       |                        |
| 12:00                           |                                       | Lunch                                 | 12:00 終了・解散            |
| 13:00                           |                                       |                                       |                        |
| 14:00                           | ・・・14:00 開始                           | 13:00～<br>みなさんの発表の時間(研究)              |                        |
| 15:00                           | 14:00～<br>互いを知る(留学生2名が参加)             | 14:20～<br>英語学習(留学生1名のプレゼン<br>テーションあり) |                        |
| 16:00                           | 15:20～<br>英語学習(留学生1名のプレゼン<br>テーションあり) |                                       |                        |
| 17:00                           |                                       | 16:20～                                |                        |
| 18:00                           | 17:20～<br>みなさんの発表の時間(自己紹介)            | 英語学習                                  |                        |
| 19:00                           | 18:30～                                |                                       |                        |
| 20:00                           | 懇親の時間(留学生2名が参加)                       | 19:00～<br>懇親の時間(留学生2名が参加)             |                        |
| 21:00                           |                                       |                                       |                        |

| 年度   | No. | 発行日       | タイトル                                                                                            |
|------|-----|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2015 | 1   | 2016/1/13 | 【英語学習補助教材 No.1】映画『杉原千畝』中の英語表現(設問、解答、関連wikipedia)                                                |
|      | 2   | 2016/2/1  | 【英語学習補助教材 No.2】「The River Kamo」                                                                 |
|      | 3   | 2016/2/8  | 【英語学習補助教材 No.3】 How to write a plain paragraph :My dream is to ...                              |
| 2016 | 4   | 2016/5/25 | 【英語学習補助教材 No.4】「なぜ the なのか」                                                                     |
|      | 5   | 2016/5/26 | 【英語学習補助教材 No.5】季節「の」ことば                                                                         |
|      | 6   | 2016/5/31 | 【英語学習補助教材 No.6】【英語ライティングレッスン(基礎)】平易で立派な英語(学部1年生)                                                |
|      | 7   | 2016/5/31 | 【英語学習補助教材 No.7】英語を書く:冠詞、動詞(admit)                                                               |
|      | 8   | 2016/5/31 | 【英語学習補助教材 No.8】伊藤若冲                                                                             |
|      | 9   | 2016/5/31 | 【英語学習補助教材 No.9】 Joy of having a foreign friend                                                  |
|      | 10  | 2016/5/31 | 【英語学習補助教材 No.10】 山田先生、でなく、山田さん                                                                  |
|      | 11  | 2016/5/31 | 【英語学習補助教材 No.11】 Importance and Joy of Paraphrasing                                             |
|      | 12  | 2016/6/9  | 【英語学習補助教材 No.12】溜息の英語                                                                           |
|      | 13  | 2016/6/20 | 【英語学習補助教材 No.13】【Basic】英語ワンポイントレッスン:主語は人? It is very grateful for us if you would kindly ..     |
|      | 14  | 2016/6/20 | 【英語学習補助教材 No.14】Homage to a Flea Market                                                         |
|      | 15  | 2016/6/20 | 【英語学習補助教材 No.15】スピーチでの失語(言い淀み)、あるいは、メッセージを運ぶ人間の姿                                                |
|      | 16  | 2016/6/20 | 【英語学習補助教材 No.16】ことばに歴史あり:egg cream とユダヤ人(映画"Vanishing Act" から)                                  |
|      | 17  | 2016/6/20 | 【英語学習補助教材 No.17】Alleged という語。Wikipedia を自由に読める日                                                 |
|      | 18  | 2016/6/21 | 【英語学習補助教材 No.18】英語弁論大会                                                                          |
|      | 19  | 2016/6/23 | 【英語学習補助教材 No.19】強弱のリズム                                                                          |
|      | 20  | 2016/6/24 | 【英語学習補助教材 No.20】Writing Seminar: One-sided argument 原稿へのコメント                                    |
|      | 21  | 2016/6/27 | 【英語学習補助教材 No.21】An attractive Japanese suffix                                                   |
|      | 22  | 2016/6/28 | 【英語学習補助教材 No.22】Invitation to Finland (6.29 (Wed) 17:00-19:00)                                  |
|      | 23  | 2016/6/28 | 【英語学習補助教材 No.23】Vocabulary for TOEFL: 'frugal' and 'predator'                                   |
|      | 24  | 2016/7/4  | 【英語学習補助教材 No.24】 Surprise of surprises: second-hand bookstores in Aoyama, Tokyo                 |
|      | 25  | 2016/7/4  | 【英語学習補助教材 No.25】 Four students for a trip with foreigners in Tokyo                              |
|      | 26  | 2016/7/7  | 【英語学習補助教材 No.26】 A letter to an Israeli: Fwd: Four students for a trip with foreigners in Tokyo |
|      | 27  | 2016/7/7  | 【英語学習補助教材 No.27】 Importance of a smile                                                          |
|      | 28  | 2016/7/7  | 【英語学習補助教材 No.28】 A lesson by a foreign student with 11 1st-year junior high students            |
|      | 29  | 2016/7/11 | 【英語学習補助教材 No.29】 An old, distinctive house in Kichijoji                                         |
|      | 30  | 2016/7/11 | 【英語学習補助教材 No.30】 I will ease your mind. (Simon and Garfunkel)                                   |
|      | 31  | 2016/7/12 | 【英語学習補助教材 No.31】 In praise of a certain group for their joint efforts                           |

| 年度 | No. | 発行日                  | タイトル                                                                                          |
|----|-----|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 32  | 2016/7/19            | 【英語学習補助教材 No.32】 A reply to a mail from an Israeli traveller to Hiroshima, Miyajima and Kyoto |
|    | 33  | 2016/7/19            | 【英語学習補助教材 No.33】 Oh, dear! ⇒ The town where takes care of the nature and the environment.     |
|    | 34  | 2016/7/21            | 【英語学習補助教材 No.34】 Shinto: a speech by a Japanese 3rd-year student                              |
|    | 35  | 2016/7/22            | 【英語学習補助教材 No.35】 Invitation to a seminar on Israel                                            |
|    | 36  | 2016/7/22            | 【英語学習補助教材 No.36】 A decent youth                                                               |
|    | 37  | 2016/7/27            | 【英語学習補助教材 No.37】 Noboranaide kudasai. vs. Noboranaide ne?                                     |
|    | 38  | 2016/8/18            | 【英語学習補助教材 No.38】 調布灯籠流し                                                                       |
|    | 39  | 2016/08/23 (火) 15:34 | 【英語学習補助教材 No.39】 A firework                                                                   |
|    | 40  | 2016/08/23 (火) 15:39 | 【英語学習補助教材 No.40】 Governor KOIKE's speech                                                      |
|    | 41  | 2016/09/05 (月) 10:00 | 【英語学習補助教材 No.41】 The subject should not be changed unless otherwise needed.                   |
|    | 42  | 2016/09/08 (木) 9:56  | 【英語学習補助教材 No.42】 「摩訶」不思議 と「マハ」トマ・ガンディ                                                         |
|    | 43  | 2016/09/08 (木) 10:36 | 【英語学習補助教材 No.43】 No seminar for today / 台風への懸念(アメリカの研究者の報告)                                   |
|    | 44  | 2016/09/09 (金) 9:52  | 【英語学習補助教材 No.44】 志: 学生時代のトルコとの出会い Fwd: information from Youkobo Art Space                     |
|    | 45  | 2016/09/20 (火) 11:12 | 【英語学習補助教材 No.45】 シエラレオネという国(プラス、求む 通訳)                                                        |
|    | 46  | 2016/09/23 (金) 9:31  | 【英語学習補助教材 No.46】 手で紙に書く(その訂正等)                                                                |
|    | 47  | 2017/01/10 (火) 10:27 | 【英語学習補助教材 No.47】 Etymology (1) Prefix 'ad-' in 'ASsimilation' and 'ANnexation'                |
|    | 48  | 2017/01/13 (金) 15:21 | 【英語学習補助教材 No.48】 Correspondence with a youth from India Fwd: Re: Happy New Year 2017          |
|    | 49  | 2017/01/18 (水) 9:30  | 【英語学習補助教材 No.49】 Synonyms: 'polymath' and 'versatile'                                         |
|    | 50  | 2017/01/18 (水) 13:36 | 【英語学習補助教材 No.50】 TOEFL ITP (TOEIC) Grammar Lesson (No redundancy)                             |
|    | 51  | 2017/01/27 (金) 9:15  | 【英語学習補助教材 No.51】 精進: 稀勢の里と白鵬                                                                  |
|    | 52  | 2017/01/30 (月) 11:43 | 【英語学習補助教材 No.52】 Something is better than nothing. / 「負け越し」を英語では?                             |
|    | 53  | 2017/02/06 (月) 15:27 | 【英語学習補助教材 No.53】 物理学のワークショップ案内                                                                |
|    | 54  | 2017/02/07 (火) 9:16  | 【英語学習補助教材 No.54】 修士1年生(瀧研究室(3類))の書いた論文                                                        |
|    | 55  | 2017/02/13 (月) 10:07 | 【英語学習補助教材 No.55】 A young Indian physicist who has pursued his way                             |

# 「グリーンフロート構想」説明会

赤道直下の海上に10万人が暮らす巨大海上都市を築く

## TBS「夢の扉+」で紹介!

本放送：7月21日（終了）

BS-TBS：7月25日午後11:00～

TBSニュースバード：7月27日午後9:00～

【日時】 8月1日（木） 16:00～17:30

【場所】 東3号館 3F 301会議室（事前申し込み不要）

【対象】 本学教職員、学生、電通大（首都圏）地域コア関係者

【内容】

### (1) グリーンフロート構想について

清水建設（株）設計・プロポーザル統括 企画管理部 主査

吉田 郁夫 氏

### (2) スーパー連携大学院の取組み

電気通信大学 スーパー連携大学院推進室 統括コーディネーター

宇梶 純良

### (3) プロジェクトが必要とする研究テーマと要素技術

野村證券（株）金融公共公益法人部 産学官連携シニアマネージャー

平尾 敏 氏

### (4) 研究会への登録方法について

電気通信大学 スーパー連携大学院推進室

産形 峰久

この構想の実現に向けて、提案者である清水建設（株）と、野村證券（株）、スーパー連携大学院コンソーシアムが協定を結び、「グリーンフロート構想研究会」を設置して全国的に展開されています。電気通信大学は、スーパー連携大学院の取組みを通じてグリーンフロート構想の推進に参加しています。



三者協定締結の様子（平成22年5月10日） 清水建設（株）宮本洋一代表取締役社長（左）・スーパー連携大学院コンソーシアム梶谷誠会長（電気通信大学長・中央）野村證券（株）渡部賢一執行役社長兼CEO（右）



直径3kmの円形フロートの中心に、高さ1kmのタワー上の空中都市を構築 連結してモジュール化、ユニット化することで、国家規模までの拡大を想定



QRコード：清水建設（株）ホームページ  
グリーンフロート説明ページ  
<http://www.shimz.co.jp/theme/dream/greenfloat.html>

スーパー連携大学院推進室・産学官連携センター  
問い合わせ先：スーパー連携大学院推進室 宇梶・産形  
内線5939 ukaji@super-daigakuin.jp, ubukata@super-daigakuin.jp

## 清水建設技術研究所 見学会プログラム

10年後を準備する

— 新たな技術と価値の創造を目指して—

### 記

1. 日時 平成 25 年 9 月 24 日 (火) 14 時 ~ 17 時

2. 場所 清水建設株式会社 技術研究所

東京都江東区越中島 3 丁目 4 番 17 号 (最寄駅: JR 越中島駅)

<http://www.shimz.co.jp/about/network/giken.html>

3. 主催 グリーンフロート構想研究会

3. スケジュール

① 研究所概要説明 14:00~14:20

② 研究施設見学 14:20~16:00

#### 【見学施設】

本館、振動実験棟、遠心実験棟、耐火実験ブロック、エネルギープラント  
多目的実験棟、風洞実験棟、音響実験棟、サイバー実験棟、ビオトープ  
材料実験棟、大型構造実験棟・クリーンルーム実験棟

③ 「グリーンフロートプロジェクト」についての説明 16:00~16:20

清水建設(株) コーポレート・コミュニケーション部 副部長 伊藤 篤氏

④ 意見交換会 16:20~17:00

以上

## グリーンフロート構想 海洋環境研究フォーラム 第2回 会合

2013年12月25日(水) 13:30～  
 東京大学理学部1号館 851号室

## 1. 委員名簿(五十音順)

|     |        |                  |
|-----|--------|------------------|
|     | 岡 英太郎  | 東京大学             |
|     | 茅根 創   | 東京大学             |
|     | 桑江 朝比呂 | (独)港湾空港技術研究所     |
|     | 佐藤 徹   | 東京大学             |
| 委員長 | 鈴木 昌弘  | (独)産業技術総合研究所     |
|     | 竹内 真幸  | 清水建設(株)          |
|     | 多部田 茂  | 東京大学             |
|     | 張 勁    | 富山大学             |
|     | 塚崎 あゆみ | (独)産業技術総合研究所     |
|     | 津田 敦   | 東京大学             |
| 事務局 | 宇梶 純良  | スーパー連携大学院コンソーシアム |
|     | 産形 峰久  | スーパー連携大学院コンソーシアム |

## オブザーバー参加

|  |       |             |
|--|-------|-------------|
|  | 小野 洋  | 電気通信大学      |
|  | 丹治 則行 | (一社) コラボ産学官 |
|  | 江原 秀敏 | (一社) コラボ産学官 |

## 2. 議事

- ・ これまでの経緯説明(鈴木)
- ・ スーパー連携大学院 グリーンフロート構想研究会の紹介(宇梶)
- ・ 2014年度日本海洋学会春季大会シンポジウム「海洋の産業利用の現状と展開」について(鈴木)
- ・ グリーンフロート構想の紹介(竹内)
- ・ ディスカッション

## 3. その他

## 赤道直下のグリーンフロートにおける砂耕稲作の第3回研究フォーラム

## ～ 課題の具体化に向けて ～

秋田県立大学が参画しているスーパー連携大学院の事業の中に「グリーンフロート構想 (GF) -やさしく暮らす、未来・植物質な未来都市構想・環境アイランド GREEN FLOAT」があります。熱帯の人工浮島での食料生産の一環としての稲作の技術的課題を対象に、「赤道直下の GF における砂耕稲作の研究」のフォーラムが2011年11月以来取り組まれてきました。熱帯海上に設置される直径3kmの人工島での数万人の知的生活を食の基盤の側面と、田園風景による精神的側面から支えるイネ生産技術を、日本に蓄積された研究・技術を活用して作り上げる作業となります。そこで、赤道直下の環境での栽培を想定したイネの品種開発の話題と、GFでのイネ栽培技術の具体化に向けた論議を焦点に、第3回フォーラムを以下の要領で開催することとしました。多くの教員・学生のみなさまの参集と積極的なご提案をお願いいたします。

## 記

と き：2014年3月18日(火) 14:00～17:30

と ころ：秋田県立大学大学院棟 M109

## プログラム

14:00-14:10 開会あいさつ



インド洋 (スリランカ西海岸)

小林 淳一 秋田県立大学理事・副学長

14:10-15:10

## ゲノム解析に基づく広域適応性イネ開発の展望

(グローバル化時代と地球温暖化に適したイネゲノム育種の経緯と今後の応用)

富田 因則 静岡大学グリーン科学技術研究所 教授

15:10-15:40

## グリーンフロートでのイネ生産技術の骨格と技術課題

(「人工水田の機能と構造」、「対暑性、耐塩性品種」、「砂耕での作期・生育調節」、「雑草、病害虫対策」、「肥料・水」などの項目で、GFで想定されるイネ生産技術要素の選定、組み立ておよび研究開発について提案)

森田 弘彦・永澤 信洋 秋田県立大学生物資源科学部

15:40-15:50

— 休憩 —

15:50-17:15

## 総合討論：GFでのイネ生産技術イノベーション課題の具体化をめぐって

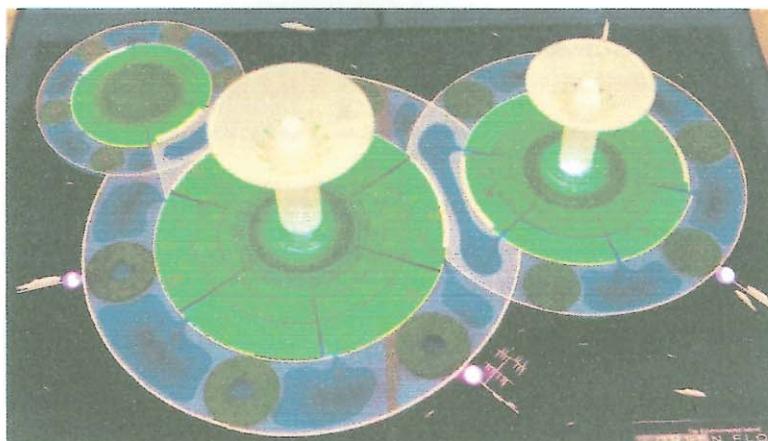
前項での「提案」を「技術イノベーション」と「ビジネスモデル」の観点から討議

17:15-17:30

今後の進め方

17:30

閉会



グリーンフロート模型 (提供：清水建設株式会社)

連絡先：秋田県立大学生物資源科学部  
 生物生産科学科 森田弘彦  
[himorita@akita-pu.ac.jp](mailto:himorita@akita-pu.ac.jp) (事前申し込み不要です)

# グリーンフロート構想研究会 第11回状況報告会

## プログラム

- 【1】日時 平成26年7月17日(木) 15:00~17:35 (情報交換会 19:00まで)  
 【2】場所 東京都千代田区大手町2-2-2アーバンネット大手町ビル  
 野村證券株式会社 6階 6-1会議室  
 【3】主催 グリーンフロート構想研究会  
 (清水建設株式会社、野村證券株式会社、スーパー連携大学院コンソーシアム)  
 【4】資料代 1,000円 (情報交換会参加の場合 +1,000円)  
 【5】内容

### ーグリーンフロートにおける水産資源を活用したビジネスモデル構築への提言ー

●開会挨拶 (15:00 ~15:05)

野村證券株式会社 金融公共公益法人部長 太野 敦幸氏

●テーマ説明 (15:05 ~15:20)

清水建設株式会社 設計・プロポーザル統括  
 環境・技術ソリューション本部 本部主査 竹内 真幸氏

●成果発表① (15:20 ~ 16:05)

『近大マグロ養殖事業の展開について』

近畿大学 水産研究所長 教授 宮下 盛 氏

●成果発表② (16:05 ~ 16:50)

『赤道直下でのキハダ養殖の技術課題』

近畿大学 水産研究所 教授 澤田 好史氏

●成果発表③ (16:50 ~ 17:35)

『海の宝 超チョウザメ育成プロジェクト』

株式会社フジキン 工場部門技術本部筑波フジキン研究工場  
 新製品開発部開発4グループグループリーダー 平岡 潔 氏

\*情報交換会 17:45 ~ 19:00 (同ビル14階 野村カフェにて)

以上

# グリーンフロート構想研究会 第12回状況報告会

## プログラム

- 【1】日時 平成26年11月20日(木) 15:00～17:30 (情報交換会 19:00まで)  
 【2】場所 東京都千代田区大手町2-2-2 アーバンネット大手町ビル 野村證券株式会社 6階会議室  
 【3】主催 グリーンフロート構想研究会  
 (清水建設株式会社、野村證券株式会社、スーパー連携大学院コンソーシアム)  
 【4】資料代 1,000円 (情報交換会参加の場合、+1,000円の参加費)  
 【5】内容

### — 超電導技術の産業応用とグリーンフロートへの効果的活用について —

- 進行説明・連絡事項 (15:00～15:05)

事務局

- 今回のテーマ説明 (15:05～15:20)

清水建設(株) 設計・プロポーザル統括環境・技術ソリューション本部 本部主査 竹内 真幸 氏

- 成果発表① (15:20～16:20)

『超電導ケーブルが世界の鉄道を変える!』

鉄道総合技術研究所 超電導応用研究室長 富田 優 氏

- 成果発表② (16:20～17:20)

『極低温冷却技術と新しいエネルギー・インフラ』

株式会社前川製作所 監事 玉田 紀治 氏

- 事業説明 (17:20～17:30)

グリーンフロート構想研究会の今後の活動について

グリーンフロート構想研究会事務局 (世話人代表) 宇梶 純良

\*情報交換会 17:45～19:00 (同ビル14階 野村カフェにて)

以上

## ニーズ・シーズ情報募集のご案内

スーパー連携大学院 ニーズ・シーズ情報メール

★ニーズ・シーズ情報募集のご案内

スーパー連携大学院は、産学官連携の共同研究プロジェクトをベースとし、「産業界で活躍するイノベーション人材の育成」に取り組んでおります。

優秀な人材の採用や、大学研究室との連携を密にし、大学院生も参画する共同研究等を期待される企業・団体様に会員としてご参加いただいております。

本年度より会員企業・大学間の産学官連携マッチングを推進し、様々なコミュニケーションの場となるようニーズ・シーズに関する情報発信を定期的に行っております。

ご提供いただいた情報をスーパー連携大学院の全国ネットワークに載せてメール配信を行い、大学シーズや研究者、共同研究企業の探索・マッチングに役立てられるよう有益な情報の構築を進めておりますが、現在、皆様からの「ニーズ・シーズ情報」を幅広く募集しております。

会員サービスの一環としてぜひニーズ・シーズ情報をお寄せいただき、お試しください。よろしくお願い申し上げます。

- ◆企業⇒大学 研究者・新技術・特許を探している！！
- 直面している技術課題を解決できる研究者がいないか
- 長期的に検討している開発テーマに関する新技術・特許が無いか
- 社内蓄積している技術・知財等を有効に活用できないか

## 【企業の皆様よりご提供いただきたい情報】

- ①背景
  - ②実用化の展望(想定される用途・産業等)
  - ②開発の課題
  - ③必要とする技術や知財の内容
- \* 情報公開の範囲についてご希望があれば承ります。

- ◆大学⇒企業 共同研究企業を探している！！
- 実用化を進めるための共同研究企業を探している
- 産学連携共同研究により、効果的な公的研究資金を獲得したい
- 量産化の優れた技術、経験を持つ製造企業を探している

## 【大学の皆様よりご提供いただきたい情報】

- ①提案技術の内容
- ②従来技術との比較、優位性
- ③実用化へ向けての課題(軽量化、小型化、省エネ化等)
- ④想定される用途(産業応用の事例)
- ⑤企業への期待(どんな企業と・どんな内容を)

ニーズ・シーズ情報メール バックナンバー <http://www.super-daigakuin.jp/nsmail.html>

|            |                                                      |
|------------|------------------------------------------------------|
| 2016.10.18 | 北見工業大学「常識を覆す低温高性能コーティング技術」                           |
| 2016.10.3  | 室蘭工業大学「様々な物質をナノサイズに粉碎！」                              |
| 2016.8.4   | 電気通信大学「スーパー連携大学院受講生の研究成果紹介～画期的ながん治療・再生医療用研究ツール販売開始～」 |
| 2016.7.19  | 秋田県立大学「さまざまな性質をもった米澱粉の工業利用」                          |
| 2016.7.1   | 富山大学「ダイカスト成形性に優れた高靱性アルミニウム合金材料の開発」                   |
| 2016.6.8   | 電気通信大学「オノマトペで表される見た目、手触り、味、食感などを製品・サービスとして実現する新技術」   |
| 2016.5.20  | ニーズ・シーズ情報募集のご案内                                      |
| 2016.4.18  | 室蘭地域企業ニーズ情報「低温排熱の活用に関して」                             |